

慶応義塾大学図書館蔵『釈迦如来八相次第』翻刻と解題

小峯和明・吉橋さやか・長谷川奈央・塩川和広・糸汐里

解題

小峯和明

はじめに

釈迦の生涯を語る物語を「仏伝」もしくは「仏伝文学」と呼ぶ。インド、西域、中国、朝鮮半島、日本と仏教の伝来や流布とともに東アジアの漢字漢文文化圏にひろがり、地域や時代ごとに様々な「仏伝文学」が生み出された。南インドから東南アジアにひろまった南伝仏教も同様である。日本の〈仏伝文学〉に関してはすでに黒部通善『日本仏伝文学の研究』があるが、しいていえば、『今昔物語集』をはじめ古代の文学が中心で、中世では『釈迦の本地』、近世は『釈迦八相物語』などの伝本提示にとどまるものであった。

その後、後藤昭雄氏が永徳三年（一三八三）の本奥書をもつ河内金剛寺蔵の天台系の仏伝『教児伝』を紹介（後に龍門文庫本も）、

筆者が名古屋の真福寺所蔵の『釈迦如来八相次第』（上巻のみの残欠）を紹介し、さらに真福寺善本叢刊『中世仏伝集』において、湯谷祐三氏が名古屋の華藏寺所蔵『釈迦如来八相次第』の完本を紹介、初めてその全貌が明らかになった。ことに華藏寺本は天文二十一年（一五五二）の奥書を持ち、上巻は文安四年（一四四七）、下巻は康応元年（一三八九）の本奥書がそれぞれあり、それを信ずれば成立が十四世紀末期、南北朝内乱期以前に遡ることになる。また華藏寺本は仁和寺真乗院の朱印があり、伝来面からも注目される写本である。

その後、筆者が二〇〇二年に慶応大学図書館所蔵の完本を見だし、また二〇〇七年、石川透氏所蔵の上巻のみの残欠本を知るに及んで、『釈迦如来八相次第』の少なからぬ流布の様相が浮かび上がった。とりわけ石川透本は、天文八年（一五三九）の奥書を持ち、華藏寺本より書写が十三年遡るもので、書写年次が明確な伝本中、最も古いものであることが判明した。

いずれにしても、現存四点の写本のことごとくが十六世紀、中世後期の書写であり（真福寺本、慶応本ともに奥書がないが、十六世紀を下らないことは確実視される）、しかも十四世紀の南北朝期の成立とすれば、『教児伝』とも時代が共通する。中世の仏伝といえ、従来は『釈迦の本地』だけが知られていたが、『教児伝』、『釈迦如来八相次第』やこれも『中世仏伝集』で紹介した栄西仮託の『釈迦八相』等々、複数のテキストの存在が明らかになり、あらたな研究段階を迎えたといえる。

真福寺善本叢刊の刊行後に見いだした慶応本と石川透本の早急な紹介は筆者の責務であったが、多忙と怠慢により棚上げされたままになっていた。この度、科学研究費の助成により、かつての大学院ゼミのOBの手助けを得られて、ようやく慶応本の翻刻を中心に他本と校合するかたちで公刊の運びとなったものである。

書誌

慶応義塾大学図書館本

請求番号 I10X334-1

写本一冊

表紙 茶地、無紋 見返し…素紙 後表紙・別装 薄茶地、雷文
繋ぎ型押し文

装幀 袋綴・四つ目

外題 釈尊八相次第上下（中央・直筆） 表紙右肩に「録」（別

筆）

内題 釈迦八相次第上 五三丁オ…釈迦八相ノ下

寸法 縦二三・一、横一七・二糎

丁数 八十六丁 一面九行

表記 漢字片仮名交じり、一部に小書き、付訓、返り点あり。後筆もあり。

別筆のイ本注記あり。

料紙 楮紙 第二、三紙のみ雲母刷り

末尾 月明荘の朱印

第一丁表は、転輪聖王の七宝及び歴代の王統譜を記す。

帙 紺地巾繫ぎ 四花弁

外題 釈尊八相次第上下 天文頃古写本 カナ交り 合一冊

石川透本

写本一冊 上巻のみ存 天文八年（一五三九）書写

表紙 無紋素紙 見返し…素紙

装幀 袋綴 四つ目

外題 釈迦八相 上巻（中央・直筆） 表紙左袖に秀海

内題 釈迦八相記上

寸法 縦二二・五、横一七・一糎

丁数 二十六丁 一面十行

表記 漢字片仮名交じり 一部に小書き、返り点あり。

料紙 楮紙

奥書 天文八年己亥卯月十五日 祐遵書筆

左脇に「主沙門圓有」 右脇に別筆で「秀海和尚之」

印 表紙に「秀海」の朱印

末尾 本文「或時二太子第一ノ后耶輸陀羅女ノ床ニ御寝シ給ヘリ」
(慶応本・三八丁オ3行) まで。

別筆で、「十五国部 舍利弗告命三十七ヶ処也

東夷、西戎、南蛮、北狄、天竺、唐土、震旦、漢
朝、宋朝、高麗、伯齊、新羅、蒙古、多堪国トモ
云、日本、日域トモ云、扶桑国、豊葦原、秋津国
トモ云、狼嶋、鬼鹿、身毒ノ天竺也」

裏表紙

已者ノ海ニ流ヲ見テ 伊勢ノ臣官

我も又いつかあの身になるみ方哀なりけりみのおほりかな

住吉ノ歌

仏には心からにそなるみ方身はいつくにもおきつ白波

左袖に「今文」^② 龍 花押」

構成

本書は成立に関して充分解明されたわけではないが、十四世紀以前の形成と思われ、有名な『釈迦の本地』に先行する本格的な中世の仏伝物語である。古代までは十二世紀の『今昔物語集』に代表さ

れるように、個別の話譚の集積としての仏伝だったのが、仏伝經典をふまえつつも、初めて仏伝全体の一貫したストーリーの物語に結実したわけで、日本文化の趣向や教養にかなう物語変成にはそれだけの熟成が必要だったということだろう。以後、『釈迦の本地』をはじめ、『釈迦八相物語』『釈尊一代記図会』『釈迦八相倭文庫』等々、中世から近世期を貫いて、陸続と〈仏伝文学〉が花開いていくのである。

『釈迦如来八相次第』はその名の通り、釈迦の生涯を八段階に分ける「釈迦八相」に即した次第、顛末を語るもので、八相の具体は結末で「生天相」「託胎相」「出家相」「降魔相」「成道相」「転法輪相」「涅槃相」とまとめられる通りである。慶応本の末尾に「此八相皆上ニ書ケリ。其次第ヲ知ベシ。大概如此也」(86ウ、華藏寺本なし)とあるのが書名の由来ともいえる。冒頭の王統譜から釈迦の仏伝に移行する辺りにも、「此仏ニ付テ八相成道次第」(7オ)とある(華藏寺本「八相成道ノ次第アリ」)。「次第」はもともとと法会用語でもあるから、法会の教釈などで語られる仏伝を基盤にすることは間違いない。

現存完本の慶応本は上下二巻の一冊本、華藏寺本は上中下三巻の二冊本である。両本とも上巻は、悉達太子が出家して「優留頻羅聚落」で苦行するのを、王の厳命を受けた優提が説得して連れ戻そうとするが太子は頑として聞かず、そのすきに魔王が変化して王宮に入り、太子が苦行がもとで亡くなった旨を伝え、宮中が悲嘆に包ま

れるところで終わる（この魔王の変化に関しては典拠未詳）。上巻のみの真福寺本も同様で、石川本はそれよりさらに前の出城前後で終わっていて、以後は残存しない。また、華藏寺本の中下巻の分け目は、舍衛国の須達長者に迎えられた釈迦が先に弟子の舍利弗を派遣するくだりであり、あまり区分けの必然性がないように思われる。

慶応本の第一丁表は、転輪聖王の七宝及び歴代の王統譜を記す。これは他の（仏伝文学）にあまり見られない特徴である。冒頭に「仏本行経ニ云、劫初転輪聖王ヲハシキ」とあるように、『仏本行集経』にもとづくもので、日本の（仏伝文学）には少ない王統譜に依拠している。転輪聖王の七宝の注解をはじめ、悉達太子に至る王統譜がたどられる。いわば、釈迦族の起源にまつわる建国神話が展開され、大茅草王から甘蔗王、その王子の流離といった王国起源譚があらためて注目されるだろう。また、一般の仏伝に反して、耶輸陀羅との結婚が四門出遊よりも後に位置する構成をとり、中世仏伝の典型をなしている。太子と耶輸陀羅との前世をめぐる話題をはじめ、そのやりとりも物語的興趣に富んでいる。

構成上、八相の前半の出家までが詳しく、後半は比較的展開が早くなり、特に転法輪は簡略である。慶応本と華藏寺本のみの後半部でいえば、下山した釈迦の乳粥をめぐる条や成道後の父王への教化、羅睺羅との対面、耶輸陀羅が火穴に息子の羅睺羅を突き落とす話題、難陀の出家機縁の天界と地獄めぐりの話題、須達や波斯匿王らによる祇園精舎の創始、それにまつわる舍利弗と外道の験くらべ（敦煌

変文で名高い「労度者変」等々がきわだっており、父王の最後をみとり、釈迦が自ら棺を運ぶ話題など、「孝養報恩」が強調され、涅槃、分舍利で物語は閉じられる。

本文の差違

『釈迦如来八相次第』の特徴についてはすでに拙稿で紹介し、『真福寺善本叢刊』の湯谷解題にも述べられているが、ここでも少しくふれておきたい。

まず本文に関しては、諸本間で異本というほどの隔たりはないものの、細部まで四伝本間で完全に一致するものではなく、相互に語句や表現などの出入りや異同も甚だしく、系統立てることが難しい。冒頭部分でみれば、

① 釈迦ト者、名テ能トス。牟尼トハ名テ忍ト云。故ニ釈迦牟尼ヲ能忍ト云。仏トハ此ニハ覺ノ義也。釈迦ハ姓也。衆生ノ人ノ中ノ悉達太子ノ諸法ヲ覺リ開クヲ、釈迦牟尼仏ト名ク。（慶応本・1ウ）

釈迦、此ニハ能ト云。牟尼、此ニハ忍ト云。故ニ釈迦牟尼ヲ能忍ト云フ。仏トハ、此ニハ覺ノ義也。釈迦ハ姓也。釈迦ハ衆生ノ人ノ中ニ、悉達太子トテ諸法ヲ覺リ開テ、釈迦牟尼仏ト名ク。（真福寺本）

釈迦者、名テ能トス。牟尼ト者、忍ト云。釈迦牟尼トハ能忍ト云ヘリ。仏者、覺ノ義、釈迦ハ姓也。釈迦、種姓ノ人ノ中ニ、

悉達太子諸法ノ悟ヲ開ヲ、釈迦牟尼仏ト名ク。(華藏寺本)

釈迦ト者、能ト名。牟尼ト者、忍ト名。牟尼、能仁ト云。仏

ト者、天竺ノ語、此ニハ覺ト名。釈迦、種姓人中ニ、悉達太子
トテ諸法ヲ覺リ開クヲ、釈迦牟尼仏ト名。(石川透本)

* 石川本は漢文体表記で返り点が打ってあるが、今便宜
上、開いて表記する。

一見して最初の二本、慶応本・真福寺本に対して、後の二本、華
藏寺本・石川本との二系になることが分かるが、真福寺本は漢語の
釈に逐一「此ニハ」を加えるのに対して、慶応本は一カ所のみであ
るし、石川本のみ「仏」に対して「天竺ノ語」と注をつけているよ
うに、微妙な差違があり、単純ではない。

以下、特徴的な本文の差違を拾っておくと、慶応本にはいくつか
本文の脱落がみえる。

② 田ヲ作り畠ヲ作り、鍛冶ヲシ、番匠ヲス。榮ミ榮ヘケリ。(慶
応本・6才)

田ヲ作り畠ヲ作、鍛冶ヲシ、商ヲシテ国豊ニ宝多ク、政直ク
榮ミ榮テ、(華藏寺本)

田ヲ作り畠ヲ作り、鍛冶ヲシ、番匠ヲス。商□廻船ヲシテ、
国豊ニ宝多シ。政□障ナクシテ榮ミ榮フ。(真福寺本)

田畠ヲ耕農シ、鍛冶番匠等ノ細工アリ、商人アリ。廻舟ヲシ
テ、国豊ニ財多シ。政ヲナスニ障ナク榮ミ榮フ。(石川本)

ここでは、真福寺本と石川本が近似しているが、慶応本のみ商人

の部分なく、国が豊かで政も治まっているとのくだりが無い。ある
いは、以下のような例もある。

③ 大王、此事ヲ聞食トモ、倫言汗ノ如シ。出テ、返ルコトナシ。
(慶応本・5ウ)

此事ヲ聞テ後悔シ玉ウ。四人ノ太子、科ナシ。如何カ遠国ヘ
追失ント思食トモ、倫言汗ノ如ク出テ返ルコトナシ。(華藏寺
本)

大王、此事ヲ聞食シテ後悔ス。四人ノ太子、科ナシ。云何カ
遠国ニ失ハント思食トモ、倫言汗ノ如シ。出テ返ルコトナシ。
(真福寺本、石川本)

これに対して、他本になく慶応本のみに見える部分もある。

④ 提頭羅咤天王、此云持国、須弥ノ東ニ住ス。毘留勤叉天王、
増長天南ニ住ス。毘留軛叉天王、此云惡眼ト、云広目トモ、西ニ
住ス。毘沙門天王、此云多門天、北ニ住ス。此四大天王ノ現シ
テ小婆羅門ノ形ニ成テ、(慶応本・18才)

提頭頼叱天王、毘勒刃天王、毘留軛叉天王、毘沙門天王等ノ
四大天王ノ現シテ、小婆羅門ノ形ト成テ、(華藏寺本)

提頭頼叱天王、毘勒刃天王、毘留軛叉天王、毘沙門天等ノ四
大天王ノ現シテ、小婆羅門ノ形ニ成テ、(真福寺本)

提頭頼叱天王ト、毘留勤叉天王ト、毘留軛叉天王ト、毘沙門天
王ト、四大天王ノ現シテ、小婆羅門ノ形ニ成テ、(石川本)

ここでは、慶応本のみ四大天王について、その通称と四方の説明を

加えている。読者への便宜をはかって注釈を示している。あるいは、以下の四苦八苦の説明の部分のごとく、慶応本にのみ詳しい注がついている場合もある。

⑤ 一切苦ハ此身ヲ所依トシテ受ク。サレバ、以前七ノ苦ノ外ニ漏タル一切ノ諸苦ハ、皆此盛陰苦ノ所様也。有待ノ身ハ、時トシテ苦ナラズト云事ナシ。五盛ノ質ヲ事トシテ愁ナラズト云事ナシ。生老病死ノミニアラズシテ其間ニモ諸ノ苦多シ。愛別離苦、怨増ノミニモアラズ、其外ニモ又愁アリ。寒ヲウレエ、熱ヲウレエ、寝ヲ忘レ、食ヲ忘テ身疲レ、心疲れ病ニ悩トモ如病非死トモ如死ノ、仏説ニテ云、諸苦皆非苦有ヲ身為苦ト。(43オ)

また、

⑥ 爰ヲ以、先ツ父ヨリモ前キニ師ヲ拜セヨト教給フ也。(16ウ)という一文は慶応本には見られず他本にはない、というように、出入りが種々みられる。

特色と意義

『釈迦如来八相次第』の〈仏伝文学〉としての特色や意義についてふれておこう。

まず第一に、随所に經典などの典拠を引用しており、後世の日本独自の〈仏伝文学〉の段階にはまだ至っていないことがあげられる。しかし、物語としてはすでに仏伝經典を離れて、感性や趣向にあう

ような話題やモチーフが選び取られており、過渡的な様相を示している。物語をおもしろい方向性に改変していく指向性と語りの正統化として經典の權威を必要とする指向性とのせめぎあいがあると見えようか。經典類に関しては、前半は冒頭の「仏本行経」をはじめ、「普越経」「観経」、後半でも「陀羅尼集経」「正覚経」「般若経」「十二因縁経」「心地観経」「涅槃経」「観仏三昧経」「法華経」等々がみえ、「沙門智通ノ所訳ノ経」(54ウ)、「天台大師ノ釈」(61ウ)などもある。なお、「梵網経」は華藏寺本にみえるが、慶応本にはない。

第二に、これに関連して語注など注釈的な言説がめだつことである。語彙レベルで逐一その語の説明を加える傾向がきわだつ。何らかの典拠による本文の引用の後にも、「文ノ意ハ」としてその説明を加える。直談的な語りといえよう。以下、いくつか例示しておく。

⑦ 其四弘誓願ト者、衆生無辺誓願、度煩惱無辺誓願、断法門無尽誓願、知無上菩提誓願証。此四弘誓願ハ、上求菩提ノ智慧、下化衆生ノ慈悲也。智恵ヲ以テノ故ニ、生死トドマラス、慈悲ヲ以テノ故ニ、涅槃ニ住セズ。生死ト涅槃ト皆自在ヲ得タリ、トイヘリ。(9ウ)

⑧ 此女人ヲ青衣ト名付ルコトハ、翠ノ衣ヲ着タル故也。五色ノ中ニ青色ハ春ヲツカサドル、久キ榮ヘノ色、深キ心有ベシ。(16ウ)

- ⑨ 御名ヲ悉達太子ト名ク。是ハ天竺ノ語也。唐土ニハ、成就太子ト名ク。一切利益衆生ノ相ヲ成就シ、福智円満シテ仏ト成給フベキシルシノ御名也。角宿日ト云宿ヨリ鬼宿日ニ至マデ、七日七夜、淨飯王ノ瓔珞ヲ莊リテ、我太子ノ御身ニ着セ進給フ。(略) 鬼宿日ト云宿ハ、一切ノ吉祥ヲ成就スル日也。(19オ)
- ⑩ 十俱盧舍ト云ハ、天竺ノ語也。唐土ニ是ヲ翻スルニ、二百八十四里一百三歩也。此一里ハ六町ヲ一里トスル也。(31ウ)
- ⑪ 提婆達多ガ前ノタハサキヲ取テ、閑ニ空中ニ指上ゲテ、メグラスコト旋火輪ノ如シ。旋火輪トハ、火輪ヲメグラスガ如シ。火ノ玉ヲ取ルガ如シ。(33オ)
- ⑫ 汝親子ノ契ヲ表セントテ、歡喜團ヲ造。団ト云ハ、栢榴ノ形ニ似タル物也。中ニ種々ノ味好キ物ヲ入タリ。(68オ)
- ⑬ 橋梵波提ハ昔五百世カ間、牛ト成シガ故ニ、今生ニ煩惱余リ猶有テ、牛呵ノ相ヲ現ス。牛呵トハ牛ノ呵カカム也。(72オ)
- ⑭ 「四弘誓願」という仏教語をはじめ、⑨ 悉達太子の名の由来、⑩ 「俱盧舍」という距離の単位、⑧ 「青衣」といわれる女人、⑪ 「旋火輪」の意味、⑫ 団子の「歡喜團」、⑬ 牛の反芻の「牛呵」等々、物の名の説明が逐一紹介される。読者対象を意識しての細かい語注を添えたものとみなせよう。
- さらには、経釈系の文言を引用した後に、「文ノ心」として、その意味を説明する箇所もいくつかみえる。これも語彙の説明と同様の注解をつけているものである。

- ⑭ 心ヲ得テ誓言ハク、「虚空刀杖雨我身、对樹切切割我体、若我不度生死海、此菩提終不移」。文ノ心ハ、虚空ヨリ劍雨リ下テ、我身ヲ寸々ニ割クトモ、我若生死海ヲ不汲ハ、此菩提樹ヲ終ニ不移ズト、誓実ノ心重ケレバ、一分ニ動ク心無ク、恐ル、所ナシ云。物ノヲソロシキコトハ、身ノ惜ク命ノ惜キニコソアレ、身ヲモ命ヲモ惜マネバ、恐ル、所ナシト云也。(59オ)
- ⑮ 爰ニ太子、魔王ニ宣言、「汝昔施一无遮会今得如是大威權、我於無量生死海、為諸衆生種々施」。文ノ心口ハ、汝昔シ無遮ヲ修シテ、今三界ノ王ト成ル。我ハ無量ノ生死海ニライテ、諸ノ衆生ノ為ニ種々願ヲ發ニ、修行ヲ修シ、身命ヲモ不惜与エ、今最後身ノ仏ト成ベシ。(59ウ)
- ⑯ 故ニ天台大師ハ、「觀五住煩惱即菩提、名為破惡」ト釈シ給フ。文ノ心ハ、五住煩惱ト觀スルヲ破惡トス。無明則チ法性、煩惱即菩提ト悟ル、自受法樂ト名ク。此ノ自受法樂ノ智惠發レバ、八万四千ノ煩惱ハ即一ツ、無明ナレバ、八万四千ノ仏ハ一体ノ釈迦也。無明ノ迷ヒ即八万四千ノ煩惱トナレバ、一体ノ釈迦八万四千ノ仏ト成、一時ニ正覺ト、經ニハ説ケバ、(61ウ)
- ⑰ 一切衆生ヲ勸テ孝養報恩セシメンガ為ニ、心地觀經ニ説、「若有男女依母教、業順顔色不相違、如是男子悉非凡、大悲菩薩化人間、示現報恩諸方便」。文ノ心ハ、若男女母ノ教ニ依テ、顔色スクニシテ相違セザル。如此ノ人ハ凡夫ニ非ズ。菩薩ノ人間ニ化シテ恩ヲ報ズル、諸ノ方便ト身現ズト説ク。仏ノ慈悲ヲ以

テ衆生ヲ利益センガ為ニ、報恩ノ方便ヲ示シ玉フ。五百ノ大臣
ヲ初メトシテ、千万眷属悉ク報恩ノ心ヲ發、皆因果ノ理ヲ貴ト
云。(66オ)

⑮ 仏此ヲ聞食テ、「生死無常、古今是有。唯仏道其真」ト説玉
ヘリ。文ノ心、生死無常古今ニ是有リ、唯仏道ノミ真有。汝等
無常ハ歎コトナカレ。只仏道ノミヲ行ズベシ。道スガラ加様ニ
教玉フ。(81オ)

⑯ 世尊是ヲ聞召テ、「苦空無常無我、水月鏡像」ト説玉フ。文
心ハ、諸法ハ苦也、空也。草葉ノ上ノ露ノ如ク、水ノ上ノ沫ノ
如ク、水ニ移テ月影鏡ニ移ル。像影如ク、朝日影立煙ノ如シ。
是皆無常ノ法也。汝等歎クコトナカレ。(83オ)

最初の⑭⑮の二例は降魔のくだりで、魔王の妨害を排除する際の
教説、次の⑯は成道で湯谷解題にすでに指摘されるように、自受用
身の仏身三身觀をふまえる無明即法性、煩惱即菩提、魔界即仏界と
いった天台本覚論系の教説が展開される。最後の⑰⑱⑲の三例は、
『心地觀經』による「孝養報恩」の強調で、釈迦が父浄飯王の臨終
に立ち会い、自ら棺をかつぐ一連の場面での一節である。生死無常
や諸法一切空の理を説く。

また、これらの注解に加えて、語義や用語をめぐって、種々の考
証が展開される部分もみられる。

⑳ 或ハ經ノ説ニハ、仏法守護ノ四天王ノ力ヲ以テ、金泥駒ノ四
足ヲ捧テ空ヲバ飛テ、城ヲ越ルトモイヘリ。夜刀神ハ、四天王

ノ中ノ毘沙門天王ノ眷属也。心得合スベシ。又善知識ヲバ、經
ニハ天帝釈ト説ケリ。今、經ニハ、作瓶天子ト云事ハ帝釈ノ異
名也。帝釈二千ノ名在ス。其ノ中ニ作瓶天子ト云ハ、帝釈ノ瓶
ヲ作給ガ故ニ、作瓶天子ト云也。觀經ノ中ニ、極樂ノ七重宝樹
ヲ説。諸ノ菓ミヲ生ル事、帝釈ノ瓶ノ如シト説ク。帝釈ノ瓶ハ、
諸ノ宝ヲ雨ス也。極樂ノ宝樹ヨリ多ク実ヲ生ズルニ喩エタリ。
知ヌ、帝釈ト作瓶天子トハ、一体ノ異名也。又、善知識ヲ浄居
天子ト説ク、云何可得心ヲ。善知識多クノ善知識アリ。サレバ、
無辺ノ諸天恒沙ノ知識ト説ク。恒沙ノ知識ノ中ニ浄居天ハ下リ
給ヒケル也。(44オ)

悉達太子の東南西北の門を廻って、老人、病人、死人、僧と出會
う四門出遊や出城の手引きをする存在が、經典によって作瓶天子、
帝釈天、浄居天とそれぞれ名称が異なることに對して種々の考証を
加えている。帝釈天には千の異名があり、作瓶天子もその一つで、
『觀經』の極樂浄土の七重宝樹を帝釈天の瓶に喩えた例を援用し、
浄居天も恒沙の知識の一人だという。合理的な整合性をもとめ、複
数の説を一元化しようとする言説である。

㉑ 其文ニ云、「譬如大樹衆鳥群、各從諸方來共宿、後日別飛各
自去、衆生離別亦復然」ト。此文ヲ訓釈スルニ、譬バ、大ナル
樹ニ諸ノ鳥群マリ、各諸方ヨリ來テ、トモニ宿スレドモ、後日
ニハ別レ飛テ各自ラ去ルガ如シ。衆生別レ離ル、事、又復然也
ト、文ノ意ハ心得ルニ、哀貴事也。譬バ、浄飯王宮ナル樹ノ如

シ。父ノ大王ヲ始メ、木ズヘニ宿スル夜ノ鳥ノ如シ。生テモ別レ、死シテモ別ル、事、木ズエニ宿ル夜ノ鳥ノ夜明レバ、皆四方ニ飛去テ、独リモ木ズエニ不残ラガ如シ。独モ残留ルハ可カラ有ズ。

大王、此理ヲ御覽ズレドモ、親ノ子ヲ思フ道ニハ、理ヲモ忘テ、是ヲ慈ム習ヒ、一人ニ不限。一切衆生如此。又浄飯王宮ニ生ヲ受ル衆生ノ別離ノミニアラズ。此理ハ、三世十方ノ衆生ノ生アル者ハ必ズ死スル習アリ。会者定離ノ理ハ、一人トシテモ遁ルベカラズ。(48オ・ウ)

悉達太子が出家し、舎匿を城に返す際に、心を安穩にして恨み心を抱かないように父王に託した「四句ノ偈」であり、その解説が長々と続く。太子が城を出るのは、大樹にいる鳥が夜明けとともに皆飛び立っていくのと同じだという譬喩であり、その樹は王宮に相当し、人は飛び立つ鳥に同じで、一人として後には残らないとし、生者必滅、会者定離の道理を説く。

これらに對して、次の例は仏伝物語からやや離れた言説になっている。

②② サレバ、此法成就ノ粥ト名ク。此粥ヲ表テ、正月十五日ニ赤粥ニテ煮タル。牛玉杖ヲ以テ女ヲバ孕ト打。幸ナキ者ハ幸アレト打テ、病アル者ハ病癒ヨト打チ、菓ノ木ヲバミナレト打ツ。万ノ福德ヲ成就スルハ仏也。イミジキ正月ノ祝ニハ、此粥ヲ煮ル也。当世ノ人、心僻テ衆ニホコツテ、種々ノ呪事ヲ以テ人ヲ

打ツ。是ハ世ノ末ニ成テ、正キ法ヲ欺也。正月ト云ハ、正ノ法ヲ行テ、人ヲ呪事ハ自他ヨカレト祈也。又持斎ノ僧ノ勞ルルヲ直サン料ニ齊ヲ持スルニ、粥ヲ煮ハ此謂レヲ表ス也。(55オ・ウ)

釈迦が苦行を終えて出山した際、善生村の兵將婆羅門の童女が牛の乳で煮た粥を釈迦に食べさせる「法成就ノ粥」(華藏寺本「法身成就」)の話題から、正月十五日に食べる赤粥や牛玉杖で女人の幸を祈って打つ、いわゆる卯杖をめぐる習俗に言及する。それが「当世ノ人」が「呪事」で行うのは誤りで、正月の「祝事」で行うものだとする。「当世」を批判する語りの現在が投影されている。

特色の第三には、釈迦と父浄飯王との恩愛の強調があげられる。たとえば、中世仏伝の代表である『釈迦の本地』では、幼い悉達太子が鳥の親子を見て母のいない我が身を嘆いたり、天上界に転生した母のために忉利天に説法に赴いたり、母摩耶とのかかわりに重きを置く傾向が強いのに反して、本書では父浄飯王とのつらなりに比重がおかれる。

成道後の説法に迦毘羅衛城に赴き、「大王ノ為ニ法ヲ説」き、「孝養報恩」のために『心地観経』を引用(①⑦)、「報恩ノ方便ヲ示」す。父の臨終におもむき、「親ノ最後ノ孝養ハ棺ヲ荷ニコソアレ」と王の棺を釈迦みずから担ぎ、衆会から「孝養報恩ノ程」たいそう哀れなことを讃歎される。荼毘に附してその舍利を金銀銅の瓶、さらに塔に納める。それが『般涅槃経』に拠るとし、ついで『観仏三昧経』

にもとづき、父王の臨終の際に釈迦が念仏三昧を説き、その功德を毒の伊羅樹の惡臭を二葉の牛頭栴檀の芳香が消す譬喩に喩える。

そして、最後に「仏三世ノ諸仏ノ出世ノ本懷ノ一乗妙法蓮華經、既二説畢」とされ、一連の涅槃や分舍利をめぐる逸話が簡略に語られる。天界から降りてきた摩耶との対面、説法の金棺出現もみられ、「最後ノ説法ハ、只偏ニ孝養報恩ノコト也」とされるが、全体的に摩耶の影は薄いといわざるをえず、本書の特徴ともなっている。父王の臨終をめぐる一節は、近時紹介された金沢文庫保管の弁曉草などにもみえ、法会唱導世界との連関が今後の課題ともなろう。

以上、不十分ながら本書の概要にふれてみた。本書は經典の權威を意識しつつも、次第にそこから離れて独自の物語を形成していく過渡的な途上にある物語といえ、中世において『釈迦の本地』の前段階に位置づけうるものである。日本における〈仏伝文学〉の変遷や展開をみる上で欠かせない、きわめて貴重な指標となるテキストであり、今後の研究の進展に待つところが大きい。

参考

黒部通善『日本仏伝文学の研究』和泉書院 一九八九年

後藤昭雄「教児伝——天台僧の書いた仏伝」(『叡山の和歌と説話』

世界思想社 一九九〇年)

小峯和明「真福寺藏『釈迦如来八相次第』について——中世仏伝の

新資料」(『国文学研究資料館紀要』一七号 一九九一年)

真福寺善本叢刊・第五卷『中世仏伝集』臨川書店 二〇〇一年

神奈川県立金沢文庫編『称名寺聖教尊勝院弁曉說草 翻刻と解題』

勉誠出版 二〇一三年

* 本稿は、学術振興会科学研究費・基盤研究B「十九世紀以前の日本と東アジアの〈仏伝文学〉をめぐる総合的比較研究」(二〇一二—二〇一四年度・科研番号24320051 代表・小峯和明)の成果の一部である。

* 翻刻を許可された慶應義塾大学図書館に御礼申し上げます。また、貴重な伝本の紹介を許可された石川透氏にも篤く御礼申し上げます。

(こみねかずあき 本学名誉教授)

(よしはしさやか 本学兼任講師)

(はせがわなお 本学大学院博士後期課程在学)

(しおかわかずひろ 本学大学院博士後期課程在学)

(くめしおり 総合研究大学院大学博士後期課程在学)

凡例

一、翻刻は以下の通りに行った。

- ・本文の行取り、文字配列は原本通りに行った。
- ・料紙の改丁に「」を付し、丁付けを「25才」のように施した。
- ・旧字・略字、異体字は現行の書体に直した。ただし「坐」と「无」は原本通りとし、校異は付けてない。

- ・見せ消ちは正しい形に直し、割り注は写本通り小字体表記とした。
- ・ルビ、返り点は表記通りとした。

- ・片仮名宣命書きは漢字と同じポイントで翻字したが、返り点が付いている部分のみ小字とした。

- ・漢字の踊り字は「々」に改めた。

二、校異は以下の通りに行った。

- ・上段の翻刻に対応する校異を下段に追い込みで示し、その際「」で区切った。

- ・諸本の校異の順番は華藏寺本、真福寺本、石川透本とし、それぞれ【華】、【真】、【石】と略号で示した。

- ・漢語を訓読したものについては校異を省略した。

- ・同訓の場合、漢字・仮名の差違及び、送り仮名の有無については校異を省略した。

- ・該当語句がない場合は、平仮名表記で「なし」とした。

- ・慶応本のルビは、校異では省略した。

三、翻刻・校異の分担は以下の通り。

上巻	表紙	26丁ウ	39丁ウ	53丁オ
		26丁オ	39丁オ	86丁ウ
		吉橋	長谷川	糸 汐里
		さやか	奈央	
			塩川	
			和広	

翻刻 底本Ⅱ慶応本

(表紙) 釈尊八相次第上下

(見返し) 「慶應大学図書館蔵」の印

八万四千歳八万四千ノ大臣アリ是ハ閻浮提八万四千国王也

一万人ノ国各王アリ

□□転輪聖王 茅草王 此王ニ依无子後仙人トナル

一輪宝 二如意宝

七宝 三宝女宝 四象宝 七主兵臣宝

五宝馬宝 六主蔵宝

巨面

第一后 甘遮王 長我太子 金色 第二后腹

普賢夫人 象首

別成

師子頰王 浄飯王 悉達 難陀

白飯王 難提 彼提利迦

斛飯王 提婆 阿難陀

校異 【華】Ⅱ華蔵寺本、【真】Ⅱ真福寺本、【石】Ⅱ石川透本

八万四千歳ノ三十卷疏八二見タリ―なし 【華・真・石】

甘露飯王 阿那律 广訶二那

大論三卷考二師子頰王二四男一女アリ四男ハ常ノ如也

一女ヲ名テ甘露味ト云有二子一名クト施波羅ト一觀經

三十卷疏八ニ見タリ

釈迦八相次第上

「 1 才

釈迦ト者名テ能トス牟尼トハ名テ忍ト云故ニ釈迦牟尼ヲ能

忍ト云仏トハ此ニハ覺ト云釈迦ハ姓也衆生ノ人ノ中ノ悉達太

子ノ諸法ヲ覺リ開クヲ釈迦牟尼仏ト名ク仏本行經ニ云劫初
轉輪聖王ヲハシキ其命八万四千歳也千人ノ太子在シキ八万

□□ノ大臣アリ其大臣ハ閻浮提ノ八万四千ノ国ノ王也其輪王

□□ヲ具足セリ七宝トハ一輪宝二如意宝珠三宝女宝

□□宝五宝馬宝六主藏御宝七主兵臣宝也一輪宝者転

□□王誕生シ給フ時金輪日輪ノ如ク光ヲ放テ前ニ現ス是ハ金輪王也

「 1 ウ

□王ニ四種有リ金輪王銀輪王銅輪王鉄輪王也金輪王

釈迦八相次第上―釈迦如来八相次第上【華】、釈迦如来八相次第上
卷【真】、釈迦八相記上【石】

釈迦ト者名テ能トス―釈迦此ニハ能ト云【真】、釈迦ト者名レ能ト【石】
／牟尼トハ名テ忍ト云―牟尼ト者忍ト云【華】、牟尼此ニハ忍ト云

【真】／故ニ釈迦牟尼ヲ一尺迦牟尼トハ【華】

仏トハ此ニハ覺ト云―仏者覺ノ義【華】、仏トハ此ニハ覺ノ義也【真】、
仏ト者天竺ノ語此ニハ名レ覺ト【石】／姓也―なし【石】／衆生ノ人ノ
中ノ一ノ種姓ノ人ノ中ニ【華】、衆生ノ人ノ中ニ【真】、種姓人中ニ【石】
仏本行經―仏本經【華・石】／劫初―なし【石】

轉輪聖王―轉輪王【華・石】／其命―其寿【華】／在シキ―有キ【華】
□□―四千【華・真・石】／其大臣ハ―其太子ト者【石】／八万四
千ノ国ノ王也―轉輪王ト成ル【石】

□□―七宝【華・真・石】／如意宝珠―如意宝【華・真・石】

□□宝―四ニハ象宝【華・真・石】／六主藏御宝―六ニハ主藏宝【華】、
六ニハ主藏臣宝【真・石】／一輪宝者―是ハ金輪王也―なし【石】

転□□王―轉輪聖王【華・真】／日輪ノ如ク―日ノ如ニ【華】、日
ノ如【真】

□王―輪王【華・真・石】

□□ヲ領シ銀輪王ハ三州ヲ領シ銅輪王ハ二州ヲ領シ鉄輪

□□州ヲ領ス此四種ノ輪王ハ皆輪宝ノ徳ヲ以テ輪王ノ

□□得輪宝ナケレハ輪王ト不名付輪宝ノ徳トハ王ノ行

幸ノ時輪宝前ニ飛瓦礫荊棘摧ケテ山河大地ヲ平ニ成ス

其輪王ニ百福輪ヲ具スルアリ千福輪ヲ具スルアリ万福輪

ヲ具スルアリ八万四千ノ福輪ヲ具スルアリ其中ニ八万四千ノ福
輪ヲ最第一トスニ如意宝ト者如意宝珠也此珠ハ輪

王出世シ給ヘハ宝珠大海ヨリ出テ、輪王ノ前ニ現ス輪玉此^{ワウ}」2オ

玉ニ向テ我若輪王ト成ヘクハ我心ニ随テ七珍万宝ヲ雨シ

給ヘトテ金輪等ノ七宝ヲ以テ宝ノ篋ニ入テ莊嚴シテ錦ノ

褥ヲ七重ニ敷テ箱ノ中ニシキ其上ニ宝珠ヲ安置シテ高キ

□□ヲ領シ一四州ヲ領ス【華・真・石】／鉄輪□□州ヲ領ス一鉄輪
王ハ一州ヲ領ス【華】、鉄輪王ハ一州ヲ【真】

此四種ノ輪王ハ皆一なし【石】／四種一四州【真】、輪王ノ一
輪王ノ【華・真・石】

□□得一名ヲ得タリ【華・真】、名ヲ得【石】／王ノ一輪王【華】
前ニ飛一前ニ発【真】、投レハ【石】／平ニ成ス一夷^{タイラク}ク【華】

其輪王ニ一其輪宝ニ【華・真】／千福輪ヲ具スルアリ万福輪ヲ具ス
ルアリ一千福輪万福輪ヲ具セルモアリ【華】、万福輪ヲ具モアリ無
量輪ヲ具ルモアリ【石】

八万四千ノ福輪ヲ具スルアリ其中ニ一なし【華・石】

二如意宝ト者如意宝珠也一ニニハ如意宝珠也【華】、二如意宝トハ
如意珠也【真】／此珠ハ一此宝珠ハ【華・真】／此珠ハ輪王出世シ
給ヘハ宝珠一なし【石】

出世シ給ヘハ一世ニ出玉ヘハ【華】／宝珠大海ヨリ一宝珠大海ノ中
ヨリ【華】／輪玉一王【華】

玉ニ向テ一珠ニ向テ祝テ云ク【華・石】、珠ニ向テ云ク【真】／我
心ニ一我意ニ【華】、我心ニ随テ七珍万宝ヲ雨シ給ヘトテ一なし【石】

金輪等ノ七宝ヲ以テ宝ノ篋ニ入テ莊嚴シテ一金銀等ノ七宝函ヲ莊嚴
シテ【華】、金銀等ノ七宝ヲ用宝ノ匣ヲ莊嚴シテ【真】、金輪寺ノ財
ノ箱ヲ莊ムシテ【石】

褥一茵^{シトネ}褥【華・真】、茵【石】／箱ノ中ニシキ其上ニ一函ノ中錦
ノ上ニ【華・真・石】／宝珠ヲ安置シテ一なし【石】

幡ノ上ニ此箱ヲ置キ華ヲ散シ香ヲタキ恭敬供養シテ
珠ノ徳ヲ讃メ祈ル時微細ノ雨フリテ灑キ和ナル風涼シテ

閻浮提ノ内ニ膝^{ヒサ}ノマハリニ至ルマテ七宝ヲフラシ満ル也玉ハ

□□ノ玉ヲ讃メ敬ヘハ宝ヲフラス故ニ輪王ハ果報貴ク信

□□ヲハス髪ノ中ニ納頭ノ上ニイタ、キ給フ髪ノ中ノ宝珠

□上ノ明珠ト名テ輪王滅シ給ヘハ珠モ光リヲウシナフ
「2ウ

□報ツ拙キ人ノ眼ニハ瓦礫トミル也終ニ大海ニ入ヌ仏世ニ出テ法ヲ
説キ給フ時宝珠大海ヨリ出テ、宝ヲ雨ス此珠寶ヲ降ラス

ノミナラス熱キ時ハ冷キ風ヲ出ササムキ時ハ暖カナル徳ヲ施ス病
ヲ消シ命ヲ延ス鬼神ノタ崇リ止メ種々ノ難ヲ払ライ五穀
万菓ヲ豊ニセリ三寶女宝トハ宝ノ妃無量ノ宝女ヲ具シテ
容貞端正ニシテ吉子ヲ生ル也故ニ宝女ト名ク四象宝ト

ハ宝ノ象也此象ハ飼事^{コト}極テ難シ白米百斛ヲ以テ

高キ幡―高台【華】、高キ幡【真】、宝上【石】

珠ノ徳ヲ讃メ祈ル―如意宝珠ノ徳ヲ賛テ宝ヲ祈ル【華・石】、宝珠
ノ徳ヲホメテ宝ヲ祈ル【真】／微細ノ雨フリテ灑キ和ナル風涼シテ
―なし【石】／灑キ―なし【真】

玉ハ□□ノ玉ヲ讃メ敬ヘハ―此珠ノ神通妙用也。徳ヲホメ敬サレハ
【華】、此珠ハ神通ノ珠也徳ヲホメ敬ヘハ【真】、此珠者神通ノ玉也
徳ヲ讃敬【石】

信□□ヲハス―信心深く坐ス【華・真】、信心深く御座ス【石】

髪ノ中ニ納頭ノ上ニイタ、キ給フ―なし【真】、髻ノ中ノ収首ノ上
ニ戴給フ【石】／髪ノ中ノ宝珠―髻ノ中ノ宝珠【石】

□上ノ―頂上ノ【華・真・石】／明珠ト名テ輪王滅シ給ヘハ珠モ―
明珠【石】

□報―果報【華・真・石】、拙キ―劣^{トリ}キ【石】

宝珠大海ヨリ―如意宝珠大海ヨリ【華・真】、なし【石】／珠寶ヲ
―玉宝^{タマ}ヲ【石】

熱キ時ハ―熱火時ハ【華】、暖ナル時ハ【石】／暖カナル―湿ナル【真】
病ヲ消シ命ヲ延ス―なし【石】

無量ノ宝女ヲ具シテ―具足セリ【石】

吉子ヲ生ル也―善キ子ヲ産ナリ故ニ輪王ニハ千人ノ太子坐ス宝ノ子
ヲ産ノミニ非ス十善ノ心ヲ悦シメ玉体ノ病ヲ除ク【華・真】、善子生也
故ニ輪王ハ千人ノ太子御座ス宝女十善ノ心悦シム玉体ノ病失フ【石】
宝ノ象也此象ハ飼事^{コト}極テ難シ白米百斛ヲ以テ―象一日ヲ飼フ―一日

一象一日ヲ飼ワイハンヤ多クノ宝象ヲヤ象ヲ酒ニ

酔セテ敵ノ陣ニ向ルニ城ヲ破リ多クノ人ヲ踏殺ス射トモ

切トモ事トモセス一象以テ如先況ヤ多ク象ヲヤ五宝

馬トハ宝ノ馬也身色紺青ノ色ニシテ頭ノ髪黒キ

コト烏ノ如シ尾ノ長キコト地ニ至ル此馬ハ神通有テ空ヲ

飛コト世ニ有難シ六主藏臣宝トハ宝ノ藏也宝ヲ取

集テ分失藏ニ多ク宝有リ七主兵臣宝トハ兵具ニ無

量ノ兵具有此七宝千子八万四千ノ大臣輪王ノ行幸

ノ時空ヲ飛輪王ニ随フ此王ハ生テヨリ以來大地ヲ不_レ踏ス

玉ノ台金ノ床カ錦ノ褥ノ上ニ住ミナレテ東州ヨリ南

□々々ヨリ西州々々ヨリ北州此廻テ玉ノ台金ノ床ヲ

「 3 オ

食白米百石ヲ以テ一象飼事ナリ【石】、白米百斛―白米二石【華】、
白米百石【真】

象ヲ酒ニ酔セテ―此象ニ酒ヲ飲セテ酔スレハ【華・真】、象ニ酒ヲ吞【石】

敵ノ陣ニ向ルニ城ヲ破リ―向_レ敵ニ【石】

宝馬トハ宝ノ馬也―馬ト者【華】、馬宝トハ【真】、宝馬宝者【石】

身色―身ノ毛【真】

空ヲ飛コト世ニ有難シ―空ヲ飛フ世ニ希有ナル馬也【華】、空ヲ飛

フ世ニアリ難キ馬也【真・石】

宝ノ藏也宝ヲ取集テ分失―藏ヲ主^{ツカサトル}也宝ヲ納テ失ワス【華・真】、

藏管財ヲ納テ失セス【石】

七主兵臣宝トハ兵具ニ無量ノ兵具有―七ニ主兵臣宝ト者兵ヲ主ル也

兵ニ無量ノ兵アリ【華・真】、七ニ主兵臣宝ト者兵ヲ管ル也兵具ニ

無量ノ兵具アリ【石】

住ミナレテ―住ナレテ幸ノ時ニハ空ヲ飛自ラ大地ヲ歩ントスル時ハ

【華】、住ミナレテ在ス行幸ノ時ハ空ヲトフ自ラ大地ヲ歩マムトス

ル時ハ玉ノ台【真】、栖ミ終マシマス御幸ノ時ハ空ヲ飛フ大地ヲ歩

トスレハ玉台【石】

南□―南州【華・真・石】／北州此廻テ―北州々々ヨリ東州ニ廻テ

【華】、北州四州ニ廻テ【真】、北州四州ヲ廻テ【石】／金ノ床ヲ―

金ノ床／錦【石】

「 3 ウ

立テ並テ其上ニ御幸成テタノシミ遊ヒ給フ命ハ八万四千歳也此王ノ子孫相繼テ位ヲ受テ劫初ヨリ以来茅

草王ニ至ルマテ種姓絶エス茅草王ニ一百人ノ王アリ皆茅

草王ト名ク此王ニ子ナシ世ヲ恨ミ位ヲ遁テ山ニ入テ法ヲ

行ス仙人ト成ル時ニ弟子アリ里ニ出テ物ヲ乞テ師ヲ養

ハントスル時タケキ獸ヲ恐レテ師ノ年ヨレルヲ木ノ上ニアケ

テヲク獵師有テ鳥獸ト思ヒテ此ヲ射ル矢ヲ蒙テ木

ヨリ落テアルヲミレハ仙人也弟子トモ里ヨリ返リ師ヲ

ミレハ疵ヲ被テ木本ニ死タリ是ヲカナシムニ力ナシ

其矢目ヨリ血流タリ其血ヨリニ茎ノ甘遮王出タリ

一茎ノ甘遮ヨリ童子生レタリ一茎ノ甘遮ヨリ童

女ヲ生ス仙人ノ弟子トモ是ヲ養テ童子ヲハ甘遮王ト

「 4 オ

号ス又童女ヲハ妃ニ納メテ善賢夫人ト号ス以テ第一
ノ妃トス善賢夫人ノ子ヲ生セリ長我太子ト号ス第二
夫人四人ノ子ヲ生ス一人ヲハ臣面ト云二人ヲハ金色
ト云三象^{象衆}首ト云四ヲハ別成ト云此四人ノ太子ハ極テ
心賢ク性聡^{サトシ}位ヲ繼ニテ堪タリ時善賢夫人我
子ノ長我太子^{サトシ}愚^{ヤコカナル}問国ヲ治ム事難シ彼第二ノ妃ノ

「 4 ウ

其上ニ御幸成テ―其上ヲ幸キ成テ【華】／命ハ―寿ハ【華】
位ヲ受テ―位ヲ請テ【石】

茅草王ニ一百人ノ王アリ皆茅草王ト名ク―一百ノ王ヲ皆茅草王ト名
ク第一百ニ当ル王ヲ大茅草王ト名ク【華・真・石】

世―代【華】

師ノ年ヨレルヲ―年頃ヨレルヲ【華】

鳥獸―禽獸【華】／矢ヲ―箭ヲ【真】

木本ニ死タリ―樹下ニ死セリ弟子等【華】、木ノ下ニ死リ弟子【石】

甘遮王―甘蔗王^{カンシヤ}【華】、甘蔗【石】

弟子トモ―弟子【華・真・石】／童子ヲハ―茅草太子ト称ヨリ大臣

共是ヲ聞得テ養育シテ童子ヲ位ニ即テ【華】、茅草子ト称セリ大臣
共コレヲキ、付テ養ヒタテ、童子ヲ位ニ付テ【真】、茅草王子ト称

ス大臣共是ヲ聞付テ養立童子ヲ位ニ立テ【石】

善賢夫人―毛賢夫人【石】／以テ―モテナシ【石】

長我太子―長寿太子【華・真・石】

臣面ト云二人ヲハ金色ト云―巨面ニハ金色也【石】

善賢夫人―毛賢夫人【石】

長我太子愚問―長寿太子ハ愚ニシテ【華・真・石】

四人ノ太子ヲ失テ我子ノ長我太子ヲ位ニ付ト思テ衣裝

刷威儀ヲ正クシテ甘遮王ニ奉向ノ給フ甘遮王重

キ妃ニテ進セハ何事ニ依テ只今マミヘ給フソト問給ヘハ

后キ答テノ給フ様大事ヲ申候ハン為ニ參テ候

ト申給ヘハ何事ニテモ承リ候ハン申給フ時ニ何ヲ

以テ驗ニセント時ニ甘遮王誓言ヲ立テ給フヤウハ我若

頭ヲ七分ニ成テ阿梨樹ノ如ク成サン御命ヲハ違^{タカ}ハシト

大王ノ誓言ヲ聞給テ夫人奏シテノ給ハク第二ノ妃ノ

四人ノ太子ヲ遠国ヘ追遣シテ我太子ヲ位ニ付給ヘト

奏シ給フ大王此事ヲ聞食トモ倫言汗ノ如シ出テ、

「 5オ

我子ノ長我太子ヲ―我レ長寿太子一人ヲ【華】、我一リ寿太子ヲ【真】、
我独子ノ長寿太子ヲ【石】

甘遮王ニ奉向ノ給フ―甘蔗王ノ御前ニ進出テ玉フ【華・真】、甘蔗
王ノ前ニ進出テ言コトハ【石】

進セハ―御坐ス間【華・真・石】／何事ニ依テ只今マミヘ給フソ―
何事ニヨテ今見ヘ玉フソ【真】

參テ候ト申給ヘハ何事ニテモ承リ候ハン申給フ時ニ―參タリ聴許シ
玉ハ、白スヘシト奏シ玉フ后奏シ玉ハク【華】、參リタリ申サンコ
トヲ聞食シ入レハ申候ント奏シ給フ大王マレナル仰ヲハ争カ背キ違
ヘキト勅シ給ヘハ后奏シ玉ハク【真】、參タリ聞召入ハ申スヘシト
奏シ給大王希ナル師ヲ如何背ヘキト勅シ給后奏シテ宣ク【石】

甘遮王誓言ヲ立テ給フヤウハ―大王誓テノ玉ハク【華】、甘蔗王誓
言ヲ立テ宣フ様【石】

阿梨樹ノ如ク成サン御命ヲハ違ハシト大王ノ誓言ヲ聞給テ―阿梨樹
枝ノ如クナラン敢違セシト大王ノ誓言ノ誠ヲ見テ【華】、阿梨樹ノ如ニ
成ラン御命ヲ違ヘシト夫人ハ大王ノ誓言ノ誠ヲ見給テ【真】、阿梨樹子
ノ如クニ成トモ貴命ヲ違カヘシト宣フ夫人王ノ誓言ノ真ヲ聞テ【石】

遠国ヘ追遣シテ我太子ヲ位ニ付給ヘト―遠国ヘ追遣シテ我カ一人ノ
長寿太子ヲ位ニ付給ヘト【華】、遠流スヘキ由ヲ【真】、遠流由ヲ【石】
大王此事ヲ聞食トモ倫言汗ノ如シ出テ、―此事ヲ聞テ後悔シ玉ウ四

返ルコトナシ其上誓言ヲ立ツレハ後悔今ハ无力四人ノ太子ヲ召出シテ勅シ給フ様汝チ科カナシ国ヲ可出非ストイヘトモ善賢夫人ノ命ニ随テ左右ナク誓言ヲタテツレハ不及力我ヲ恨事無クシテ国中ヲ

出ヘシト四人ノ太子勅ヲ蒙テ掌ヲ合テ大王ヲ恭敬シ左右勅ニ可随更ニ大王ヲ恨奉ルヘカラス我等カ宿業ノ致所也母ノ妃此ヲ聞召テ我子无罪シテ四人ノ太子ヲ遠国被出事コト歎悲給ヘトモ不及力既ニ

出立給フ伯父姨母從父兄弟或ハ鍛冶番匠アキナイスルモノ物作者心ノ賢キ德ヲ忍太子ニ相隨テ国ヲ

出テ雪山近ク広野有リ迦毘羅仙仁久ク仏法ヲ行スル靈地也彼荒野ヲ開テ国ヲ立テ都ヲ立ツ計コト

賢ク伯父嫁キ姨母甥ニ嫁キ姪ニ嫁キテ国豊ニ宝ヲ多ク妻ト也夫ニナリ玉王トナリ妃ト成テ国ヲ治メ政ヲナス

— 5ウ

人ノ太子科ナシ如何カ遠国ヘ追失ント思食トモ倫言汗ノ如ク出テ【華】、此事ヲ聞食シテ後悔ス四人ノ太子科ナシ云何カ遠国ニ失ハント思食トモ倫言汗ノ如シ出テ【真・石】今ハ无力―益ナシ【華】可出非ストイヘトモ―□スヘキニ非サレトモ【真】

左右―なし【華】、トモカクモ【真・石】／大王ヲ―なし【華・石】我子―我【華】

四人ノ太子ヲ遠国被出事コト歎悲給ヘトモ不及力―四人ノ子ヲ追出サル、コト悲ムニタエストテ【華】、四人ノ者トモヲ遠国ヘ出サル、事ヲ悲嘆シタマヘトモカレ及シテ【石】／既ニ―共ニ国ヲ【華】、已ニ【石】伯父姨母從父兄弟―伯父姨母從父兄弟等【真】、伯父母從父兄弟【石】物作者―ニナル【華】／心ノ賢キ德ヲ―心賢キ人共太子ノ德ヲ【華・真】、心賢キ人皆太子ヲ【石】

広野―広キ荒野【石】靈地也彼荒野ヲ―天地也彼広野ヲ【石】／国ヲ立テ―国ヲ始メ【華】嫁キ姨母甥ニ嫁キ姪ニ嫁キテ―嫁キ伯母ニ嫁キ甥ニ嫁姪ニ嫁キテ【華】、姨母ニ嫁キ甥メイニ嫁キ【真】、伯母ニ嫁甥ニ嫁キ娘ニ嫁【石】国豊ニ宝ヲ多ク妻ト也夫ニナリ玉王トナリ妃ト成テ―妻トナリ夫トナリ后トス【華】、妻トナリ夫トナリ王トナリ后トナリ【真・石】

田ヲ作り畠ヲ作り鍛冶ヲシ番匠ヲス樂ミ榮ヘケリ

彼迦毘羅仙人ノ貴ク行ヒタル所ナリケレハ迦毘羅城

ト名ク四人ノ太子次第二位ニ付ク父甘遮王

我子トモノ国ヲ出テ何クニカ住ラント悲給フニ大臣奏

シテ云ク国ヲ立テ政ヲ成宝豊ニ民樂シキ也ト奏

ス大臣是ヲ聞召テ都ヲ立コトモヨシ政ヲ成スコト

モ吉シト勅シ給フ是ヨリ釈迦ノ姓ハ始レリ天竺ニ吉

ト云ハントテハ釈迦ト云也親ノ命ニ随テ親ノ心ヲ悦ハシ

ムルカ故ニ釈迦ノ姓ハ孝養ノ徳ニヨリ発レリ甘遮王ノ

苗裔別成王ノ孫子ヲ師子頰王ト申キ頰王ノ御子

四人アリ一ハ淨飯王ニ白飯王三斛飯王四甘露飯王

ト申シキ二人ノ太子マシマス一悉達太子ニ難陀太子

也白飯王ニ二人ノ太子有リ一難提利迦ニ波提利迦斛

飯王ニ二人ノ太子アリ一提婆達多ニ阿難陀^多甘露飯王ニ

二人ノ太子有一阿那律^{耶摩}二摩訶摩耶也今ノ釈迦仏ハ淨

飯王太子悉達太子ト申ス此仏ニ付テ八相成道次第釈

「6オ

／ナスー□シ【真】

田ー由【華】／番匠ヲス樂ミ榮ヘケリー商ヲシテ国豊ニ宝多ク^{マツリゴト}政
直ク樂ミ榮テ【華】、番匠ヲシ商□廻船ヲシテ国豊ニ宝多シ政ヲ□
障ナクシテ樂□榮フ【真】、番匠等ノ細工アリ商人アリ廻舟ヲシテ
国豊ニ財多シ政ヲナスニ障ナク樂ミ榮フ【石】

貴クー貴□【真】

甘遮王ー甘蔗王【華・石】

我子トモノー我太子愛母ノ【石】

始レリー初レリ【石】

甘遮王ー甘蔗王【華・石】

二白飯王三斛飯王ー二ハ斛飯王三ハ白飯王【華】

二人ノ太子マシマスー淨飯王ニ二人ノ太子坐ス【華・真・石】

白飯王ニ二人ノ太子有リ一難提利迦ニ波提利迦斛飯王ニ二人ノ太子

アリ一提婆達多ニ阿難陀ー斛飯王ニ二人ノ太子坐ス一ニハ難提利迦

波提利迦白飯王ニ二人ノ太子坐ス一ハ提婆達多ニハ阿難陀【華】

二摩訶摩耶也ー二ハ摩訶摩耶、甘露味女ナリ【華】

悉達太子ト申スー悉達太子也六年苦行シテ後仏ト成テ釈迦牟尼仏ト
号ス【華】、悉達太子ト名ク六年苦行ノ後仏ニ成テ釈迦牟尼仏ト申

迦ヲハ一切悉達ノ翻名也義成就菩薩ト申ス最後心ノ菩薩也此菩薩十

地満足シテ万行成就セリ天上ニ法会ヲ設テ人天ノ

為說法給フ時三千界ノ内南閻浮提ニ八万四千ノ

国有其国ノ中ニ五天竺勝タリ五天竺ニ取テハ迦毘

羅衛国ト云国ニハ迦毘羅仙人ノ久仏法ヲ行テ

貴キ所也此大王ハ劫初転輪聖王ヨリ種性相續

「 7 オ

シテ位ヲ繼キ政ヲ治ム種性高貴ノ上臆也淨飯王ヲ

父トシ天臂城ノ善覺長者ノ娘摩耶夫人ヲ母トセン

ト思食テ諸天人ノ為ニ法ヲ説キ行フ時淨飯王妃キ信

心ヲオコシテ大王ニ奏シ給フ様願ハ我ニ暇ヲ免シ給

エ八斎戒ヲ持テ心ヲ淨メ身ヲ淨クシテ梵行ヲ修セ

ント奏ス淨飯王尤可然トテ暇ヲユルシ給フ大王

モ齊戒ヲ持テ梵行ヲ修シ給ヘハ時ニ当テ夫人

貴夢ヲ見給フ大象光ヲ放テ身ノ内ニ入ト云夢

「 7 ウ

ヲミテ夢覺テ其身已ニ重ク成レリト大王ニ

奏ス給フ吉凶難知大象其身中ニ入ト覺ヲ

ミテ其身重大王訶私仙人ニ夢ヲ占シム仙人

ス【真・石】

最後心ノ菩薩也―最後心ノ菩薩ト号ス最後心ノ菩薩也【華】、最後

身ノ菩薩也【真】、最後ノ菩薩也【石】

人天ノ―天人ノ【華・真・石】

三千界ノ内―三界ノ中【華】

此大王ハ―彼国ノ太王ハ【華】、此国ノ大王ハ【石】／種性―種姓

断スシテ【華】、種姓不断―相繼シテ【真・石】

種性―種姓【華・真・石】

淨飯王―大王【華】

貴夢ヲ見給フ―マトロミ給【石】／大象光ヲ放テ身ノ内ニ入ト云夢

ヲ―なし【華】

大象其身中ニ入ト覺ヲミテ其身重大王―なし【真・石】

大王訶私仙人ニ夢ヲ占シム―阿私仙人ヲ召シテ此事ヲ占シム【華】、

阿私仙人ニ此夢ヲ占ハシム【石】

相シテ云月輪光ヲ放テ身中ニ入トミテハ転
輪聖王タルヘキ太子ヲ懷妊ス月輪光ヲ放

テ其身中ニ入トミテハ諸大王ノ中ノスケタル賢

王ヲ生スヘシ大象光ヲ放テ身中ニ入トミテハ

家ニ有テ十九年転輪聖王ノ報ヲ受

テ十九ニシテ城ヲ出六年苦行ノ後

菩提樹本ニシテ仏ト成テ八万四千ノ法蔵ヲ説

テ一切衆生ヲ利益スヘキ聖太子トソ相シタル

夫人ノ御夢ハ第三ノ占也ト奏ス大王此事

ヲ聞召シ歆喜至極セリ我未子生誰ニカ

迦毘羅衛國ヲ授テ十善ノ位ヲ継スヘ

キト思フニイミシキ太子ヲ懷妊シ給ヘルコトヨ

ト夫人ヲ恭敬供養シ給フコト懇勸也世

間ノ女人ハ懷妊スレハ^{カンザンカンヘハタヘ}簪モ焦膚モクロミテ

眼ノ色白ク成テ衰コトニテコソアレ夫人ハ懷妊

シヲハシテハ翠ノ簪例ヨリモ厳クシテ膚モ誠ニツ

ネヨリ麗^{ワレハ}シク青連ノ毗リ紺青ノ如シ丹菓ノ

唇色^{コトモヤカ}艶ニ頭ヨリ跌ニ至ルマテ八万四千ノ毛孔ヨ

リ金色ノ光ヲ放テ口ノ中身ノ諸毛ノ孔ヨリ

「 8 オ

月輪―日輪【華・真】

家ニ有テ―誕生ノ王子、家ニ有テ【華】、家ニ有コト【石】

城ヲ出―城ヲ越テ【華】

法蔵―法門【華・真・石】

聖太子トソ相シタル―聖子太子ヲ生ヘシ【真・石】

子―太子【華】

十善ノ位ヲ継ス―十毛ノ位ヲ即ス【石】

夫人ヲ恭敬供養シ給フコト―なし【石】

簪モ焦膚モクロミテ眼ノ色白ク成テ衰コトニテコソアレ―翠ノ簪モ

碎面ノ色モカワ行ク【華】、簪モ焦ケ膚モ黒ミ眼ノ色モ白ク変シテ【真】、

簪シカシケテ膚クロミ眼ノ色反シ黒クナリテ万衰ル事ソカシ【石】

膚モ―玉ノ膚モ【華・真・石】

ツネヨリ麗シク―麗シク【華・真】、鮮ニ【石】／毗^{マナシ}リ―背リ【石】

／紺青ノ如シ―鮮ニ【華】

艶ニ―艶【華】、濃【真・石】

青蓮^{ニホイ}ノ芳ヲ吐ク此ヲミル人病ヲ除キ福ヲ蒙ル

五岳ノ道士宮中ノ采女乞願ハストイフコトナシ

淨飯王ノ妃摩耶夫人ヲ見奉レハ病癒^{イユ}願ハ滿

我等果報拙クシテ奉見事アタハス夫人慈悲

ヲ發シテ我等ヲ助給ヘト仍チ夫慈悲ヲ發シテ

花^{ハナ}萼^{ナフサ}草葉ニテモ御手ニモ取身ニモフレテ人ノ

許ヘ送り給ヘハ是ヲ手ニモ取り口ニモ服スル者病

モ癒願ヒ叶菩薩ノ胎ニ處シテ衆生ヲ利益シヲハ

ス故也其四弘誓願ト者衆生無辺誓願度

煩惱無辺誓願斷法門無尽誓願知無上菩

提誓願証此四弘誓願ハ上求菩提ノ智慧下化

衆生ノ慈悲也智慧ヲ以テノ故ニ生死ト、マラス

慈悲ヲ以テノ故ニ涅槃ニ住セス生死ト涅槃ト

皆自在ヲ得タリトイヘリ淨飯王悦テ恭敬シ

「 9 ウ

青蓮ノ芳ヲ吐ク―微妙ノ香氣ヲ吐玉フ【華】、青蓮ノ醇^{カウハシ}キ香ヲ吐ク

【石】

五岳―五竺【真】／宮中ノ采女乞願ハストイフコトナシ―宮中ノ男
女見奉ランコトヲ冀ハスト云コトナシ【華】

我等果報拙クシテ―若不然一イハ我等果報拙クシテ【真】、我果報
劣ナキ者ハ【石】

夫人慈悲ヲ發シテ我等ヲ助給ヘト仍チ夫―国土ノ人民願申セハ夫人

【華】、爰ニ夫人慈悲ヲ發シテ【真・石】

御手ニモ―ここから【石】になし

人ノ許ヘ―人ニ【華】、

服スル者―服シ身ニ触レハ【華】

病モ癒願ヒ叶―病癒ヘ命ヲ延ヘ所願皆満足ス【華】／利益シヲハス

故也―利益スル相ヲ顯シ玉フ也此菩薩ニ四弘誓願在故也【華】、利

益スル相ヲ施シ玉フナリコノ菩薩ニ四弘誓願マシマス故ナリ【真】

煩惱無辺誓願斷法門無尽誓願知無上菩提誓願証此四弘誓願ハ―なし

【華】

給フコト无限然ニ善覺長者娘ヲ悲テ浄飯王ニ使

ヲ立テ奏ス娘懷妊セリ女人ハ懷妊スレハ存セ

ルカ如亡セルカ如シ半ハ死シ半ハ生セリ国ヲヘタテ
境ヲヘタテ、思フニ心苦シト浄飯王可然トテ夫人

ノ御行ヲ又善覺長者ノモトヘ成シ奉ラント

結構セラル一万疋ノ象金ノ鞍ヲ敷テ鞍ノ上ニ
皆金ノ綱ヲ覆テ引立タリ此象ハ一疋ヲ

飼フコト極メテ難キコト也白米百斛ヲ以テ一ノ象ヲ

一日飼フ程ノ象ヲ一万疋マテ飼給ヒケルコト御果

報ノ貴事可知王宮ニモ今幾ノ象カ残シ置給フ

又宝ノ馬一万疋ニ金ノ鞍ヲ置テ鞍ノ上ニ金ノ

綱ヲ覆テ七宝莊嚴ノクツハミヲ口ニサイテ皆引

立テタリ此馬ハ一疋モ得コト極テ難シ身ノ色

ハ紺青ニシテ頭ノ髪黒クシテ烏ノ如シ尾ノ長ク

地ニ至ル此輪王ノ七宝ノ具一也馬宝ト云ハ此馬

也一万ノ歩兵一万ノ兵ノ金鎧^{カフツ}曹^{カフツ}着シテ皆箭

ヲ帶セリ是一人当千ノ兵夫人ヲ守護セ

ンカ為也又二万五千ノ車ヲ莊テ夫人ノ眷

「 10オ

「 10ウ

善覺長者―父ノ長者【華・真】／浄飯王ニ―王宮ニ―【華】、浄飯
王宮へ【真】

半ハ死シ半ハ生セリ―半ハ生キ半ハ死ス【真】

境ヲヘタテ、思フニ心苦シト―境ヲ去テ思ニ安カラス願ハ迎テ守護セ
ムト【華】／浄飯王可然トテ―御行ヲコレヘ成給ヘト大王可然トテ【真】

夫人ノ御行ヲ父善覺長者ノモトヘ成シ奉ラント結構セラル―夫人ヲ
幸^{ミユキ}ヲ結構ス【華】、夫人ノ御幸ノ儀式ヲ結構ス【真】

一万疋ノ象―一万ノ宝ノ象ニ【華】、マツ一切ノ宝ノ象ニ【真】

白米百斛ヲ以テ一ノ象ヲ一日飼フ程ノ象ヲ―白米一石ヲ以テ一日ノ
食トスカ、ル象ヲ【華】

又宝ノ馬―亦、宝象【華】

サイテ―挾テ【華】

七宝ノ具一也―七宝ノ中ノ【華】、七宝ノ【真】

皆箭―弓箭【華】、皆共ニ弓矢【真】

是一人当千ノ兵―是兵一人ハ皆千人ニ当ル勇兵也【華】

眷属ヲ―眷属ノ侍女ヲ【華】

属ヲ乗ス皆是淨飯王ノ種姓ノ上臈也其日
ノ結構ニハ夫人ノ車ヲ余ノ車ニマカハセシカ為
ニ男子ヲ以テコソ車ノ前キヲヤラスヘキニ
十七ハノ女人ノミメイツクシキヲエランテ
ヒンツラユイテ天冠ヲキセ其身ヲカサツテ
夫人ノ宝ノ車ノサキヲヤラス一万疋ノ大
象ノ歩ム足ノ音一万疋ノ宝ノ馬嘶ク音二
万五千ノ車ノ音二万ノ兵ノ物ノ具ノ音
伎楽ヲ成テ先ヲ追テ天臂城ヘ御行

「 11 オ

成ル心モ詞モヲヨハレス神ノ御行ハ是ヲマナフ
人民コソテ是ヲ浦山ストイフコナシ難レ受人

界ノ生ヲ受ケタル思出ニハ一日成トモ夫人ノ御
果報ヲ受タラハコソト乞願ハスト云フコトナシ
父善覺長者ノ果報モ思ヤルヘシ白米百斛
ヲ以テ一ノ象ヲ一日飼程ノ大事ノ象一万

疋マテ請取テ多日ノ間飼^レ之ヲ一万ノ宝ノ
馬二万ノ兵二万五千ノ車ノ中ニ乗シ種姓高貴

種姓ノ―種姓並キ【華】、種姓ノ【真】

男子ヲ―ここまで【石】になし

ミメイツクシキ―容顔奇異ナルヲ【華】、ミメ嚴ヲ【真】、兒嚴キヲ【石】

宝ノ車ノサキヲヤラス―車ヲ遣シム【石】／一万疋ノ―なし【石】

物ノ具―甲冑【華】

伎楽ヲ成テ先ヲ追テ―伎楽歌詠ヲ成テ前ヲ遣テ【華】、伎楽音楽ヲ
成シテサキヲヲウテ【真】、伎楽ヲナシテ前ヲ払テ【石】

心モ詞モヲヨハレス神ノ御行ハ―今、神明ノ御幸ト云ハ【華】、神
ノ御行ハ【真・石】

コソテ―挙テ【石】／是ヲ浦山ストイフコナシ―拌^{ツシ}羨ミ抑スト云
コトナシ【華】、見テ浦山スト云コトナシ【真】、是ヲ浦山スト云事
ナシ【石】

一日―一日【華・真】

乞願ハスト云フコトナシ―乞願フ【真】、乞願【石】

白米百斛―白米一石【華】、白米百石【石】

一ノ象ヲ一日飼程ノ大事ノ象―一疋ヲ飼程ノ大象ヲ【華】、一疋ノ
象ヲ飼事一日スラナリ夫ヲ【石】

ノ上臈ヲ請取テ数日はヲ眷顧スル果報ノ

「11ウ

目出タサヨト宮殿樓閣ハ毘沙門大王ノ吠宝羅摩

耶城ニ不異七宝琳琅充滿シ宮殿樓閣金銀ヲ

鏤メ七宝ヲ雜ヘテ採色十善ノ王宮ニモスクレタリ

善覺長者ニ夫人有蘭毘尼ト名ク五天ニ果報

勝レテ容顏端正也其計賢クシテ善賢長者語ル

釈種大臣皆園ヲ莊ル願ハ長者我カ為ニ一ノ園

ヲ莊リ給ヘ長者蘭毘尼ノ為ニ莊ル園ナレハ蘭毘

尼園ト名ク園ノ莊嚴微妙也池ヲ堀リ嶋

ヲ築^{ツキ}宝ノ橋ヲワタシ宝ノ船ヲ浮ヘタリ池ノ

底ニハ明月真珠ヲ敷底ノ沙トセリ琥珀婆

梨ヲ以テ浜ノ沙トセリ園ニハ宝ノ樹ヲ殖エ

色^{アサヤカ}鮮カナル華ヲ殖タリ池ノ内ニハ鳧雁鴛

鴦ヲスマセタリ摩耶夫人ノ眷屬園ニ入テ

上臈―侍女【華】／眷顧スル―結構スル【石】

目出タサヨト―拙ト云ンヤ【華】

七宝琳琅充滿シ宮殿樓閣―七宝琳琅充滿シ【華】、七宝琳琅宮殿樓

閣ニ充滿シ【真】、七宝琳琅充滿セリ宮殿樓閣【石】

七宝ヲ雜ヘテ採色―なし【華】、七宝ヲ色ヘ綵ルコト【真】、七宝ヲ

色ヘタル事【石】

其計―其ノ^{ハカリ}畧事【石】／善賢長者語ル―善覺長者ニ語ル【華】、善

覺長者ニ語テ云【真】、善覺長者ニ語テ云為ニ【石】

釈種大臣―尺種王臣【華】、釈種大臣【真】

莊リ―備シ【石】／長者―長者尤可然トテ【真】、長者尤トテ【石】

園ノ莊嚴微妙也―園ヲ莊リ【華】、園ノ莊嚴勝妙ニシテ比ルニモノ

ナシ【真】、其莊ム微妙ニシテ鴨ノ鳴【石】

築―架^{ツキ}キ【華】、築テ【真・石】／ワタシ―懸【石】

沙―砂【華】／琥珀婆梨―琥珀頗梨【真】、琥珀【石】

沙―砂【華・真・石】／園ニハ―其底ニハ【石】／宝ノ樹―樹【華】

色―華ノ色【石】／華―花【華】／鳧雁鴛鴦ヲスマセタリ―鳧鴛栖

セリ【石】

眷屬園ニ―ワカ宮殿ニ入玉ヘリ園ノ有様見ノトテ蘭毘尼園ニ【華】、

我カ宮殿ニ入給ヌ其後園ノアリサマ見セ奉ラムトテ蘭毘尼園ニ入給

ヘハ諸ノ眷屬毛園ニ【真】、我宮殿ニ入給其後園ノ在様ヲ見奉ント

テ蘭毘尼園ニ入給諸ノ眷屬毛園ニ【石】

遊フ夫人ハ身ニハ芳シキ温ヲ浴テ七宝ノ車ニ

乗給ヘリ二万五千ノ車ニノリツレテ蘭毘尼

園ヲ見給フニ目ヲヨロコハシメ心ヲ樂ム夫人ハ

果報貴クシテ無憂樹ト云木ヲ愛シテ彼木ノ

本ニ坐ス無憂樹トハ紫キ翠ヲ交テ葉孔雀

「12ウ

尾ノ如シ茎者赤ク赤梅檀ニニタリ其香芳ハシク

シテ牛頭梅檀ノ如シ青連華ノ芳ヲ薫スカヤウ

ニ目出度木ヲ夫人愛シテ樹ノ枝ヲ夫人攀給フ

時ヲホヘサルニ太子ハ夫人ノ右ノ脇ヨリ生レ給フイマタ

地ニ下タマハサルニ切利天ノ王帝釈天ノ羽衣ヲ手ニ

マトフテ太子ノ玉体ヲイタキ取給フ仏法守護

ノ四天王金ノ床ヲ奉ル四天王ノ奉ル金ノ茵ニ

帝釈太子ヲスヘ奉ル難陀龍王跋難陀龍王

冷キ水ト熱キ水トヲ出シテ菩薩ニウフ湯ヲ浴セ奉ル

難陀龍王ハ兄也跋難陀龍王弟也時三十二ノ

瑞相蘭毘尼園ニ現ス道安淨妙ノ徳ト者穢シキ

「13オ

身ニハ芳シキ温ヲ浴テ七宝ノ車ニ乗給ヘリ―七宝ノ車ニ乗り身ニハ
芳キ湯ヲ沐シ【華】、身ニハ馨キ衣を着テ七宝ノ車ニ乗給【石】

二万五千ノ車ニノリツレテ―二万五千ノ侍女乗ツレテ【華】、眷属

モ二万五千ノ車ニ乗リツレテ【真】、眷属モ二万五千ノ車ニ乗テ【石】

樂ム―樂マスコト云コトナシ【華】、樂マシム【真】／夫人ハ―夫人

ハ【石】

果報貴クシテ―なし【真・石】／彼木ノ本ニ―なし【華・石】

紫キ翠ヲ交テ―葉ハ紅ト翠トヲ交ヘテ【真】、葉ハ紅ニシテ緑ヲ交

ヘテ【石】／葉孔雀―孔雀【華・真・石】

茎者―其花ハ【真】／赤梅檀―赤丹【石】／其香芳ハシクシテ―其

香芳シク【華】、其馨キ事【石】

青連華ノ芳ヲ薫ス―なし【華】、華ハ青蓮花ノ香薫給【石】

夫人愛シテ―愛シテ【真・石】／樹ノ枝ヲ夫人攀給フ―手ヲ攀ケ給【石】

下タマハサルニ―落サルサキニ【真】、落付給ハサルニ【石】／羽

衣―衣【華】

守護―擁護【華】

金ノ床ヲ―床ヲ【石】／金ノ茵―金ノ床【華・真・石】

熱キ―暖ナ【華】、温ナル【真】／菩薩―太子【石】

道安淨妙―道安淨好【華・真・石】／穢シキ物―国ノ内ニ臭ク穢キ

物皆失テ苑ノ内普ク芳シ地中伏藏精明ヲ

増ス者地中ニ無尽ノ財多シ果報イミシキ太子生

レサセ給フ時地内ノ賤トモ色ヲ増シ光ヲ放テ地ノ

上ニ顯レ日月モ留テ太子ノ玉体ヲ拜ミ給フ

江河ノ水モ逆ニ流レ生死ノ流ヲ留テ菩提ノ岸ニ

歸ンコトヲ表也今生レ給ヘル太子ノ前後左右

二百味ノ飯備ルイトナムコトモナケレトモ自然備滿

「13ウ

是福德ノ成就セル事ヲ表ス裁縫コトモナキニ嚴キ御衣

太子ノ御身ニカサル天神七宝ノ車ヲ引テ八方ヨリ来リ五百

ノ天女忉利天ノ甘露ヲ五百水瓶ニ盛滿テ太子ニ奉ル

五百ノ天女ハ掃ヲ以テ園ノ内ヲハク毒虫隠レ吉鳥鳴ク

ケハミ等ノ毒ノ出苑ノ中ニ隠^{カクレ}レテ更ニナシ鳳凰孔雀鸚

鵒迦陵頻等ノ鳥空ニ舞苑ニ鳴テ八寒八熱一百三

十六ノ地獄ノ衆生モ苦痛止テ心身安クシテ無^{ヒマ}隙苦ヲ受ル

物【華】、園ノ内ニ臭キ物皆失セテ【真】、園ノ中ニ臭ク穢シキ物【石】
苑―国【華・石】、園【真】

増シ―交エ【石】

上ニ―内ニ【真】／留テ―返テ【華】／拜ミ―礼シ【石】

菩提ノ岸ニ―菩薩ノ源ニ【華・真】、菩提ノ源ニ【石】

飯備ルイトナム―飲食炊ク【華】、飯備ル炊ク【真】、飯食カシク【石】
／自然備滿―なし【華】、自然ニ備リ滿ツ【真】、自然ニ備ハリ満足
ス【石】

是福德ノ成就セル事ヲ表ス裁縫コトモナキニ嚴キ―なし【華】、又
福德成就スル事ヲ表ス載ツ事モナキニ嚴キ【石】

忉利天ノ―天ノ【華】

園―国【華】、其【石】／毒虫隠レ吉鳥鳴クケハミ等ノ毒ノ出苑ノ
中ニ隠レテ更ニナシ―毒蛇毒虫ノ類悉ク皆隠レ去リ【華】、毒虫隠
レ吉鳥鳴ク蛇蝮等ノ害虫園ノ中ニ隠レテナシ【真】、毒虫カクレ吉
鳥鳴キ蛇クチハミ諸ノ毒虫國中ニ隠テナシ【石】

鳳凰孔雀鸚鵒迦陵頻等ノ鳥―孔雀ク鸚鵒鳳凰迦陵頻等ノ靈禽【華】、
鳳凰孔雀鸚鵒迦陵頻【真】、鳳凰孔雀鸚鵒迦陵頻伽【石】

空ニ舞―虚空ニ舞ヒ【石】／苑ニ鳴テ―園ニ轉リ【華】、其上ニ【石】
苦痛止テ心身安クシテ無隙苦ヲ受ル地獄ノ衆生ナレトモ仏力ニ依テ

地獄ノ衆生ナレトモ仏力ニ依テ身心ノ苦ヲ免ル是仏ノ
出世シ給フテ三途ノ衆生モ身心ノ憂ヲ除キ天上浄土ニ

「14オ

生ルヘキ瑞相也大ヨリ多ノ星下テ太子ニ近付奉ル

樹神形ヲ隠テ人ト成テ太子ニ仕フ太子金ノ床

ノ上ニ立テ東ニ向テ一ノ手モテハ天ヲ指シ一ノ手

ニテハ地ヲ指シテ天上天下唯我独尊是最後身

当度衆生ト初言シ給フ二ノ手ヲ以テ天地ヲ指スコトハ

上求菩提下化衆生四誓願ノ心ヲ表ス天上天下唯我

独尊ト云ハ天ノ上地ノ下唯我独尊トノ給フ上ハ菩薩ヲ極ツレハ

上モナシ下ハ衆ヲ化スレハ下モナシ故ニ三界ノ独尊ト顕レ給フ

コトヲ示シ給フ也自床下テ東ニ向七歩アユミ給ヘハ七本ノ」14ウ

青蓮華開テ菩薩ノ御足ヲウク南ニ向テ七歩シ給ヘハ

身心ノ苦ヲ免ル是仏ノ出世シ給フテ三途ノ衆生モ身心ノ憂ヲ除キ一
悉ク苦患ヲ免レテ心身安穩也一切衆生仏法ノ力ニ仍テ身心ノ苦惱ヲ
脱^{マスカレ}【華】、苦痛止テ身心安シ皆是偏ニヒマナク苦ヲ受ル地獄ノ衆
生モ仏法ノ力ニヨテ身ノ苦ヲ免レ心ノ憂ヲ除テ【真】、苦痛ヲ止テ
身心安樂ト云ヘリ是偏ニ無間ノ苦ヲ受ル衆生モ太子ノ生タマフ徳ニ
依テ身ノ苦ミヲ免ル心ノ憂ヲ除キ【石】

生ルヘキ瑞相也一^{マスカレ}生レ涅槃ノ常樂ニ至ルヘキ効也【華】、生ルヘキ
驗也【真】／大ヨリ多ノ星下テ太子ニ近付奉ル一諸ノ星宿下テ太子
ニ親近シ【華】

隠テ人ト成テ太子ニ仕フ一現シテ太子ヲ守護シ奉ル【華】

天上天下唯我独尊是最後身当度衆生ト初言シ給フ一天上天下唯我独
尊ト初言シタマフ【真・石】

二ノ手ヲ以テ一左右ノ手【石】

四誓願ノ心一四弘誓願【真・石】／天上天下唯我独尊ト云ハ一文ノ

心ハ【真】、天上天下唯我独尊ト云心ハ【石】

唯我独尊トノ給フ一唯我独尊シ【華】、我レ独リ尊シト也【真】／

天ノ上地ノ下唯我独尊トノ給フ上ハ一なし【石】／菩薩ヲ極ツレハ

一菩提ヲ極レハ【石】

衆ヲ化スレハ一衆生ヲ救ハ【華】、衆生ヲ救ヘハ【真・石】

七本ノ一七宝ノ【華】

青蓮華一蓮花【華】、青蓮花開ケテ菩薩ノ【真】／南ニ向テ御足

七本ノ青連華御足ヲ請テ西ニ向北ニ向ニモ各七本ノ青連
華生シテ太子ノ御足ヲウク是陸地青連華ノ徳ト云連
ハ自泥生シ自水コソ出ルニ陸地ニ蓮ス生スルコト難有国土普ク
芳ク天ヨリモ華フリ大地大ニ震動ス時ニ迦毘羅城ノ国
師大婆羅門ト甘露飯王ノ子摩訶摩耶大臣天下无双

ノ弓ノ上手後ニハ羅睺尊者ノ祖父耶輸多羅女ノ
為ニハ父悉達太子ノシウト、成給ヘリ国師大婆羅門ト
摩訶摩耶大臣ト二人驚テ云何事ソ天ヨリ華フリ大地
—— 15オ

大ニ動ク国土普ク芳シク成ルトテ浄飯王宮ヨリ出テ蘭
毘尼苑ニ入時ニ青衣天子宮ノ内ヨリ出テ、云ク大臣不
知スヤ夫人太子ヲ誕生シ給ヘリ生シ給フ時園ノ中ニ三十二
ノ瑞相現シ国土芳シ天ヨリ宝ノ華フリ太子ノ御身ニ三十
二相ヲ備テ目出度ヲハス急^イキ浄飯王宮ニ參テ此由ヲ奏
セヨト云二人ノ大臣此由ヲ聞テ国土普ク芳ク天ヨリ華

雨リケルモ太子誕生ノ瑞相ニコソマシ／＼ケレトテ浄飯王宮ニ
參テ大王ニ太子誕生ノ由ヲ奏ス大王大ニ喜テ二人大臣

ヲウク——南西北方モ各七歩シ玉ヘハ七宝ノ蓮花開テ菩薩御足ヲウク
【華】、西ニ向テ亦如是【石】

青連華——蓮花【真】

青連華——生蓮花【華】、生蓮【真・石】／連ハ——蓮ハ【華・真・石】
蓮ス——なし【華】

華——種々ノ花【華】、花【真・石】／震動ス——動ク【華・真・石】

大婆羅門ト——大婆羅門アリ一切ノ理ヲ知り教ル智臣也賢人也故ニ国
師ト云フ【華】、大婆羅門アリ一切ノ理ヲシリ国ノ政ヲ教ル智臣也
賢人ナリ故ニ国師ト云【真】、大婆羅門一切ノ理ヲ知テ国ノ政ヲ教
ル知臣也賢人也故ニ国師ト云【石】／子——第二ノ王子【華・真・石】
羅睺尊者ノ——羅睺羅尊者ニハ【華】、羅睺羅尊者ノ【真・石】
国師大婆羅門——国師婆羅門【華】

華——花【真・石】

大ニ動ク——震動シ【石】

青衣天子宮——青衣宮【石】

誕生シ給ヘリ生シ給フ時——三十二相ヲ備テ目出度ヲハス——誕生シタ
マハクニ無量ノ不思議トモ多シテ目出事限ナシ【石】

此由ヲ聞テ——速ニ王宮ニ還テ奏シ白ス大王聞食シテ【華】／国土普
ク芳ク——国土普ク動キ【真・石】
マシ／＼ケレ——奏スルコトコソ——なし【華】

ニ向テ何事ノ所望カ有悉ク叶ヘシ悦ノコトヲ奏スルコトコソ」15ウ
嬉シケレト勅シ給フ二人ノ大臣申サク太子ノ誕生シ給エル

コトノミコソ悦ヒ存候エ別ノ望ミ何事カ侍ルヘキト申時ニ

大王数万眷属ヲタナヒイテ十善ノ王宮ヲ出テ蘭毘尼

苑ニ行幸成給フ摩耶夫人宮中ヲ莊嚴シテ大王ヲ入レ奉リ

給フ青衣太子ヲ懷キ進セテ父ノ王ニ対面ノ時青衣太子ヲ

教テ申サク始テ父ノ王ニ対面シ給ハン時父ノ王ヲ拝

ミ給ヘト奉教青衣ハ親ヲ重クシテ拝ミ給ヘト教ウ何

ナル果報貴キ女人カアリケン三界ニ貴キ天帝釈

コソ太子ノ誕生ノ時ハイタキ取給ヒシカ此女人ヲ青衣ト」16オ

名付ルコトハ翠ノ衣ヲ着タル故也五色ノ中ニ青色ハ

春ヲツカサトル久キ榮ヘノ色深キ心有ヘシ父浄飯王云

暫ク太子父ノ王ヲ拝カマスシテ国師大婆羅門ヲ拝

カウテ後父ノ王ヲハ可拝教ウ青衣ハ親ヲ重クシテ父ヲ拝

メト教レハ大王ハ親ヨリ師ヲ重クスヘキ礼義ヲシメシテ

先ツ師ヲ拝メト教給フ是モ深キ心ノ有也今ハ世間ノ師

世俗ノ事ヲ教レトモ真諦法姓ノ理ヲ悟テ実相ノ理ニ

悉ク叶ヘシ―悉ク与エン【真】、悉ク与ン【石】

ノミコソ悦ヒ存候エ別ノ望ミ何事カ侍ルヘキト―何事カ是ニシカン

【華】、ノミコソ悦存シ候ヘ別ノ望ミ何カ有ルヘキト【真】、ヨリ外

ニ別ノ望何カ候ヘキト【石】

十善ノ王宮ヲ出テ―なし【華】

行幸成給フ―行幸成ヘシト大王然ヘシト勅シ玉ヘリ【華】／入レ―

請シ【華】

青衣太子ヲ懷キ―青衣ノ天女太子ヲ懷【華】、なし【石】

始テ父ノ王ニ対面シ給ハン時―なし【華】

青衣ハ親ヲ重クシテ拝ミ給ヘト教ウ―なし【華・真・石】／何ナル

果報貴キ女人カアリケン三界ニ貴キ天帝釈コソ―青衣ト云ハ帝尺天

也【石】

三界―欲界【華】／天帝釈コソ―天帝釈ノ化現也【真】

五色―五道【真】

云暫ク太子父ノ王ヲ拝カマスシテ―太子ニ向テ宜ク先ツ我【石】

父ノ王ヲハ―我ヲ【石】

真諦法姓―真諦法性【華・真・石】

入ル時ハ世俗ノ礼義皆仏道修行ノ功德也爰ヲ以先ツ父ヨリ

モ前キニ師ヲ拝セヨト教給フ也大王ト夫人ト宝ノ車ニ乗シテ」16ウ

訶私陀仙人ノ許ニ行幸成テ太子ヲ相セサセン為ニ

金一裹銀一裹ニノ布施ヲ借テ太子ヲ相シ給ヘト大王

勅シ給フニ仙人泪ヲ流ス我レ太子ニ何ナル相ノマシマスヤラン

ト怪ミ思召ス処ニ仙人涙ヲ拭テ申ク大王知食サスヤ

劫初転輪聖王コソ誕生ノ時三十二相ヲ具シテ御身ニ借ヘ

マシ／＼ケレ太子転輪王ニモ勝レ給ヘリ三十二相御顔

イツクシク八十種好ノ愛敬^{コマヤカ}艶也離塵清浄ノ徳ト者

水精ノ玉ノ如ク潔ク御膚エ透徹シテ水ヲカクレトモ露

モウルヲハス塵モ御身ヲケカサス玉体ナメラカニシテ

翠ノ簪艶ニシテ手ノ掌ヨリ足ノ踵ニ至マテ福德円満ノ

相ヲ備ヘ給フ家ニ有テ十九年転輪聖王ノ果報ヲ受ケ十

九ニシテ城櫛ヲ出テ六年苦行ノ後菩提樹本ニテ仏ト成テ

一切衆生ノ為ニ八万聖教ヲ説給フヘシ然ニ我身年老テ太

子ノ仏ニ成給ハン時紫摩金ノ色身ヲモ不拝四弁八音

ヲモ聴聞セサランコトコソカナシケレト思フニ泪モ不留誠ニ天

爰ヲ以先ツ父ヨリモ前キニ師ヲ拝セヨト教給フ也―なし【華・真・石】
夫人ト―なし【華】

訶私陀仙人―阿私仙人【華・石】

金一裹銀一裹ニノ布施ヲ借テ―金銀ノ宝ヲ与テ【華】、金一ツ、ミ

銀一ツ、ミ備ヘテ【真】、金一裹銀一裹ニノ布施ヲ備テ【石】

相―不祥ノ相【華】

拭テ―留テ【華】、押ヘ拭テ【真】、巾テ【石】

三十二相ヲ具シテ―三十二ノ瑞相ヲ現シ【華・真・石】／借ヘ―備

ヘ【華・真】、ソナワリ【石】

三十二相御顔イツクシク―三十二ノ勝相鮮【華】、三十二ノ御ミメ

厳シテ【真】、三十二ノ御兒メ厳ク【石】

八十種好―八十種【華・真】、八十ノ【石】／艶―濃^{コマヤカ}【華・石】

露モウルヲハス―御身モヌレス【華】

塵モ―塵垢【華】

簪―髮【華】／艶ニシテ―濃カ也【真・石】

家ニ―宮ニ【華】

城櫛ヲ出テ―城ヲ越テ【華】／仏ト成テ―正覺ヲ成シ【華】、成仏

シテ【真】

然ニ我身年老テ太子ノ仏ニ成給ハン時紫摩金ノ色身ヲモ不拝―金色
ノ相好ヲモ【華】

泪モ不留―涙ノ落ナリ【華・真・石】

上人間ニ難有太子コソヲハセト奉讀大王此コトヲ聞食シ御心

ヲキ所ナキナリト悦ハシキ物哉師子煩王ノ跡ヲモ繼キ迦毘羅城

ヲモ治メンスルニ子ノナキコトヲコソ恨ミツルニ是程難有太子ノ

— 17ウ

誕生シ給ヘルコトノウレシサヨト悦ヒ給フ何物ニカ乗給フヘキ

ト思召時忉利ノ天人善法堂ノ天衆毘首羯摩

天ヨリ下テ苑ノ中ニ現シテ七宝莊嚴ノ宝輿ヲ

送ル太子此玉輿ニ乗シ給フ時提頭羅咤天王此云持国

須弥ノ東ニ住ス毘留勒叉天王增長天南ニ住ス毘留軻

天王此云惡眼ト云広目トモ西ニ住ス毘沙門天王此云

多門天北ニ住ス此四大天王ノ現シテ小婆羅門ノ形ニ成

テ菩薩ノ玉輿ヲ荷蘭毘尼苑ヨリ淨飯王宮ヘ

入進ル時キ五百大臣各一ノ新シキ精舍ヲ造テ太子ヲ

— 18オ

待進テ大王ニ奏ス願ハ大王太子ヲ我精舍ニ入進セ給ヘ太

子ライハイ進セントテ五百ノ大臣五百ノ精舍ニ皆面々ニ種々

ノ宝ヲ施シテ太子ヲモテナシ奉ルサテモ太子蘭毘尼苑ヨリ淨

飯王宮ヘ入セ給フ道ノ間種々ノ奇特微妙ノ瑞相顯ル

五百天衆掃ヲ以テ道ヲハク五百ノ天女水瓶ヨリ

悦ハシキ物哉—悦ヒ玉ウコト限ナシ快哉【華】、ウレシキ物哉【真】、

悦シキ者哉【石】

子—王子【華】／恨ミツルニ—恨悲ツルニ【華】

ノウレシサ—なし【華】

善法堂—善法【華】

苑—国【華】／宝輿—輿【真】

提頭羅咤天王—多門天北ニ住ス此—提頭賴吒天王毘留軻叉天王毘留軻

沙門天王【華】、提頭賴吒天王毘留勒叉天王毘留軻叉天王毘沙門天等ノ

【真】、提頭賴吒天王ト毘留勒叉天王ト毘留軻叉天王ト毘沙門天王ト【石】

菩薩ノ—太子ノ【石】／荷—なし【真】

大王ニ奏ス願ハ大王太子ヲ我精舍ニ入進セ給ヘ—なし【華】、太子

ニ奏シ申様願ハ大王太子ヲ我精舍ニ入進セ玉ヘ【石】

太子ライハイ進セントテ—太子ライレ奉ラント奏スレハ大王是ヲ許

シ玉フ【真】、大王是ヲ免シ給フ【石】／五百ノ大臣—なし【華】、

大臣【石】／皆面々ニ種々ノ宝ヲ施シテ—各無量ノ珍宝ヲ集テ【華】

モテナシ—饗応シ【石】

天衆—天人【石】／道ヲハク—路辺ノ塵ヲ払ウ【華】／五百ノ天女—

水ヲ出シテ道ニソ、ク五百鴻五百ノ鶴空ニツラナル鳳凰

孔雀空ニ翔^カケル五百ノ青雀太子ノ御身ヲマロニメクル

太子仏ト成テ円光御身ニ現スヘキコトヲ表ス也太子ノ淨飯

王宮入り給フ日不思議多ク現ス五百ノ商人種々ノ宝ヲ 18ウ

以テ都ニ入テアキナフ時ニ大王宝ノ藏ヲ開テ皆是ヲ納給

五百ノ大臣所愛ノ娘ヲ其日シモ淨飯王宮ヘ參ス

太子ト同日五百ノ童子生ス悉達太子ヲ以テ五百ノ童

子王トス五百ノ童女生ス摩訶摩耶大臣ノ娘メ耶輸

多羅ヲ王トス五百ノ舍人生ス車匿舍人ヲ王トス五

百ノ駒生スコンテイ駒ヲ以テ王トス五百ノ龍王ノ女メ其

其日シモ淨飯王宮ニ參ル如此諸ノ悦ヒ皆悉ク成就ス

大王歡喜シテ宝ノ藏ヲ開テ百億兩ノ金ヲ出テ太子ヲ

供養シ給フ御名ヲ悉達太子ト名ク是ハ天竺ノ語也唐土 19オ

ニハ成就太子ト名ク一切利益衆生ノ相ヲ成就シ福智円満シテ

仏ト成給フヘキシルシノ御名也角宿日ト云宿ヨリ鬼宿日ニ至マテ

五百ノ天人【真】／五百ノ天女水瓶ヨリ水ヲ出シテ道ニソ、ク―五
百ノ象雪山ヨリ出テ太子ニ随ヒ奉ル【石】

五百鴻―五百ノ鳩【真】／ツラナル―烈【華】／鳳凰孔雀―五百ノ
鳳凰孔雀【華・石】

マロニメクル―廻テ守奉ル【華】、マワリニ繞ル【真】、マワリニ廻
ル【石】

不思議―不思議殊勝ノ事【華】

太子ト同日―太子誕生ノ日【真】

車匿舍人―舍匿【華・真・石】

コンテイ駒ヲ以テ王トス―なし【華】、健泥駒ヲ以テ王トス【石】
／其其日―其日【華・石】

悦ヒ―吉祥福德ノ事【華】

宝ノ藏ヲ開テ―なし【真】、宝ノ庫ヲ開テ【石】

是ハ天竺ノ語也唐土ニハ―此ハ梵語此ニハ【真】

成就太子―成利太子【華・真・石】／一切利益衆生ノ相―一切衆生
利益ノ相【華・真】／福智円満―福智万徳円満【華・石】、福智ノ

莊嚴万徳円満シテ【真】

七日七夜浄飯王ノ瓔珞ヲ莊^{カサ}リテ我太子ノ御身ニ着^キセ進^セ給フ
五百ノ大臣七宝ノ瓔珞ヲ莊^{カサ}リテ我瓔珞ヲ太子ニ奉ラント結講ス
五百ノ瓔珞ヲ面々ニ太子ノ御身ニ積ミラク鬼宿日ト云宿ハ一切
ノ吉祥ヲ成就スル日也面々ノ五百ノ瓔珞光ヲ失テ不現多ク

ノ玉光ヲカ、ヤカスヘキニ光ヲ現セヌコトハ太子ノ八万四千ノ
毛孔ヨリ金色ノ光ヲ放チ耀キ給フ御身ノ光リ瓔珞ノ光

陰テ不現喩ヘハ衆星ノ光アリト云トモ日中ニ如^ニ不見^ニ太子ノ」19ウ

光ハ如日ノ瓔珞ノ光ハ如星ノ故ニ太子ノ光ニ覆レテ諸ノ瓔珞
ノ光ハミエヌ也カヤウニ目出度太子生レ給ヒテ七日ニ母妃キ
摩耶夫人空ク無常ノ風ニ随テ忉利天ニ生レ給ヒ

又何故ニ果報イミシキ太子ヲ生奉ル夫人ハ早ク命
ヲ失給ヘルソト申セハ權者ヲ産ミ奉ル母ノ果報ノ
イミシクテ弥目出キ忉利天ニ果報ヲ受給ヘル也故ニ

夫人太子ヲ産ミ參ラセテ七日ニ命ヲ捨テ忉利天ニ生レ
給フ浄飯王宮ハ果報目出ケレトモ是人間ノ果報也忉利
天ハ天上ノ果報ニシテ目出所也八万四千ノ天人是ヲ恭敬ス」20オ

瓔珞―玉ノ瓔珞【華・真・石】

我瓔珞ヲ―我先ニ瓔珞ヲ【石】

面々ニ太子ノ御身ニ―太子ノ御前ニ【真・石】

多クノ玉光ヲカ、ヤカスヘキニ光ヲ現セヌコトハ―其故ハ【華】、
多ノ玉マ光ヲ失夫ヲ如何ト云ニ【石】

八万四千ノ―なし【華】

御身ノ光リ―なし【華・真】

衆星ノ光アリト云トモ日中ニ如^ニ不見^ニ―星ハ昼夜同ク空中ニ有ト
云ヘトモ昼ハ光ニ陰レテ見ヘサルカ如シ【華・真】、夜昼星ハ空ニ
在トモ昼ハ日ノ光ニ暗シテ星ノ見サルカ如ク【石】／太子ノ光ハ如
日ノ瓔珞ノ光ハ如星ノ故ニ太子ノ光ニ覆レテ諸ノ瓔珞ノ光ハミエヌ
也―なし【華】

七日ニ―なし【石】

摩耶夫人―なし【華・真】

イミシキ―メテタキ【華・真・石】

早く命ヲ失給ヘルソト申セハ權者ヲ産ミ奉ル母ノ果報ノ―早畢テ【真】
イミシクテ弥目出キ忉利天ニ―最尊ナルカ故此下界ノ報ヲ捨テ上界
ノ【華】、イヨ／＼目出キ忉利天ノ【真】、早く終テ弥目出度忉利天ノ【石】
産ミ參ラセテ―産奉ル功德ニ仍テ【華】／命ヲ捨テ―なし【華】
忉利天ハ天上ノ果報ニシテ目出所也―豈ニ忉利天ニ如カンヤ【華】
恭敬ス―恭敬シ奉ル宮殿樓閣人間ノ喩ヲ以テ云ヘキニ非ス然ルニ【華】

淨飯王ハ妃ノ御コトヲ悲ミ給フトイヘトモ太子産給フ時三十

二相ノ瑞相国ノ中ニ現シ三十二相御身ニ備テイミシキ

御坐セハ悦无極思ヒ奉ルニイツシカ七日ト云ニ母ニ別レ給フ

コト喜ノ中ノ悲ミ云及ハヌ次第也ト悲ミ給フコト無

限五百大臣各進出テ、太子ヲ請取進セテ我レカシツキ

敬ヒテソタテ奉ラント奏スレトモ大王ユルシタマハス諸ノ

采女望ミ願ヘトモ太子ヲ赦シ給フコトナシ時ニ摩耶夫人

妹摩訶婆闍波提ハ善覺長者ニ八人ノ娘アリ淨飯王

宮ニ參リ給フ摩耶夫人ハ第一ノ娘メ淨飯大王ノ第一ノ
「20ウ

妃キ悉達太子ノ御母也摩訶波闍波提ハ太子ノ御姨母也大

王ノ御前ニ進テ奏シ給フ我ハ是摩耶夫人ニハ妹悉

達太子ニハ姨母也太子生レテ七日ニ夫人ニ別レ給フコト無

限也然トモ太子ノヲハスコソ貴ク思ヒ奉レ大王御心苦

敷不可思食我太子ヲ不生ト云計也奉ニ養育ニ摩訶

波闍波提ニ太子ヲユルシアタヘ給フヘシ恭敬養育シ奉

ラント大王是ヲ聞食シ尤可然トテ太子ヲ摩訶波闍波提ニ

アツケ奉給フ摩訶波闍波提三十二人ノ采女ヲ撰ヒテ太子ニ

妃ノ御コトヲ悲ミ給フトイヘトモ太子ヲ悲玉ヘリ【華】、太子ヲ
悲ミテノ玉ハク【真・石】／太子産給フ時三十二相ノ瑞相国ノ中ニ
現シ―なし【真・石】

无極―極ナリ【華・石】／七日ト云ニ―なし【華・真・石】
喜ノ中ノ悲ミ―なし【華・真・石】

太子ヲ赦シ給フコトナシ―不レ叶【石】

妹―弟妹【華・真】／善覺長者ニ八人ノ娘アリ―善覺長者ノ乙娘也
長者ニ八人ノ娘アリ【華・真】、善覺長者ヲト娘也善覺長者ニハ八
人ノ娘アリ【石】

悉達太子ノ御母―なし【華】／太子ノ御姨母也―最弟ノ娘則太子ノ
御伯母也【華】

無限―限ナキ恨【華】

云計也―計コソ夫人ニヲトリ申ヘキニ非ス【華】／養育―養長【石】
恭敬養育―養育恭敬【石】

奉付給フ皆是ミメイツクシクシテ心口賢ク能多ク種姓高」21オ

貴人也皆是淨飯王ノ種姓也三十二人ト者乳房ヲ

含メ奉ラン為ニハ八人イタキ奉ラン為ニハ八人御湯アフセ奉ラン

為ニハ八人アソハシメ奉ラン為ニハ八人四八三十二人也淨飯大王ノ

宮殿ヲ造テ太子ニ奉リ給フ夏ノ料ニハ冷シキ宮殿冬

ノ為ニハ熱ナル宮殿春秋ノ為ニハ春秋殿トテ寒カラス熱

カラヌ宮殿ヲ造テ太子ヲ奉^ル置^キ一此三ノ宮殿ニ坐シシテ

三十二人カ采女ニカシツカレテ既ニ七歳ニ成リ給ヘリ太王我太子

七歳ニナレリ学文ヲ勸メ奉ラント思召大覺堂ヲ立テ勸学

院ヲ構ヘ又五天竺ノ大学匠毘沙波密多羅ヲ請シテ大学頭」21ウ

トシテ太子五百ノ童子トトモニ羊ノ車ニ乘リツレテ觀学院ヘ入セ

給フ毘沙波密多羅太子ノ威德ノ目出キヲ奉見掌ヲ合

太子ヲ拝ミ奉リテ恥タル気色有リ何故ニ恥ツルソトイ

ヘハ弟子コン師ヲハ拝ム礼ハアレ師カ弟子ヲ拝ムコトハ

太子ノ威德ノ飲^ルリニ貴ク在スコトヲミ奉ルニ心ノヲキ所ナク

テ拝ミ奉ラント強^{マカチ}ニ不^レ思^フトモ自然ニ拝マル、也又カ、ル目出

ミメイツクシクシテ―容顏美麗端正ニシテ形イミシク【華】、ミメ
形子嚴シテ【真】、形嚴ク【石】／能多ク―種々ノ技芸ニ達シ【華】、
能芸【石】

種姓―種族【真】

御湯―御温【真】

四八三十二人也―なし【華】、已上三十二人也【石】

宮殿―三処ノ宮殿【華】、三ノ宮殿【真】／夏ノ料ニハ―夏ノ為ニ

ハ【華・真】、夏ハ【石】／冬ノ為ニハ―冬ハ【石】

太子ヲ奉^ル置^キ―なし【石】

太王我太子七歳ニナレリ―なし【石】

大覺堂―大學堂【華・真・石】

大学匠―大學聖【真】、第一ノ学匠【石】／大學頭―師【華】

羊ノ車―五百ノ羊ノ車【華】

目出キヲ―尊勝ナルヲ【華】、なし【真・石】

恥タル―慚惶ノ【華】／恥ツルソ―慚ルソ【華】

拝ムコトハ―拝ムコト恥ルナリ【華・真・石】

威德ノ飲^ルリニ貴ク―余ニ威德巍々ト【華】／心ノヲキ所ナクテ拝ミ

奉ラント強^{マカチ}ニ不^レ思^フトモ―覺ヘスシテ拝ント思フ心在テ【華】、心ノ

置処モナクテ思ハサルニ【真】、心ノ置所モナクシテ思サルニ【石】

又カ、ル目出太子御師範ニ參ランコト片腹痛ク覺テ恥タル気色顯ル

也―なし【華・真・石】

太子御師範ニ参ランコト片腹痛ク覺テ恥タル氣色

顯ル也教経ノ説ニハ八歳ノ時ヨリ学文シ給フト説ケリ昼夜

ニ学シ給フコト二年也纔ニ二年ノ間学シ極テ返テ師ノ

」22オ

毘沙波密多ニ教給フ淨飯大王我太子既ニ学文極テ師ニ

教ヘ給フ五天ニ並者ナク今ハ百ノ能ヲ付ムト思召ス忍天ハ能

者也忍天ヲ請シテ師トシテ諸ノ能ヲ学給フ程ニ僅ニ二年ノ

内二十九種ノ義芸ヲ習ヒ極ム十九種ノ義芸ト者車ニ

マタカル象ヲ越エ走り疾ク情聡拳堅シ物ノ響ヲ聞テ

射ニ必当ル結レタル髪ヲトクコト早シ車ニマタカルトハ二ツノ車ノ
長

柄ヲ歩テ手ヲ放テ二車ヲハスルワザヲシ給フ象ヲ越ト

者極テ大二高キ象ヲ前ヘ飛ヒ後エ飛テ象ヲ越ル態也

馬ヲ百疋計立テ二疋三疋ノミナラス百疋計馬ヲツ、ケテ」22ウ

教経―或経【華・真・石】／尽夜ニ学シ給フコト二年也―諸ノ書論
ヲ学シ極ムルコト二年ノ間也古今ニ希有ナルコト也【華】、太子ハ
歳ヨリシテ書論学シ極ルコト二年ノ間也古今有難シ【真】、太子ハ
八歳ヨリ諸論ヲ学シ極ル事二年ノ間也古今難有【石】

師ニ教ヘ給フ―なし【華・真・石】

忍天ハ―忍夫トテ【真・石】／能者也―太子ニハ伯父善覺長者ニハ
子ナリ天下無双ノ能者ナリトテ【華】、太子ニハ母方ノ伯父善覺長
者ノ子天下無双ノ能者ノ【真】、太子ニハ母方ノ伯父善覺長者ニハ
子天下無双ノ能者【石】

忍天ヲ―忍夫ヲ【真】

十九種ノ義芸ヲ習ヒ極ム―十九種ノ伎芸ヲ習イ極玉ヘリ十九種ノ伎
芸ヲ習イ極玉ヘリ【華】、十九種ノ伎芸ヲ習極ム十九種トハ【真・石】
車ニマタカル象ヲ越エ―車ニ跨象ヲ飛シ馬ヲ超ヘ【華・真】、車ニ
マタカリ象ヲ飛馬ヲ越【石】／拳堅シ物ノ―獸ノ【石】

歩テ―踏テ【華】、なし【石】／越―飛【華・真・石】

飛テ象ヲ越ル熊也―トヒシ玉イケリ【華】、トヒ象ヲ越ルニ障ナシ
馬ヲ越トハ【真】、越ルニ障リナシ馬ヲ飛トハ【石】

馬ヲ百疋計―コト自在也―なし【華】、馬ヲ百疋ハカリ立テ、ツ、ケテ

ハネ越飛越前ヘトヒ後エ飛給フコト自在也歩ニナルヲモナラサ
スシテアリキ給フ物ノ響ヲ聞テ射ニハツシ給フコトナシ

如此義芸書論ノ達者ニテ五天竺ノ中ニ並ナキ能

者学匠也御年十二歳ノ時太子大臣ト共ニ東ノ門ニ

出テ、遊ヒ給フニ善知識作瓶天子老人ノ相ヲ現シテ大

子ノ御前ニ有リ異相ナル者見習ハス是ハ何者ソト

問ヒ給フ大臣老人ト申テ年傾ル人也答ヘ申ス太子

サテハウカリケル世ノ習哉生ヲ受クル者老苦トテ

年ノ傾ル悲ミ有リケリ我身モカヤウニ老衰ヘキ也心

憂ルヘシ生ル事キノフノヤウニ覺ユルニ首ノ髪白ク成ルヘキ

コト程ナシ若ク盛ニシテ楽ミホコルトモ老衰テ腰カ、マリ

額ニ皺タ、ムテ足手ノ力不合期シテ杖ニ助カル老人トナル

ヘキコト無疑何トシテ此理ヲミナカラ楽ミホコラントテ遊ヲ

止メ宮ノ中ヘ還御ナル大臣ト太子又南門ヨリ出テ遊

給フニ善知識ノ作瓶天子病人ノ相ヲシメス是何物

ソト問給フニ病人トテ病スル人也ト申ス太子聞召

ハネ越ヘ飛越ヘ前ヘコヘ後ヘコエ玉ヘリ【真】、馬ヲ百疋斗リ立テ二疋
三疋ノミナラス百疋計ノ馬ツ、ケハネ先ヘ飛又後エ飛越玉ヒケル【石】

物ノ響ヲ聞テ射ニハツシ給フコトナシ―なし【真・石】

義芸―伎芸【華・真】、義武芸【石】

能者学匠也―能者学生也【華】、能者学聖也【真】、なし【石】

覺ユルニ―ヲホユルトモ、十二年ノ経ルコト須臾ノ如シ【華】

楽ミホコルトモ―なし【石】

額ニ―面テ【華】／足手ノ力不合期シテ杖ニ助カル老人トナルヘキ

コト―手足ワナ、ヒテ力ナク杖ニ扶テタニヨワキコト【華】、足テ

ヨロホヒテ力ヲ合期セス杖ニ助ラレ老人トナランコト【真】、足ヨ

ロホイ身合期セス杖ニ助ラル、老人ト成事【石】

楽ミホコラン―楽ミ耽テ遊フヘキトテ【華】、楽ミニホコテ遊ヘキ

トテ【真】、楽ミホコリ遊ヘキトテ【石】

善知識ノ―なし【石】

太子聞召テ悲歎テノタマハク―なし【真・石】

テ悲歎テノタマハク生アル者ハ病苦トテ病ヒスル苦ミ不_レ可_レ免ル

翠ノ髪カシケ玉体忽ニ替リ食物ノ事ヲモ忘_レ衣ル物 ー 23ウ

ノコトモ不覺恥ヲモ不_レ顧ミ病ニ責ラル、苦ニ身ノ置所モ不
覺責メ被臥テ病難_レ堪音ヲ立テ憂ルヲミルニ何ノ樂

カ可有生ヲ受タル万ツノ人皆此悲ヲ不可免トテ宮中へ還
御ナル又西ノ門ヨリ出給へハ善知識ノ作瓶天子死人ノ
相ヲ現ス太子是ヲ御覽シテ是ハ何ナル者ソト問給へハ死
人ト申テ魂サリ命ヲ失ヘル人也ト大臣答フ太子此事ヲ
聞食テ悲憂テノタマハク識々タル黒髪モヲトロカ上ニ散リ

乱_レ蓬カ本ニマトヘルヲミテ誰カ是ヲ可愛サン織々_{サレ}トシテ白ク
艶ヤカナル手ツキ細麗シテカイノ如クナルモ草葉ノ下ニ朽 24オ

破_レテ何ノ甲斐カ有ル芬々トシテ芳ハシキニホイハ風ニ

随テ飛ヒ去リ冷々トシテクサキシル九ノ穴ヨリハキアカル日来

病ヒスル苦ミ不_レ可_レ免ルー病苦トテ悩ム、苦ミ脱_レ難キ悲ミ【真】、
難_レ免悲アリ【石】

食物ノ事ヲモ忘_レー貌ノ事モ忘_レ【真】、食ノ事モ忘【石】／衣ル
物ー衣【石】

苦ニー悲ノ言ヲ以テノフヘカラス【華】

責メ被臥テ病難_レ堪音ヲ立テ憂ルー苦病ニ責タキラレテ恥ヲモワス
レ身ヲモシラス音ヲ立テ叫ヒカナシムアリサマ【華】、セメラレテ、
病ノ難堪一キ事ヲ音ヲタテ、憂ル【真】、責立トテ病ノ堪工難キ事
ヲ声ヲ立テ憂ル【石】

万ツノ人ー形アル者【華】／悲ー苦【華】

悲憂テノタマハク識々タルー悲嘆シテ云クカシケタル【石】／ヲト
ロカー荊棘【華】

マトヘルーノコリマトヘル【真】、残レリ【石】

手ツキ細麗シテカイノ如クナルモ草柴ノ下ニー手足モ叢ノ中ニ【華】、
手付ノ細ク麗クシテ鶏冠ノ如クナリシモ【真】、手ツキ細クウルワ
シキ鶏冠木ノ如ナルモ藜ノ中ニ【石】

芬々トシテー馥トシテ【華】、馥々トシテ【真】、フク／＼トシテ【石】

／ニホイハ風ニー香氣モ【華】、氣キハ風ニ【真】、ハ風ニ【石】

冷々トシテー嶮々トシテ【真】、セン／＼トシテ【石】／ハキアカル日

好ミ昵ヒシ妻子モ是ヲミテハニケサル親モ疎モ鼻ヲ

覆テ厭ヒ惡ム此死苦ニアヘル悲ミ云ニ不足^{ユタカナ}ヲ万宝ノ中ニ
命ヲ為第一是程ニヲシキ命ヲ失フ悲ミニアハンコト誰カ

遁ン如此シテ此死苦ヲ可免トテ遊ヒヲ止メテ宮中へ還御

ナル自是シテ後ハ生老病死ノ四ノ苦ヲ憂ヘテ通夜終日ニ

悲ミ給フニ太子大臣ト共ニ北門ヨリ出テ、ミ給フニ首ニハ悩

レ煩ノ黒髪ヲ剃リ身ニハ解脱ノ法衣ヲキ手ニハ慈悲ノ
「24ウ

錫杖ヲツイテ一人ノ沙門アリ太子是ヲ御覽シテ見慣ハヌ形

哉汝ハ何ナル人ソト問給ヘハ沙門答テ云ク我ハ是沙門トテ憂

世ヲ遁レ生死病死ノ四苦ヲ離レテ正直ノ道ヲ修ス生

モセス死モセス仏ト成コトヲ得ント求ル仏法修行ノ者也

ト申ス太子是ヲ聞食テ歎喜無極云何ニシテカ此生老

病死ノ四ノ苦ミヲ遁ルヘキト朝暮歎キ悲ミツルニ不生不滅

ノ理ヲ聞コトコソウレシケレ今ハ此道ヲ修行セント思食立

テ何事モ空キコトニ思召ナシテ偏ニ出家ノ御出立ヲノミ

来好ミ昵ヒシ―涌流ル【華】、ワキアカル【真】、桶上ル【石】

親モ疎モ鼻ヲ覆テ―親類モ面々手ヲ覆テ【華】、親疎ハ面ヲ覆テ【真】、
親疎甚タ【石】

不足ラー云ニ足ラス【真】、タエス【石】

為第一―第一ノ宝トス【華】、第一トス【真・石】／ニアハンコト
―何事カ是ニシカン【華】

通夜―終夜【石】

見慣ハヌ―見習ワヌ【華・真・石】

生死病死―生老病死【華・真・石】／正直―無漏正直【華】、無病

正直【真・石】

理ラー理ヲ証スヘキ法ノ道ノアリト【華】、理ヲ証スヘキ法ノ道ト

【真】、理ヲ証スヘキ御法ノ道有ト【石】／今ハ此道ヲ修行セン―

我レレ早ク世ヲ遁レ家ヲ出テ道ヲ修セン【華】、我レ早ク世ヲ遁レ

家ヲ出テ、道ヲ行セン【真・石】

空キコト―夢幻ノ空キコト【華】／思召ナシテ―我レ子ナキコトラー

ソ思召ケル大王是ヲ御覽シテ歎悲給ヘリ何心シテ太子 ー 25オ

恨ル心深く明暮物ヲ思フ気色アリ我レ子ナキコトヲ恨ツル
ニ是ホト賢ク何事モ人ニ勝レテイミシキ太子ノ生レタレハ
国ノ位ヲモ継キ世ノ政ヲモ治メンコトノミタノシミ頼母敷思

ニ翼様ニ明ケ暮レ物ヲ思イ世ヲウキ物トノミシ給フコト
コソ心苦シケレ人ノ心ノシツマルニハ吉キ妻男ノ縁コソアレ

トテ太子ニ吉キ后ヲ付ケ奉リテ心ヲシツメ思ヒヲ止サセ
ハヤト思召太子同日ニ生レタル五百ノ大臣ノ娘アリ何
レモ愚カナラスイツキカシツキテ貌ヨキ娘メ共也父大臣
我娘ヲ悉達太子ノ后ニ納メハヤト面々ニソ思ケル浄飯 ー 25ウ
王思召ヤウ太子ハ独坐ス童女ハ五百人アリ何ノ大臣ノ娘
カ太子心ヲ留メ給フヘキト思召テ計ヲ案シ出シ給ヘリ

五百ノ大臣ノ娘ヲ我カ太子ニミセテ撰ハセシム男女ノ習ハ
心ヲ留メハ目ヲモカケ物語ヲモセンスラン其ヲ后ト納メン
ト思召テ五百ノ大臣ノ許ヘ浄飯大王宣旨ヲ被下

今日ヨリ七日ノ間五百ノ大臣ノ娘ヲ莊嚴シテ今七日トイ
ハン日太子ノ宮ノ内ニ入テ我カ子ノ悉達太子ニ対面ヲ
遂ヨ種々引出物数ノ宝ヲ施サント五百ノ大臣此宣

なし【真】

気色アリ―ケシキニテ心イタミ静ナラサル【華】、気色有テ不閑【石】
勝レテ―忘テ【石】

タノシミ頼母敷思ニカ様ニ明ケ暮レ―憑敷クウレシキニ【華】、憑
シキニカ様ニ心ニ【真】、願フニカ様ニ心ニ【石】

ノシツマルニハ吉キ妻男ノ縁コソアレトテ太子ニ―なし【石】／男
―夫【華・真】

止サセハヤ―慰メサセハヤ【石】

大臣ノ娘アリ―童女アリ皆五百ノ大臣ノ娘メ也【華・真・石】
愚カナラス―ヲトラヌ【華】

浄飯王思召ヤウ―なし【華・真・石】

計ヲ案シ出シ給ヘリ―大王何ノ童女カ太子ノ心ニ合ヘキト謀ヲ案シ
廻シ玉イテ【華】

目ヲモカケ―自ラ【華】

皆ヲ蒙テ我ヲトラシト娘ヲモテナシカシツキ莊テ太子ノ「26オ
御目ニモカ、リ后ニモ納レカシトカシツキ莊テ太子ノ思ヒキ
既ニ七日ト云日五百ノ大臣ノ娘身ヲ莊リ侍女相具シテ太子ノ

宮ニ入ル遙ニ太子ヲ奉見ミメカタチイツクシクシテ光リ

耀ク間女人コソミメヨカルヘキニ太子ノ御ミメニハヲトリタル

コトヲ思ヒテ或ハ顔ヲソハメ面ヲムカヘス物云ニ不及シテ
種々ノモテ遊ヒ物ヲタマハリテ空皆カヘリヌ良久敷

シテ師子頬王ノ御孫淨飯王ノライ甘露飯王ノ

第二ノ太子摩訶摩那大臣ノ娘メ耶輸多羅女ミ

メカタチイツクシク心サマ賢コクシテ振舞重ク侍女ニカシ「26ウ
ツカレテシツカニ歩ミ給フアヲノカスウツフカス左ヲモ不顧右

ヲモ不顧タ、シク歩ミテ本ヨリ相知レル人ノ如クシテ

少モハ、カル所ナシ遙ニ面ヲアケ太子ヲ奉見自ラ語ヲ
出シテ申ク太子何ノ故ニ自ラヲハ呼給ヘルソト太子君ノ

ヲソク在ス故ニ多クノモテ遊ヒ物皆尽キヌ何ヲカ施ス

引出物数ノ宝ラー珍宝【華】／カシツキーなし【石】

納レカシトー納リテ榮花ヲ開ケト思相ヘリ【華】

既ニ七日ト云日ー今日ヨリ後七日有テ【華】／侍女相具シテー侍女
ヲタナヒキテ【華】、侍女ヲ聳テ【石】

宮ニ入ルー宮ニ參ル【華・真】／ミメカタチイツクシクシテー容顏
端正ニシテ【華】

耀ク間ー耀キ間【石】／ミメヨカルヘキニー顔モヨカルヘキニ【石】
／御ミメー御顏【石】

或ハ顔ヲソハメ面ヲムカヘスー各カホ、アカメ面ヲ向ヘス【華】
空皆カヘリヌー皆空ク返サレヌ【華】

甘露飯王ノ第二ノ太子摩訶摩那大臣ー甘露王ノ第一ノ太子摩訶摩耶
大臣【華】

娘メー姫【石】

ミメカタチー顔形【石】

歩ミ給フー歩ミ出給ヘリ【華・真・石】／左ヲモ不顧右ヲモ不顧ー
左右ヲ顧ミス端正美麗ニシテ【華】

タ、シク歩ミテー真ニ真シク歩ユミイテ、【華】、真シク歩ミヨリテ【真】
／本ヨリ相知レル人ノ如クシテー本ヨリ見シレル人ノ如シ【真・石】

ハ、カル所ナシー憚カラス【石】

申クー申玉ハク【石】／呼給ヘルソーメシタマヘルソ【華】／太子
ー太子宣ハク【華】、太子ノ玉ハク【真】、太子宣ク【石】

多クノモテ遊ヒ物皆尽キヌーカスヲ翫ソフ具クミナ付ヌ【華】／施ス

ヘキトテ百億両ノ金ノ直ヲ以テ瑩キ造レル玉キト云フ
物ヲ御手ニヌキ入レ給ヘルヲ取出テ耶輸多羅女ニ奉リ
給フ耶輸多羅女此玉キヲ重キ宝ニテ侍リ太子ノ

御為ニハ我身ノ上ノ瓔珞ヲモ可奉イカニ太子ノ御莊リ
「27オ

ヲ給ルヘキニ唯太子ノ御身ヲ莊リ給トテ耶輸多羅

女タマキヲ奉返シヌ浄飯大王使トテ心賢キ上臈女房

ヲエラヒテ密ソカニウカ、イミセラル五百ノ大臣ノ娘メ

何レニカ御心ヲモカケ語ヲモカケ給フ其ヲ后トセントテウ

カ、イミセ給フニ密使返テ奏ス大王ウレシキコトコソ候

ヘキ―施シ奉ルヘキ【真】、奉ヘキ【石】

奉リ給フ―賜ウ【華】

此玉キヲ―此環ヲ賜テ【華】／重キ宝ニテ侍リ―重キ宝ニテ侍ル物
ヲヤト白シ玉ウ太子宣ク君ノ為ニハ身ノ上ノ瓔珞ヲモ奉ラント【華】、
重キ宝ニテ侍ル物ヲヤト申玉ヘハ太子ノ玉ハク君ノ為ニハ身ノ上ノ
瓔珞ヲモ奉ラント思也ト【真】、重宝ニテ侍物シヤト申給エハ太子
君ノ為ニハ身ノ上瓔珞ヲモ奉ト思也ト宣ク【石】

太子ノ御為ニ我身ノ上ノ瓔珞ヲモ可奉イカニ太子ノ御莊リヲ給ルヘ
キニ唯太子ノ御身ヲ莊リ給トテ―耶輸多羅女環ヲ賜テ瓔珞ヲハ只太
子ノ御身ヲ莊玉ヘトテ【華】、耶輸多羅女サレハトテ【真・石】

耶輸多羅女タマキヲ奉返シヌ―返シ奉玉ヒヌ【華】、耶輸多羅女返
リ玉ヌ【真】、太子ヲ剥奉ニ及ハス只太子ノ御身ニ莊リ玉ヘトテ耶
輸多羅女返リ下ヌ【石】

浄飯大王使トテ―浄飯大王【石】

密ソカニ―竊カニ【華】、潜カニ【真】、竊ニ【石】／五百ノ大臣ノ
娘メ―五百ノ童女【華】

何レニカ―何レノ姫ニカ【石】／語ヲモカケ給フ―詞ヲモ交エ玉ケ
ル【石】／后トセシトテ―后ト定ムヘシト【華】

ウカ、イミセ給フニ―仰含ラル、【華】、伺ヒミス【石】／奏ス―
奏スラク【華】、此由ヲ奏ス【真】、奏シテ【石】／ウレシキコトコ
ソ候エ―大ナル喜悦ノ事侍ヘリ【華】、悦ノ事コソ候ヘ【真】、御悦

エ五百ノ大臣ノ娘何レモイミシク候エトモ太子御目ヲモ
不懸給ハシテ皆空ク返シ給ヒヌ摩訶摩那大臣ノ娘

耶輸多羅女ハ天竺ニ无並美人ニテ振舞ケタカク

心サマ賢クテ万ツノ人ニハ勝レタリミメ云心ト云世ニタ」27ウ
メシスクナキ人也重ク振舞在シテケタカサ申ニ不及サレハ太

子良久ク懇ニムツ物語候ツルト奏ス大王此ヲ聞召
テ悦ハシキ物カナ太子ノ心ヲモ留メ思ヲモ忘レ位ヲモ継キ
政ヲモ治メ給ハンコトサレハ耶輸多羅女ハ故ニコソサラハ

宣旨ヲ下サントテ勅使ヲ立給フニ摩訶摩那大臣

宣旨ヲ蒙テ我娘メヲ后トマイラセンコトヲコソ悦ヒ

ノ事コソ候ヘ【石】／候エー坐セ【石】

不懸給ハシテ―カケ玉ワス【華】、カケサレハ【真】、係候ハス【石】
／返シ給ヒヌ―皆、空ク返リヌ【華】、空ク返リヌ【真】、空ク返リ
候フ【石】／摩訶摩那大臣―摩訶摩耶大臣【華・石】

天竺ニ五天竺【華・真・石】／賢クテ―柔和ニシテ而モ賢ク端正ニ
シテ双ナシ【華】、賢クフルマイナレテケタカサ申ニモ不及【真】
万ツノ人ニ勝レタリ―なし【真】

ミメ云心ト云世ニタメシスクナキ人也重ク振舞在シテケタカサ申ニ
不及―ヲモヤサシクウラ、カニ衆人愛敬ノ相ヲ具シテ心モ言モ及ヒ
玉ワス【華】、なし【真】、重ク振舞成レテケタカサ申ニ不レ及【石】
／サレハ―サレハニヤ【華・真】、サレハヤ【石】

候ツル―在シツル【華】
悦ハシキ物カナ―慶キ哉善哉ヤ【華】／位ヲモ継キ―政ヲモ継キ【真】
治メ給ハンコトサレハ―治メ玉ハンコトハ【華】、治メ玉ハム事ハ
【真】、治メ候ハン【石】

勅使ヲ立給フニ―摩訶摩那大臣ノ娘耶輸多羅女ヲハ悉達太子ノ后ニ
納ムヘシト勅使ヲ立給フ【華】／摩訶摩那大臣―大臣【華】、摩訶
摩耶大臣【石】

宣旨ヲ蒙テ―宣旨ヲ蒙テ左右ナク【華】、宣旨ヲ承テ左右ナク【真・
石】／我娘メヲ后トマイラセンコトヲコソ―太子ノ后ニ我娘メヲマ
イラセンコトヲコソ【華】、耶輸多羅女ヲマイラセムトコソ【真】、

申サルヘキニ娘能ケレハ智キラフト云タメシニヤ我釈迦ノ

種姓ニシテ諸々ノ能ノスクレタラン人ニ我娘ヲ奉ヘシ雖

悉達太子ニテモヲハセ能人ニスクレタマハサランニ我娘ヲ」28オ

不可進能芸人ニスクレ給ハ、可進ト奏ス大王此ヲ聞

食テ摩訶摩那大臣ヤサシクモ奏シ申ス物哉サラハ

五百ノ童子ノ能クラヘ有ヘシトテ五百ノ童子ノ許エ

宣旨ヲナサル、ヤウ今日ヨリ後七日ニアタラン日試ミ

ノ庭ニ出テ五百ノ童子能クラヘ有ヘシト勅定アリ

サル程ニ広キ野原ヲカサリテ試ミノ庭ト名テ

已ニ其日ニナレハ五百ノ童子各ノ身ヲ莊リテ彼試ミノ

庭ニ出ツ先ツ浄飯王白飯王斛飯王甘露飯王ヲ

太子ノ后ニ我姫ノ耶輸多羅ヲ進コソ【石】

申サルヘキニ―白スヘケレトモ【華】、申サルヘキニ【真】、申サルヘキ也【石】／智キラフト云タメシニヤ―智ヲ撰フト云理アリ【華】、婿キラフト云コトニヤ【真】、智好シト云理ニヤ【石】

スクレタラン人―世ニ勝レタラン人ニ【華】／我娘ヲ奉ヘシ―我娘ヲマイラスヘシト奏ス【真】、智ニ定ヘシ【石】

雖悉達太子ニテモヲハセ―なし【真】／能人ニスクレタマハサランニ我娘ヲ不可進―なし【真】

芸人ニスクレ給ハ、可進ト奏ス―なし【華・真・石】
摩訶摩那大臣―なし【真】、摩訶摩耶大臣【石】

今日ヨリ後七日―今日ヨリ七日【真】／アタラン日―当ラン時【真】
／試ミノ庭―広キ野原試ノ庭【華】、広キ試ノ庭【真】、広ク心ミノ庭【石】

勅定アリ―勅ス【華・真】、勅シ披露シテ【石】

サル程ニ―なし【華・真・石】／試ミノ庭ト名テ―試ミノ庭ト定テ【華・真】、なし【石】

已ニ其日ニナレハ―ステニ其日ニ至レハ【真】、なし【石】／彼試ミノ庭ニ出ツ―なし【華】

浄飯王白飯王斛飯王甘露飯王ヲ始テ―浄飯王ヲ始奉テ斛飯王白飯王甘露飯王及ヒ【華】、浄飯王白飯王斛飯王甘露飯王ヲ始トシテ【真】、
浄飯王白飯王斛飯王甘露飯王ヲ初奉テ【石】

始テ五百ノ大臣五百ノ童子皆トモニ被出タリ国土普ク

「 28ウ

動キ都内ノ人コソツテ集ル自昔今ニ至ルマテ未カ、ルワサハ

無シトテ目ヲサマシ興ニ入テソ思ケル様ノ何レノ能ヨリクラ

フヘキ書論ヲ学シ極メサテ学文ハ悉達太子習極メ
給ヘリ十九種ノ義芸又太子第一也誰カ肩ヲサラ

ヘンクラフルニ不及算道ヨリ始ムヘシトテ五天竺ニ
間ニ聞タル大算師安推那ヲ請シテ大算ヲ証誠
セサセ五百ノ童子各算ヲ置ク太子数ヲ読ミ給ヒ
五百ノ童子算ヲミタリ数ヲタカヘテヲキ得ス悉
達太子算ヲ取テ置給フニ五百ノ童子同時ニ数ヲ
ヨム太子算ヲミタラス数ヲタカヘス五百ノ童子ノ一
度ヨム数ヲ只一度ニ置ヘキスマシ給フ安推那是ヲ

「 29オ

五百ノ大臣―なし【真・石】／皆トモニ被出タリ―共ニ彼ノ試ノ庭
へ出王ヘリ【華】

都内ノ人コソツテ集ル―男女貴賤群集セスト云フナシ【華】／未カ、
ルワサハ無シトテ―カ、ル能クラヘ無トテ【華】

目ヲサマシ―目ヲ驚シ【華】、目ヲスマシ【真】／思ケル様ノ何レ
ノ能ヨリ―思ケルサテ抑モ何ヨリカ【華】、思ケル様ナニヨリカ【真】、
思ケル様云何ナル能ヨリ【石】

書論ヲ学シ極メサテ学文ハ悉達太子習極メ―書論学文ハ悉達太子第
一也恐ルニ及ハス【華】、書論学シ極メテ学文ハ悉達太子第一也【真】、
書論学シ極メテ学問ハ悉達太子第一ナリ【石】

十九種ノ義芸又太子第一也誰カ肩ヲサラヘンクラフルニ不及―十九
種ノ伎芸ハ習極玉ヘリ誰レカ諍フヲ得是マタクラフルニ及ハス【華】、
十九種ノ伎芸ハ太子習究メ玉ヘリ誰レカアフコトヲエンサレハ校ル
ニ不可及【真】、十九種ノ義芸ハ太子習極玉ヘリ誰レカアフ事ヲ得
去レハ校ニ不レ及【石】

算道ヨリ―先ツ学ノ算道ヨリ【石】

各―なし【石】／給ヒ―玉ヘリ【華】

ヲキ得ス―量フヲエス【華】、置事ヲエス【石】
同時ニ―同音ニ【石】

ヨム―ヨフ【真】／五百ノ童子ノ一度ヨム数ヲ―なし【華・真】
只一度ニ―なし【華】、五百ノ童子一度ニヨム数ヲ太子ハ【石】

ミテ坐ヨリ立テ太子ヲ拜ム古モ今モカ、ルコトハ難有
太子算道ニライテハ不思議ノ徳ヲ得給ヘリ算

道ハ太子既ニ勝チ給ヘリ又何ヲカクラフヘキ男ノ能ニハ

弓ニスキタルコトナシ弓遊ヒ有ヘシト定ム摩訶摩耶大臣

ハ五天竺ニ聞エタル弓ノ上手也好ムコトナレハ的ヲソ結

構シタリケル金ヲ以テ七ノ鼓ヲ造テ重テ的トス

此七鼓ヲ皆射トヲシタラン人ヲ掣ニ取ントス阿難陀進テ的ヲ_{二百張也}29ウ

立サス遠サニ俱盧舍ニ七ノ的ヲ立テ射レトモ微ラス次ニ提婆

進出テ阿難陀ニ今ニ俱盧舍増シ四俱盧舍ニ的ヲ立テ

射トモ微ラス次摩訶摩耶大臣進出テ提婆カ四俱盧舍ニ

増シテ八俱盧舍ニシテ射トモ不徹今ハ悉達太子遊セト

定レハ太子学文コソ勝チ給フトモ弓ハ何カ有ヘカラント父ノ

王心苦ク思召所ニ太子城中ニヨキ弓矢ヤ有ト尋給フ大

拜ム―拜奉ル【華】、礼ム【石】

難有太子算道ニライテハ不思議ノ徳ヲ得給ヘリ―難有シ太子ノ算道
不思議也ト【華】、難有ク不思議ナルハ太子ノ算道也【真】、難有。

太子ノ算道、不思議也【石】

算道ハ太子既ニ―算道モ亦【華】／勝チ給ヘリ―勝レ玉ヘリ【真】

／何ヲカ―何事ヲカ【真】／男―男子【華】

聞エタル―勝レタル【真・華】、勝ル【石】／ナレハ―レハ【華】

七鼓―七ノ金鼓【華】、七ノ金ノ鼓【真】、七ノ的【石】

立サス―立テ【真・石】／二俱盧舍―二俱盧舍弓_{五百張也}【真】／射

レトモ微ラス―難陀是ヲ射ニ透ラス【華】／次ニ提婆―次ニ提婆達

多【華・石】、提婆達多【真】

阿難陀ニ今―難陀ニ【華】、イマ【真】／的ヲ立テ―立サセテ【華】、

的ヲ立テ、【真】／射トモ―射ニ【華】

微ラス―透ラサリケリ【華・真】／摩訶摩耶大臣―摩訶摩耶太臣

【真・石】／提婆カ四俱盧舍ニ―提婆ニ二陪ヲ【華】

太子―なし【華】／勝チ給フトモ―勝レ玉ヘタレトモ【華・真・石】

／有ヘカラン―有ルヘキ【華・真・石】／父ノ王―大王【真】

心―なし【華・石】、御心【真】／太子―太子宣ク【華】／ヨキ弓

矢―弓矢【華】

王是ヲ聞召テ摩訶摩那大臣ノ弓ヲキラフコトノ悦ハシ

サヨ摩訶摩那大臣ノ弓ノ上スヘキ弓ハナキ物ヲト思召テ

悉達太子ニ勅シ給フ汝チ祖父師子頻王ノ財ノ弓大
「30オ

梵寺ト云寺ニ香華ヲ備エテ供養スル財ノ弓有此弓ハ

却初転輪聖王ノ財ノ弓也此時ニ当テ此弓ヲ取出ヘシトテ

大梵寺ヨリ被取出タリ此弓ヲハ誰カハルヘキ摩訶摩

那大臣コソ張給フヘケレトテ彼大臣ノ許ヘ此弓ヲ被遣

摩訶摩那大臣モ五天竺ノ内ニハ我ヨリ外ハ誰カ此弓ヲハル

ヘキト思ヒテ左ノテニ弓ヲ取右ノ手ニ弦ヲトリテ力ヲ

尽テヲセトモく少シモタハマネハ弦ヲ懸ニ不及空ク

弓ヲソヲカレケル今ハ此弓トハルヘキ人ナシト諸人思アヘル所ニ

悉達太子自ラ歩ミ出テ左ノ手ニ弓ヲ取り右ノ手ニ弦ヲ取「30ウ

弓ヲ推シ、ツカニ弦ヲカケ給ヒテ弓ノ本末ヲミテ弦ヲナテ、

弦打ヲシ給ヒケル弦音迦毘羅城ヲウコカストヲホエ

摩訶摩那大臣―摩訶摩耶太臣【真】／弓ヲキラフコトノ悦ハシサヨ
―なし【華】

摩訶摩那大臣―摩訶摩耶太臣【石】／弓ノ上スヘキ弓ハ―弓ヲ太子
ノ嫌玉フ事悦ハシサヨ此大臣ノ弓ノ上スル弓ハ【石】／思召テ―大
臣ノ弓ヲ太子猶用□□コトノウレシサヨト思食テ【華】

悉達太子―太子【石】、太子【華】

寺ニ―所ニ安シテ【華】／財ノ弓―なし【華】、弓【真】

弓也―御弓也【華】、御弓【真】

大梵寺ヨリ―なし【真】／被取出タリ―召寄せラレタリ【真】

彼大臣ノ許ヘ此弓ヲ被遣―摩那大臣ニ奉ル【華】、奉ル【真】、大臣

ニ奉ル【石】

大臣モ―大臣ハ【華】、大臣【真・石】／五天竺ノ内ニハ―五天竺

ニハ【華】、五天竺ニモ【真】、五天竺ニ【石】／外ハ誰カ此弓ヲ―

外ニハ誰カハ【真】

力ヲ尽テ―身ヲ係テ【石】

ヲセトモく―押トモ【華】／懸ニ―繫ニ【真】

ト諸人思アヘル所ニ―サルホトニ【華】、なし【真・石】

悉達太子―太子【華】／左ノ手ニ弓ヲ取り右ノ手ニ弦ヲ取―右ノ御

手ニ弓ヲトリ左ノ御手ニ弦ヲ取テ【華】

弓ヲ推シ―押タワメテ【華】弓ヲ押シテ【真】／シ、ツカニ―シツ

くト【石】／弦ヲナテ、―なし【華】

弦打ヲシ給ヒケル―弦ヲナラシ玉ウ【華】、ツルウチ打タトシ玉ヘリ【真】

タリ老人トモ怖^ヲ恐^テレテ自昔是程ヲソロシキ物ノ音コソ

キカネ只音ノヲソロシキノミナラス諸有ル器物トモノ皆

破ヌルコトヨトソ云ケル後ニコソ悉達太子五百ノ童子

ト能クラヘノ時祖父師子頰王ノ財ノ弓昔ノ輦輪聖

王ヨリシテ伝ハレル御弓ヲ取出テ太子自此弓ヲ

張テ弦打ヲシ給ヒケル弓ノ弦音ヲハ人皆知レリニケレ

太子摩訶摩耶大臣二俱盧舍増テ十俱盧舍ニ七ノ

金ノ鼓ヲ重テの二立テ弓ヲ引箭ヲ放チ給フツヨ

ク射給ヘハ七ノ金ノ鼓ヲ射トヲシテ其箭大空ヲ指テ

ソ上リケル忉利天ノ王帝釈下向テ虚空ノ中ニテ其ノ

箭ヲ取テ忉利天ニ返テ供養シ菩薩宝箭会ト云

「 31 オ

弦音―其弓ノ弦ヲト【真】、其音【石】／迦毘羅城ヲウコカストヲ
ホエタリ―迦毘羅城一國ヲ振動シテ吼タリケル【華】、迦毘羅城一
國ヲ動シテソ聞ヘタル【真】、迦毘羅城一國ヲ動シテソ覺タル【石】
老人トモ―サル程ニ【石】／恐レテ―恐レテ云ク【華・真】／自昔
―我等昔ヨリ以来【華】

只音ノ―声ノ【石】／諸有ル器物トモノ―アルウツル口物トモ【華】、
アラユル器ノトモノ【真】、所有器共【石】

皆破ヌルコトヨ―響キワレニケリ【華】／トソ云ケル―なし【華】
／五百ノ童子ト―ノ【華】

祖父師子頰王ノ財ノ弓昔ノ―なし【華】

御弓―師子頰王ノ財ノ御弓ノ【華】／取出テ―なし【華・真】／自
此弓ヲ―なし【華】自ラ【真】

張テ―なし【華】／給ヒケル弓ノ弦音ヲハ―玉イケル弦音トハ【華】、

玉フ音トハ【真】、玉ヒケル音ト【石】

太子―サテ太子コノ【華】

金ノ鼓ヲ重テ―なし【石】／的ニ―なし【華】／ツヨク射給ヘハ―
なし【華】、アマリニツヨク射玉ヘハ【真】、余リニ強ク射給ヘハ【石】

大空―虚空【華】

上リケル―アカル【華】、走りケル【真】、走ケル【石】／虚空ノ中
ニテ其ノ箭ヲ取テ―空中ニ於テ菩薩ノ矢ヲ取テ【華】、虚空ノ中ニ
シテ菩薩ノ矢ヲ取テ【真】、虚空ノ中ニシテ太子ノ矢ヲ取テ【石】

供養シ―なし【真】／菩薩宝箭会ト云会ヲ始テ―宝箭会ヲ立テ【華】、

会ヲ始テ菩薩ノ箭ヲ供養スルコト今ニ不絶ト經ニハ
説レタリ十俱盧舍ト云ハ天竺ノ語也唐土ニ是ヲ翻スル

ニ二百八十四里^リ一百三十步也此一里ハ六町ヲ一里トスル也

カンカヘテ可知又鉄ヲ以テ七ノ猪ノ形ヲ造テ重テ
的ニシテ皆是ヲ射通シタラン人ヲ智ニトラントテ的
「31ウ

結講ス阿難陀此的ヲ二俱盧舍ニ立テ射トモトヲラス悉達

太子十俱盧舍ニタテ、射給フ余リニツヨク射給フ程ニ七ノ

鉄ノ猪ヲ射通シテ其箭大地ヲ射サイテ八万由旬ノ

底金輪際ニ射付給フ其箭ノ通りタル跡ハ大地破レテ

水流出テ、イマニ不絶^ク此井ヲ菩提ノ箭ノ井ト名付ト經

ニハ説レタリ弓ニヲイテハクラフルニ不及太子既ニ無上也次ニ

又何ヲカクラフヘキ男ノ能ニハ弓イミシキ能ナル上ハヤサシキ能

菩薩ノ宝ノ矢ノ会ト云会ヲ立テ【真】、太子ノ宝箭会ヲ立テ【石】

菩薩ノ箭ヲ一矢ヲ【華】、なし【真・石】／經ニハ一經ニ委ク【華】

説レタリ一説ケリ【石】／十俱盧舍ト云ハ天竺ノ語也一十俱盧舍ト

云ハ梵語【華】、十俱盧舍ハ梵語【真】／唐土ニ是ヲ一唐ニハ翻シ

テ【華】、此ニハ【真】、唐ニハ是ヲ翻スルニ【石】

二百八十四里一二十里【石】／一百三十步也一俱盧舍ハ五百弓

也【真】、一百三十步也【石】／六町ヲ一里トスル也一六町也【真】

的ニシテ的トテ【華】、的トシテ【石・真】

結講ス一的ヲ結講ス【真】／此的ヲ一なし【華・真・石】

射給フ程ニ一射玉ヒテ【華】、射タマヘハ【真】

猪ヲ射通シテ一猪ノ股ヲ射トラシテ【真】

射付給フ一射付タリ【真】／其箭一矢【華・真】／大地破レテ一矢

ニ破レテ【華】、なし【真】、コヲレテ【石】

イマニ不絶一今ニ至ルマテタヘス【華・真】／此井ヲ一此井ヲハ

【華・真】

經ニハ説レタリ一經ニ説ケリ【華】／弓ニヲイテハ一次ニ弓ニ於テ

ハ【華】、次ニ弓ニオヒテハ【真】、次ニ弓ヲ射テハ【石】／クラフ

ルニ不及一ナヤウルニ及ハス【華】／無上一上手【華・石】

男ノ能ニハ弓イミシキ能也ハヤサシキ能也一男子ノ能ニハイミシキ

能也【華】、弓ハイミシキ能ナル上ハヤサシキ能ナリ【真】、男ノ能

ニハ弓ハ妖キ能也【石】

也ケスシキコトニコソアレトモ男ノ力ヲ顕スコトハスマウコソ

侍レ五百ノ童女ノ中ニ力ヲエラヒ人ヲスクリテ三十
「32オ

六番ノ相撲ヲトラスヘシ次第ニヲトレルヨリマサレルニ取
上ヨト定ムサテモ太子ヲ一方ノ柱ニセヨトテ阿難陀勸ミ

出タリ悉達太子阿難陀ニ向テ御手ヲ指出シ給ヘハ

阿難陀ハ聽テ地ニ倒レニケリ手合セスルニモ不及次ニ提
婆達多出ヘシトテ進ミ出タリ提婆ハ僞慢ノ心ヲ起テ

弓コソ勝給フトモ力ニ於テハナニカ劣ルヘキ太子ニヲイテ
ハ取ツメ奉ランスル者ヲト思テ我慢ノ心ヲ起スコト須弥
山ノ如シ大象ノアユミニ似タリ静ニ進テイサンテ太子ニ
向フ淨飯王太子ライタハシク思召ケル処ニ太子閑ニ
「32ウ

歩ミ出テ提婆ニ向ヒ給フ太子御手ヲサシ出テ提婆達

ケスシキコトースコシ下スシキコト【華】、今ハケスシキ事【真】
／男ノ力ヲ顕スコト―力ヲモアラハシ心ハセヲモミスル理リ【華】、
男ノ力ヲ顕ス理【真】、男ノ力ヲ顕スハ【石】／スマウコソ侍レ―
相撲ニ勝ルコトアラシ【華】

童女―童子【華・真・石】／スクリテ―勝テ【華】、スクテ【真】、
扱テ【石】

ヲトレル―レレル【華】／マサレルニ―なし【真】

取上ヨ―取上ヘシ【華】／定ム―定ムレハ【華】／一方ノ柱ニセヨ
―守リ柱ニセヨ【華】、ウタン【真】、ウツハシラニセヨ【石】

悉達太子―太子【華】／阿難陀―難陀【華】／指出シ給ヘハ―相出
シ玉ヘハ【真】

手合セスルニモ不及―なし【真】

提婆達多出ヘシトテ進ミ出タリ―なし【真】／提婆ハ僞慢ノ心ヲ起テ
―提婆僞慢貢高ノ心ヲ発ス【華・真】、提婆ハ僞慢高貴ノ心ヲ起シテ【石】

進テイサンテ―進出タリ【華】／太子ニ向フ―太王如何アラント【華】
淨飯王太子ヲ―太子ノ御コトヲ【華】、淨飯王ハ太子ヲ【真・石】
／処ニ―なし【華・真・石】／閑ニ―徐ニトシテ【華】

歩ミ出テ―歩向テ【華】／提婆ニ向ヒ給フ―なし【華】／太子御手
ヲサシ出テ―両ノ御手ヲサシ出シテ【華】／提婆達多カ前―提婆カ
【華】、達多ノ前【真】、達多カ前ノ【石】

多カ前ノタハサキヲ取テ閑ニ空中ニ指上ケテメク

ラスコト旋火輪ノ如シ旋火輪トハ火輪ヲメクラスカ如シ

火ノ玉ヲ取ルカ如シ空中ニ提婆ヲサ、ケテクル／＼ト廻ラ

カシテ振給ヒケレハ提婆ハ肝モ心モ身ニソハス眼モ

ヌクルヤウニソ思ヒ給ヒケルツヨク大地ニ捨給ハ、提

婆クタケテ微塵ノ如クニ成ヌヘケレハ太子慈悲ヲ

發シテシツカニ地ニヲカレタリケリ是後ハ五百ノ

童子ノ三十六番ノスマウモヤミニケリ此上ハ何ヲ

「 33オ

カクラフヘキカラノ上ニハ打物ヲ取テ物ヲ切ルコソ力強キ
シルシナレ物ヲ可切ルトテ樹ヲ切ラレケリ或ハ一本二本ハ

キレトモ一度ニアマタハキラス太子ツルキヲ取テ七本ノ樹

ヲ一度ニ切給フ余リニツヨク切ラレテ樹タラレサリケレハ

昆嵐風ト云風ヲ發シテ吹ニ一度ニ七本ノ樹倒レニケリ

タハサキ―落帶【華】、タフサキ【真】、タフサヲ【石】／指上ケテ
メクラスコト―捧テ【真】、振ト思召トモ【石】

如シ―如ニス【華・真】／火輪ヲメクラスカ如シ―続松ヲトホシテ
虚空ニ廻スカ如シト云也【真】

火ノ玉ヲ取ルカ如シ―手玉ヲ取カ如ク【華】、矢玉ヲ取カ如ニ【真】、天
ノ玉ヲ取ルカ如シ【石】／提婆ヲサ、ケテ―なし【華】、サ、ケテ【真】

提婆ハ―なし【華】

ヌクルヤウニソ思ヒ給ヒケル―クレテ思ワレケリ【華】

太子慈悲ヲ―太子ハ慈悲ノ心ヲ【真】

シツカニ―柔ニ【華】／五百ノ童子ノ―なし【華】

打物ヲ取テ―刀ヲ以テ【華】／力強キ―ツヨキ【華】

可切ル―截スヘシ【華】、剪ヨリ力ノ強キ驗シナシ【石】／樹ヲ切
ラレケリ―劍ヲ以テ大樹ヲ伐セケリ【華】、大樹ヲキラセケリ【真・

石】／或ハ一本二本ハ―皆一本ヲハ【華】

キレトモ一度ニアマタハキラス―切ケル【石】／太子ツルキヲ―タ
ラレサリケレハ―なし【石】／七本ノ樹―一刀ニ七本ノ大樹【華】、

七本【真】

ツヨク―ヤスクツム／＼ト【真】／切ラレテ―伐玉イケルホトニ【華】
／樹タラレサリケレハ―伐スエラレ樹ナオ本ノ如シ此時【華】、タ

ウレサリケレハ【真】

樹倒レニケリ―なし【真】

大ナル樹繁ク榮エタルカ倒ル、音ナリケレハ世間

響^{ヒ、キ}テ夥数シカヤウニ能クラヘモ有ケレトモ太子ニ及フ

者ナカリケリ其時摩訶摩那大臣坐ヨリ立テ衆会ノ

中ニシテ申サル、様古モ今モ未聞悉達太子ノ如ク

「 33 ウ

ナル人ヲ未来ニモ又難有五天竺ニ更ニ並無シ我娘耶

輸多羅女ヲハ悉達太子ノ后ニ立マツルヘシト衆会

ノ中ニテ領狀シテ浄飯王歡喜シテ吉日良辰ヲ

撰テ耶輸多羅女ヲ迎取テ悉達太子ノ第一ノ后ト

シ給フ又波尼大臣ノ娘俱陀弥ト名クミメウツクシク

ヤサシキヲ悉達太子ノ后ニ納ムヘキ浄飯王ノ宣旨有リ

斛飯王ニ太子在ス提婆達多ト名ク是モ獅子頰王

ノ御孫浄飯大王ニハライ也悉達太子イトコ也五天

大ナル樹繁ク榮エタルカ―此太樹ノ茂ク榮タルカ【華】、なし【石】
／倒ル、音ナリケレハ世間響テ夥数シ―一度ニ倒ル音大地虚空ニ響
テ劫【華】、タラル、声ヲヒタ、シ【真】、倒サル音ヲヒタ、シ【石】
有ケレトモ―多ケレトモ【華・真・石】

太子ニ及フ者ナカリケリ―大略如此ノ如【華・真・石】

申サル、様―声高ニ白サク【華】、申サク【真・石】／悉達太子―
太子【華】、悉陀太子【真】

未来ニモ又難有五天竺ニ更ニ並無シ―五天竺ニモ双ナシ未来ニモ亦
有難シ【華】、五天ニモ比ヒナク未来ニモ難有シ【真】／耶輸多羅

女―耶輸多羅【華・真・石】

后ニ立マツルヘシ―后ニ備ヘキ由【華】、后タルヘシ【真】／衆会
ノ中ニテ―なし【石】

領狀シテ―領掌シ玉イケリ【華】、領掌シテケリ【真】／歡喜シテ
―歡喜感悦シ玉イテ【華】

撰テ―以テ【華】

シ給フ―納メ玉ヘリ【華】／ミメウツクシクヤサシキヲ―端正殊徳
ノ美君也【華】、ミメウツクシキ君也コレモ【真】、顔厳キ姫君也【石】
浄飯王―浄飯大王【真】

斛飯王ニ太子在ス提婆達多ト名ク―白飯王ノ太子提婆達多【華】、

斛飯王ノ太子提婆ハ【石】

竺三無隱摩訶婆耶大臣ノ娘ヲコソ悉達太子ノ后ニ
「34オ

成サメ波尼大臣ノ娘ヲハ提婆カ妃トスヘシト兼テ約

束シ給ヘリ今又淨飯王ノ宣旨有是又難背波

尼大臣進退思煩娘ハ一人有聲ハ二人望ム云何ス

ヘキト案スルニ所詮我娘ノヲサナキニハカラハセント思ヒ

テ淨飯王ニ奏ス二人ノ太子ノ御コト皆是重キ御コト也
何レヲステ何ヲカ可取娘ノ心ニ可任ト奏スサラハ五百ノ

童子ノ身ヲ莊リ波尼大臣ノ娘ニ撰ハスヘシト大臣勅
シ給フ波尼大臣ハ娘ノ俱陀弥ヲカサツテ百尺ノ高樓
ニ登セテ五百ノ童子ヲミセテ何レニテモミメ能シテ
「34ウ

汝力心ニ叶ハンヲ男ニスヘシト教ヘラル、然ヘシトテ相待処ニ

五百ノ童子面々ニヒンツラユイ華ノ冠ヲイタ、キ瓔

成サメナサレ又【華】、ナサレヌ【真】／提婆ノ妃トスヘシト
提婆ノ后ト納ムヘシトテ【華】／兼テ一なし【華・真・石】
今又一なし【華・真・石】／淨飯王ノ宣旨有是又難背一大王ノ宣旨
故ラニ背難シテ【華】、淨飯大王ノ宣旨モ背キ難シ【真】、淨飯大王
ノ宣旨難レ背シト【石】

波尼大臣一なし【華・真・石】／二人一二人アリ【真・石】／云何
スヘキ一何レモ去難キ宣旨ナリイカニスヘキ【華】

所詮我娘ノヲサナキニハカラハセン一我娘イマタ少ナシ娘ニハカラ
セン【華】、我娘ヲサナシ娘ニエラハセン【真】、我娘少ナシ娘ニ計
ハセン【石】

何レヲステ何ヲカ可取一何レヲトリ何レヲカ捨ヘキ【華】、イツレ
ヲカステ何ヲカ取ヘキ【真】／サラハ一大王シカルヘシトテ【華】
波尼大臣ノ娘一俱陀弥【真】／大臣一なし【華・真】、大王【石】

ミセテ一見セシム【華】、見シム【真】／何レニテモ一何レノ童子
ニテモ【華・石】

汝一娘【真】／叶ハン一合ワン【華】／教ヘラル、一教ル【華】、
教ヘケルニ【真】／然ヘシトテ一俱陀弥樓上ニテ【華】

面々ニヒンツラユイ一各身ヲ莊【華】、面々ニ髮頬ヲ結構シテ【石】
／華ノ冠一天冠【真・石】

珞ヲ以テ身ヲ莊リヘニ白キ物ヲ以テ面々ニツケ衣裳

ニ焼物ヲシ我ヲトラシトナルミスマシテ高樓ノ前ヲ通ル

五百ノ童子皆通り畢テ悉達太子進出給フニ別シテ身

ヲカサリ給フコトナケレトモ限無クイミシクヲハシケリ侍女俱

陀弥ニ同様五百ノ童子ノ中ニ何レカ勝レタルト思召俱陀弥

答テ云ク五百ノ童子何レモ／＼皆イミシクアレトモ皆是女人

ノ相也女人コソ身ヲハカサレ悉達太子コソ吉丈夫ノ相ナレ」35オ

衣裳ニ焼物ヲセス身ニヘニ白キ物ヲ不付天冠ヲイタ、キ

環珞計ヲ着シ給フサレトモ万ノ童子ニ勝レタリト讃ム侍

女是ヲ聞テ扱ハ悉達太子ノ妃ト成ヘシトテ太子ノ御頸ニ

以テ身ヲ莊リ―調ヘ【華】／ヘニ白キ物ヲ以テ―なし【華】／面々
ニツケ―面ニ粉ヲ塗り【華】

焼物―薫【華・真・石】／ナルミスマシテ―イテ立テ【華】、ナリ
ミテ【真】、ナルミテ【石】

皆―悉ク【華】、なし【石】／畢テ―ハテ、後ニ【真】・なし【石】
／別シテ身ヲカサリ給フコトナケレトモ限無ク―容顏奇異ナルコト
【華】、なし【真】、限ナク【石】

イミシクヲハシケリ―言モ及難ク坐シケリ【華】

勝レタルト思召―勝レテウ厳ク思食ツル【華】、勝レテウツクシク
思食サレツル【真】、勝テ厳ク思召ト【石】

五百ノ―衆ノ【華】、なし【石】／何レモ／＼何レモ【華・真・
石】／イミシクアレトモ―皆イミシケレトモ【華】、皆厳ケレトモ

【真】、皆妖ケレトモ【石】

女人コソ―何トナレハ女人コソ【華】、なし【石】／身ヲハカサレ
―顔ヲ彩リ身ヲ莊レ【華】／吉丈夫―真ノ善キ丈夫【華】、丈夫【真】、
長男【石】

焼物―薫【華・真・石】／身ニヘニ白キ物ヲ不付―面ヲ彩ラス【華】、
顔ニヘニ白物ヲ付ス【真】、顔ニ赤丹白粉ヲ不付【石】／イタ、キ
―イタ、カス【真】

万ノ童子―衆ノ童子【華】／勝レタリト讃ム―勝レテ厳ク坐スト讃歎
ス【華】

扱ハ―サテ達太子御心ニ合サセ玉イタルニコソサラハ高樓ヨリ下テ

イタキ付給フヘシト教ユ然ヘシトテ高楼ヨリ下ル果報
イミシキ姫君ナレハ物ニ恥チハ、カラス俱陀弥高楼ヨ

リ下ルヲミヨトテ貴賤コソテ是ヲミル五百ノ童子ヲ

始テ人々皆思フ様何レノ童子ニカ近付キ何ナル振舞カ可

有是思フ所ニ五百ノ童子ヲ打過テ浄飯王ノ太子

ノ御頸ニイタキ付テ太子ノ妃ト可成ト云テ頸ニイタ、ク」35ウ

華ノ冠ヲ太子ニ奉ル提婆是ヲミテソネム心モ失ニケリ俱陀

弥ハミメイックシクシテ国ノ財ヲ朝ノ守リト可成其故

ハミメイックシキコトヲ経ニ説ニ黒カラス白カラスヤセスコエ

ス不高不下大キナラス少カラス此則宝ノ女転輪聖王

ノ宝女也故ニミメヨキ手本也心賢ク性聡ク男ノ病ヲ

失ヒ心ノ憂ヲ除キ命ヲ延ハ樂ヲ施ス相有実ニ男ノ宝

是ニスキス然ハ転輪聖王ニ七宝有其ノ中ニ第三ノ宝女宝

【華】、サテハ悉達太子ノ御心ニ□□玉ヒタルニコソサラハ高楼ヨ
リ下テ【真】

然ヘシトテ俱陀弥【華】

イミシキ貴キ【華】／恥チハ、カラスハ、カルコトナシ【華】、憚ル
事ナシ【真・石】／俱陀弥―五天竺ニ聞ヘアル美人波尼大臣ノ娘【華】、聞
エケルミメ厳キ波尼大臣ノ娘【真】、聞エル顔厳シキ波尼大臣ノ娘【石】

人々―人ニ【華】

ヲ打過テ―ニハ目モカケズ【華】／童子ヲ打過テ―童子ニハ目モカ
ケズ【華】／浄飯王ノ太子―悉達太子【真・石】

イタ、ク―戴ケル【華・真】

華ノ冠ヲ―花ノ冠ヲ脱テ【華・石】、花冠ヲヌイテ【真】

国ノ財ヲ朝ノ守リ―国ノ財ヲ朝ノ守リ【華・石】、国ノ宝朝ノ守リ【真】

説ニ―説テ云ク【華】、説ク【石】

不高不下―高カラス短カラス【華】／大キナラス少カラス―大ナラ

ス小ナラス【華】、不大不小―【真】、小カラス【石】／転輪聖王―

輪王【華・石】、聖王【真】

ミメヨキ手本也―ミメヨク【華】／心賢ク―心真ニシテ賢ク【華】

／性聡ク―勢敏【石】

男ノ宝―男子ノ財【華】、男子ノ宝【真・石】

転輪聖王―転聖王【華】、転王【石】／其ノ中ニ―其七宝ノ中ニ【華・

石】、なし【真】

トハカヤウノ説也浄飯王悦テ俱陀弥ヲ迎テ悉達太子ノ

第三ノ妃トシ給ヘリ第二ノ妃ヲハ意地ト名ク此妃ノ因縁由来「36オ

仏ヶ経ニ説給ハス秘密ノ后也何ナル妃キニテカラハシケン三人ノ

妃ヲ以テ太子ノ御心ヲ静メ憂ヲ忘レサセ奉ラントシ給ヘトモ

三人ノ后ニモ心ヲ留メ給ハス此程巖キ妃モ年頃病来ラハ

ハカナキ命成ヘシ弥無常ノ理コソ思シラルレ何ツマテカ若

盛ナルヘキト思ニ只夢ノ如シ幻ノ如シ此理ヲ思ニ早ク沙門ノ

法ヲ行シテ生老病死ノ四ノ苦ミヲ免レテ上ヘナキ仏ト成ラ

ハヤト思召ス浄飯大王何ニモ太子ヲ留ムヘキコト難叶ト

思召ケレハ高ク大キナル宮殿ヲ造リテ門ノ戸ヲ高ク大ニ構ヘ
給ヘリ何様ニ造リ給ヘル門ノ戸ヒラヤラン普超経ニ説ク様ハ「36ウ

カヤウノ説也―加様ノ妃ヲ説也【華】、加様ノ后ヲ儲ルヲ云説也【石】
浄飯王悦テ―浄飯大王歆喜シ玉イテ【華】

意地―意特【華】、意持【真・石】

仏ヶ―なし【華】、仏ノ【真】

三人ノ后ニモ心ヲ留メ給ハス―太子ハ三人ノ妃ニモ御心ヲ留メ玉ワ
ス【華】、太子ハ三人ノ妃ニモ心ヲ留メス【石】

此程巖キ―カクノ如ク端正殊勝ナル【華】／年頃―年ヨリ【華・真】、
年寄【石】

ハカナキ命成ヘシ―死ヲ免ル、コト有ヘカラス【華】／何ツマテカ
―なし【華】

若盛ナルヘキ―なし【華】／ト思ニ只夢ノ如シ幻ノ如シ此理ヲ思ニ
―なし【華】、ト思食ス只夢ノ如シ幻ノ如シ此理ヲ思□□【真】／
沙門ノ法ヲ行シテ―速ニ出家シテ沙門ノ法ヲ行テ【華】／仏ト成ラ
ハヤト―仏果ヲ証シテ父母サイ子一切衆生ヲ誘引シテ同ク此道ニ入
ラシメントソ【華】、仏ニ成ラハヤト【真】、衆上ノ仏ト成ハヤト【石】
何ニモ―何トシテモ太子御心シツマラス【華】、イカニシテ【石】／太
子ヲ留ムヘキコト難叶ト思召ケレハ―留奉ヘキコト叶難シトテ【華】
戸―扉ヲ【真】、扉【石】

門ノ戸ヒラヤラン―扉ニカ有ケン【華】、門ノ扉ナリケルソ【真】、
門ノ扉也ケン【石】／普超経―普越経【華・真・石】

開閉ノ時人数五百人シテ是ヲ開閉ス音ノ聞ルコト四十里ト説ク

カヤウノ城ノ内ニ太子ヲ籠置キマイラセタヤスク太子ヲ城ノ外ニ

四十里ノ内ニ兵トモミチ／＼テ夜ル昼ル太子ヲ守リ奉ル初夜ノ

時ニハ第一ノ妃耶輸多羅女二万ノ采女太子ヲ守リ奉ル

夜半ノ時ニハ第二ノ妃キ意地ノ女二万采女ト守リ後夜ノ

時ニハ第三ノ妃俱陀弥ノ二万ノ采女太子ヲ守リ奉テ

目暫モ捨ス采女トハミメヨク能ク勝レタル女人ヲ撰ヒテ妃ニ

是ヲ開閉ス音ノ聞ルコト四十里ト説ク―開ク時閉ル時数五百人カ力ヲ合テコレヲ用ヒ其響四十里ニ聞ウ【華】、アケタテケル声四十里ニキコユト説ケリ【真】、音ト四十里ト説ク【石】

籠置キマイラセ―籠奉テ【華】／太子ヲ城ノ外ニ―出シ奉ラシトテ輒ク門ヲ開クコトナカリケリ門ノ外ニハ四方【華】、太子ヲ城ノ外へ出シマイラセシトテ扉モヒラカサリケリ門ノ外ニハ【真】、城内ヲ出シ奉シト扉ヲ莊リケリ門ノ外ニハ【石】

夜ル昼ル守リ奉ル―夜ル昼太子ヲ守奉ル門ノ内ニハ宮殿ヲ高ク広ク構テ三人ノ妃六万ノ采女昼夜ニ太子ヲ守護シ奉ル【華】、ヨルヒル守リ奉ル門ノ内ニハ宮殿ヲ高ク広ク構ヘテ三人ノ妃六万ノ采女昼夜ニ太子ヲ守リ奉ル【真】、夜昼太子ヲ守奉ル門内ニハ觀ヲ高広ト構ヘ三人妃六万ノ采女十二時ニ太子ヲ守奉ル【石】

耶輸多羅女―耶輸多羅夫人【華】／太子ヲ守リ奉ル―ト共ニ目暫モ捨ス守リ奉【華】、目暫モ不捨、太子ヲ守リ奉ル【真】、目暫モステス太子ヲ守奉ル【石】

夜半ノ時ニハ―中夜ノ時ハ【華】／意地ノ女―意特夫人【華】、意持ノ【真】、意持【石】／二万采女ト守リ―二万ノ采女ト共ニ太子ヲ守奉ル【華】、二万采女太子ヲ守リ奉ル【真】、二万ノ采女守リ奉ル【石】俱陀弥ノ―俱陀弥夫人【華】／二万ノ采女―二万ノ采女ト共ニ【華】／太子ヲ―なし【華・石】

采女トハミメヨク能ク勝レタル女人ヲ撰ヒテ妃ニ仕フ皆種姓高貴也―三十六万ノ采女ハ皆種姓高貴ニシテ端正ノ美女ヲ撰ヘリ【華】、

仕フ皆種姓高貴也カヤウニ三人ノ妃六万ノ采女ヲ以テ

太子ヲ守リ奉ルニモ大王心ヤスクモ不思召高キ広キ宮
殿ライミシク莊リテ琵琶一千ハコレ一千笙笛各一千

ツ、ヲカレタリ六万ノ采女或ハハコレホウキヤウセウヒチリ

キ等ノ伎樂ヲ調ヘ或時ハ舞ヒ或時ハ歌トテ昼^{チウ}夜六時ニ
伎樂音楽ヲ成シテ箏弦歌舞ノシラヘヲ調ヘ遊ヒ

タハフレラル、コト乾達婆城ニ異ナラス太子是ヲ聞召セトモ
生老病死ノ悲ミヲ免ルヘキナラネハ心ヲナクサムルタヨリ

ニモシ給ハサリケリイト、カヤウノ樂ヲ奏スルモイツマテ

采女ト云ハミメヨク能勝レタルヲエラヒ皆種姓高貴ナリ【真】、采
女ト云ハ顔メ好ク能勝タル女人皆種姓高貴ノ女房也【石】

カヤウニ三人ノ妃六万ノ采女ヲ以テ太子ヲ守リ奉ルニモカヤウニ
三人ノ妃六万ノ采女太子ヲ守奉レトモ【華】、カヤウナレトモ【真】、
三人ノ妃六万人ノ采女ヲ以テ太子ヲ守奉ルニ【石】

大王心ヤスクモ不思召―太子ナホ御心安モ思食サス【華】

イミシク―なし【華】／ハコレ一千笙笛―琴一千和琴笙笛宝磬等ノ樂
器【華】、琴一千和琴宝磬笙笛等ノ樂器【真】、琴一千和琴方磬笙笛【石】
六万ノ采女或ハハコレホウキヤウセウヒチリキ等ノ伎樂ヲ調ヘ―六
万ノ采女或ハ琵琶ヲ彈シ琴ヲ調ヘ笛ヲ吹也笛ヲ吹キ衆ノ伎樂ヲ調テ
【華】、六万ノ采女思々ニ伎樂ヲ調ヘ【真】、六万ノ采女或ハ琵琶ヲ
引琴ヲ引或笙笛ヲ吹琴ヲ調ヘ或ハ方磬笙簞篳等ノ伎樂ヲ調テ【石】
昼夜六時ニ伎樂音楽成シテ伎樂音楽ヲ成シテ箏弦歌舞ノシラヘヲ調
ヘ遊ヒタハフレラル、コト―衆ノ樂ヲ奏スルコト【華】、なし【真】、
是六時ニ伎樂ヲ奏スル事【石】

乾達婆城ニ異ナラス―乾達婆城ノ如シ【華】

心ヲナクサムルタヨリニモシ給ハサリケリ―敢テ御心ヲ留メ玉ワス
【華】、心ヲ鎮メント□□□モ【真】、心ヲ靜ムル使トモシ給ハサリ
ケリ【石】

イト、カヤウノ樂ヲ奏スルモイツマテト思召ケレハ―なし【華】、
皆是煩惱ニナヤマサレテ惡道ニ墮スヘキナレハイツマテト思食ケレ
ハ【真】、加様ノ事イツマテト【石】

ト思召ケレハ急キ城ヲモ越エ家ヲモ出テ仏道ヲ可行コト

ノミ御心ニイソキ思召ケレトモ門外ニハ四十里ニ兵トモ充満^{シツ}シテ

— 37ウ

固ク城ヲ守ル宮中ニハ三人ノ妃キ六万ノ采女無間太子ヲ守リ

奉ル城ヲ可出タヨリナカリケル或時ニ太子第一ノ妃耶輸多

羅女ノ床ニ御寝ナリ給ヘリ善知識ノ作瓶天子床ニ現シテ

太子ヲ驚シテ申サクイカニヤ太子今夜王宮ヲ出テ仏法

ヲ行シテ難行苦行セハ仏ト成テ一切衆生ヲ利益シ八万聖教

ヲ説給フヘキ太子ノ五欲ノ樂ニ耽^{シタ}テナト宮中ニ住給フソ早ク

城ヲ出テ仏道ヲ行シ給ヘト勸ム太子此勸ニ驚キ床ヨリ

急キ城ヲモ越エ家ヲモ出テ仏道ヲ可行コトノミ御心ニイソキ思召ケレトモ—弥ヨ城ヲ越ヘ家ヲ出二人出離ノ要道ヲ行シ成仏ノ本意ヲ遂ケント思食セトモ【華】、急キ城ヲモ越エ家ヲモ出テ仏道ヲ行スヘキ事ヲノミ心ニ急キオホシメシケレトモ【真】、思召ケレトモ【石】

宮中ニハ三人ノ妃キ六万ノ采女—宮内ニハ三人ノ后、六万ノ采女【華】、宮中ニハ妃采女【真】、なし【石】

守リ奉ル城ヲ可出タヨリナカリケル—守護シ奉レハ城ヲ出玉フヘキ便リナシ【華】、守リ奉レハタヤスク城ヲ出給ヘキ便リナカリケリ

【真】、出給ヘキ便ナカリケリ【石】／或時ニ太子第一ノ妃耶輸多羅女ノ—或時太子耶輸多羅ノ【真】

御寝ナリ給ヘリ—御寝ナラセ王イケリ【華】、御寝シ給ヘリ【真・石】

石川本ここまで

今夜王宮ヲ—今生ニ宮ヲ【華】、今生ニ王宮ヲ【真】

一切衆生ヲ—一切衆生ノ為ニ【華】、父母親類及一切衆生ヲ【真】

／利益シ—なし【華】、濟度ノ為ニ【真】／八万聖教—八万四千ノ

法門【華】、八万四千ノ聖教【真】

太子ノ五欲ノ—五欲ノ【真】／ナト宮中ニ住給フソ—宮中ニハ久ク

居シ玉ウソ時至レリ【華】、宮ノ中ニハ住ミ玉ソ【真】

城ヲ出テ—城ヲ越テ【華】、出テ【真】／行シ給ヘ—修シ玉ヘ【華】、

行ヒ給ヘ【真】／勸ム—勸奉ル時ニ【華】／此勸ニ驚キ床ヨリ起キ—

起キ三人ノ妃六万ノ采女ヲミ給ヘハ天人眠ヲ付テ皆ネフリ

臥シテ一人モ不驚太子是ヲ御覽シテ王宮ヲ可出時コソ既ニ至ル

「 38 オ

ト思召最後ノ五欲ノ樂受タル是コソ終リヨトテ出立給フ

百億両ノ金ノ直ヲ以テ瑩^{ミカ}キ造リタル玉キヲ御手ニヌキ入レ

百億両ノ金ノ直ヲ以テカサレル財ノ沓ヲ御手ニハキ首ニハ八万

ノ宝ヲ雨ス如意珠ヲ御髻ノ中ニ納テ玉ノ冠ヲイタ、キ身

ニハ七宝ヲ以テイカサレル玉ノ瓔珞ノ御衣ヲメシテステニ第一ノ

妃耶輸多羅女ノ床ヲ出ムトシ給フ時最後心ノ菩薩ナレトモ夫

婦ノ契ハ哀也我耶輸多羅ニ契ヲ結フコト今生ノミ

ニアラス過去燃灯仏ノ時我名ヲ儒童菩薩ト云汝カ名

床ヨリ越テ【華】、床ヨリヲリ善知識ヲ拜ミ【真】

六万ノ采女―采女【真】／天人眠ヲ付テ―なし【華】／皆ネフリ臥
シテ―皆悉ク眠ルニ就キ深ク寝テ【華】、深クイネテ【真】

コソ―誠ニ【華】

受タル是コソ終リヨ―受ル期ノ終リヌルヨトテ【華】、受ツル此ヲ
畢也【真】

金ノ直ヲ以テ―金ヲ用テ【華・真】／瑩キ造リタル―瑩テ作セル【華】
首ニハ―なし【真】

八万ノ宝ヲ雨ス如意珠ヲ御髻ノ中ニ納テ―万宝ヲフラス如意宝珠ヲ
髻ノ中ニ納メテ【真】

七宝ヲ以テイカサレル玉ノ―七宝ノ【華】、七宝ヲ以テ莊レル【真】／
瓔珞ノ御衣ヲメシテ―瓔珞ヲ奉リテ【真】、瓔珞ヲ奉リ【真】／ステニ第
一ノ妃耶輸多羅女ノ床ヲ出ムトシ給フ時―既ニ出トシタマウ時【真】
最後心ノ菩薩ナレトモ―サスガ最後身ノ菩薩ナレトモ【華】、最後
身ノ菩薩ニテ在セトモ【真】

夫婦ノ契ハ哀也―サスカ夫婦ノ契モ哀ナリ【真】／我耶輸多羅ニ契
ヲ結フコト今生ノミニアラス―自ラ言玉ク我レ你ト契ヲ結フコト一
世ノミニ非ス【華】

我名ヲ儒童菩薩ト云―吾レ雪山ノ童子タリ儒童ト名ケキ時ニ【華】、
我レ雪山ノ童子タリシニ名ヲ儒童菩薩ト云シ時ニ【真】／汝カ名ヲ
ハ俱夷女ト云キ我其ノ時ニ―なし【華・真】

ヲハ俱夷女ト云キ我其ノ時ニ都ニ出タリシカハ道ヲ清メ香ハシキ

「 38ウ

ソ、キ王宮^{ワウ}ヲ莊ルコハ何コトソト人ニ問ハ人答テ云汝不知ヤ仏世ニ
出

給ヘリ燃灯仏ト奉名彼仏ヲ奉請御說法ヲ聽聞シ仏ヲ

供養センカ為ニ大王鳳闕ヲ莊リ道路ヲハキ都ノ内ヲ莊

嚴シカヤウニ結構シ給フ童子我昔福德ヲ殖タル故ニ目出キ

仏ヲ拝ミ貴キ法ヲ聞カンコト嬉シケレト我モ仏ヲ供養

セハヤト思テ仏ヲ供養スルニハ何ヲ以供養スルソト問ヘハ華香

ヲ以供養スト云然ハ我モ華香ヲ捧テ供養セント

思ヒテ華ヲ尋ルニ国王^{ワウ}仏ヲ供養センカ為ニ華香ヲ

默^{シツ}シテ都ノ中ニウル人ナシ時王家ノ青衣ヲ俱夷女ト名ク」 39オ

彼俱夷女七本ノ青蓮華ヲ水瓶ニ立テ以テ通童子

都ニ出タリシカハ都ニ出タリシニ【華】／香ハシキ香水ヲ【華】、
香キ水【真】

何コトソ何ノ為ソ【華】／人答テ云答テ云ク【華】、なし【真】

奉名彼仏号ス【華】、名ク【真】／奉請御說法ヲ聽聞シなし【華・
真】

ハキー清メ【華】／都ノ内ヲ莊嚴シ城内ヲ嚴飾シテ【華】

カヤウニ結構シ給フー仏ヲ請シ奉テ說法ヲ説シメ奉ン為ニ是ノ如ク
結構シ玉ヘリト云【華】、仏ヲ請シ奉テ說法ヲ聽聞センカ為ニカヤ
ウニ結構シ玉フト云【真】／我ーなし【華】／目出キーなし【華】

貴キ法ヲ法ヲ【華・真】／聞カンコト嬉シケレ聞カンコト甚タ
喜シキコト也【華】、聞カンコトコソウレシケレ【真】／仏ヲ供養
セハヤト思テーなし【真・華】

仏ヲ供養スルニハ何ヲ以供養スルソト問ヘハ華香ヲ以供養スト云
然ハ我モーなし【華】

捧テー以テ【華】

思ヒテ華ヲ尋ルニ思フニ【華・真】／仏ヲ供養センカ為ニー仏ヲ
供養セン為ニ【華】、仏供養ノ為【真】

默シテトツテ【華】、シメテ【真】／都ノ中ー城ノ中【華】／王
家ー王宮【華】

聞俱夷女ー彼女【華】、なし【真】／水瓶ニー花瓶ニ【真】／立テ
以テー立以テ通ル【華】、立テ、トラル【真】／童子ー童子ヲ【真】

此ヲミテ云汝チ其青蓮華五莖ヲ我ニ売五百ノ銀錢ギンヲ

汝ニ与ヘムト云青衣答テ云我モ仏ヲ供養センカ為ニ此

蓮華ヲ持セリ然トモ汝カ身ヲミルニ信心深クシテ仏ヲ供

養セントス成仏セン事久シカラシ汝チ我ニ契ヲ結テ夫

婦トナラハ此蓮華ヲ汝ニ与ヘン然ハ秘スヘカラスト云儒童

ノ云ク汝ハ女人也女人ハ仏道ニ障リ有云何カ汝ニ契ラン

ト云俱夷女答テ云我仏法ノ中ニヲイテ障リ不可成共ニ道

ヲ行シテ汝仏ニ成ラハ我モ同ク仏ニ成テ其時儒童夫婦ト成」39ウ

ント契リシカハ俱夷女五莖ノ蓮華ヲ我レニ与ヘテ云汝カ功德

ノ種子ヲ植ヘシ時我モ同ク善ヲ成就セン其シルシニ此二本

ノ蓮華ヲ汝ニ与フ同ク仏供養セヨトテ七本ノ青蓮華

其青蓮華五莖ヲ―此ノ五莖ノ蓮華ヲ【華】、ソノ蓮スノ中五莖ヲ以テ【真】

ナンザニアトウ

汝ニ与ヘム―汝与ント【華】、与ヘムト云【真】／青衣答テ云―青衣ノ云【真】／我モ―我レ【華】／此蓮華ヲ持セリ―なし【真】

然トモ―なし【真】／汝カ身ヲ―汝ヲ【華・真】／深クシテ―真ニ深シテ【真】／仏ヲ供養セントス―なし【華】、仏ヲ供養シ奉テ【真】久シカラシ―久シカラスト【真】

夫婦トナラハ―夫婦タラハ【華】、夫妻トナラハ【真】／蓮華ヲ―蓮ヲ【真】／汝ニ与ヘン―与ヘシ【華】／然ハ―然ラسنハ【華】、なし【真】／秘スヘカラスト云―施スヘカラスト【華】、不可陀ト

【真】／儒童―童子【華】、儒童菩薩【真】

女人ハ―なし【華・真】／仏道ニ―仏法ハ【華】、仏法ニ【真】／有云―アリ【華・真】

ト云―なし【華・真】／障リ不可成―障ヲナサス【華】、障アラシト云―なし【華・真】

【真】／共ニ―汝ト共ニ【華・真】
仏ニ―仏ト【華】／仏ニ成リテ―成仏セント云フ【華】、成仏セント云ウ【真】／儒童―童子【華】／夫婦ト成ント契リシカハ―夫婦ノ契ヲ成シカハ【真】

蓮華ヲ―蓮ヲ【真】／汝カ―汝【華・真】

種子ヲ―種子ノ【真】／植ヘシ―殖ウヅシ【華】、成セム【真】／善ヲ―善根ヲ【華】、菩提ヲ【真】

蓮華ヲ―蓮ヲ【華】、蓮ヲモ【真】／汝ニ与フ―汝ニ与シ【華】、与

ヲ皆儒童ニ与ヌ儒童取テ燃灯仏ヲ供養シキ其因

縁ヲ以テ其ヨリ以來九十一劫カ間夫婦ト成レリ今既ニ

我レ汝ヲ捨テ床ヲ出ツ我仏トナラハ急テ汝カ為ニ甘

露ノ法ヲ説トテ御指ヲ舒テ耶輸多羅腹ヲ指給フ其ヲ

因縁トシテ羅睺羅ヲ胎ムカヤウニ契テ太子自ラ御手ヲ

以衆宝羅網ノ帳ヲ卷上テ第一ノ妃耶輸多羅ノ床出給フ

— 40 —

徐々歩ミ出テ大空ヲミソナハセハ無数ノ天人恒沙ノ知識

空中ニ充滿セリ東方ニハ提頭願陀天王百千ノ眷屬

ヲ卒シテ空中ニ住立セリ西方ニハ毘盧博刃天王百千ノ

眷屬ヲ卒シテ空中ニ住セリ北方ニハ毘沙門天王百千眷

フ【真】／仏—仏ニ【華・真】／七本ノ青蓮華ヲ—なし【真】

皆儒童ニ与ヌ—与ウ【華】、与ル時【真】／取テ—此蓮華ヲ取テ【華】、
コレヲ以テ【真】／燃灯仏ヲ—燃灯仏ニ【華】／供養シキ—供養シ
テ【真】

其ヨリ以來—なし【華・真】／九十一劫カ間—九十一劫ノ間【真】
／夫婦ト成レリ—夫婦ノ契ヲ結ヘリ【華】、夫婦ノ契ヲ結ヨリコノ
カタ【真】／今既ニ—然ニ今シニ【華】、なし【真】

我レ汝ヲ捨テ床ヲ出ツ—なし【真】／我仏トナラハ—我仏ト成ン時
【華】、なし【真】／急テ—先ツ【華】、なし【真】

其ヲ—コレヲ【真】

御手ヲ以—なし【華・真】

衆宝羅網ノ帳ヲ—衆宝ノ羅網宝帳ヲ【華】／第一ノ妃耶輸多羅ノ床
出給フ—出給フ【華】、耶輸多羅ノ床ヲ出玉フ【真】

徐々—徐く【華】、ヨナ—【真】／大空ヲミソナハセハ—虚空ヲ
見玉ヘハ【華】

空中ニ充滿セリ—宮中ニ充滿リ【華】、ミチミテリ【真】／提頭願
陀天王—提頭賴陀天王【真】

西方ニハ毘盧博刃天王—南方ニハ毘盧勒刃天王【華】、南ノ方ニハ
毘盧勒刃天王【真】

卒シテ—變テ【真】／空ニ住セリ—空中ニ住立セリ【華・真】／
北方ニハ毘沙門天王—西方ニハ毘盧轉刃天王【華】、西ノ方ニハ毘
盧轉刃天王【真】

属ヲ卒テ空中ニ住立セリ切利天王帝釈三十三天

ノ天衆ヲ眷属トシテ空中ニ住立セリ如此恒沙知

識無数ノ天人香雲華雲ヲ雨シテ空中充滿セリ悉達

太子我一人ヲ仏ニ成ントテ恒沙塵数ノ天人聖衆迎ニ来リ

集ル事ヨト貴ク思召所ニ空ニ音有テ云鬼已ニ月ト答セリ」40ウ

此已ニ時至レリ早ク王宮出給ヘト勸ムル時ニ太子ト同日生レタル

五百ノ舍人ノ中ニ車匿ヲ召テ言ク我ト同日生レタル五百ノ駒ノ

王コンデイ駒ト云彼駒ニ鞍ヲ置テ^{ヒキ}参レト舍匿驚キ

テ申ス様時已ニ夜半也太子何事ノ御用ニテ金泥駒ヲ

被召ト申セハ太子答テ言ク只今怨敵四角八面ヨリ

責来ル我遁レ難シ此城ニ居ハアシカリヌヘシト早ク此城

卒テー領シテ【真】／なし【慶】、北方ニハ毘汝門天王百千眷属ヲ率シテ空中ニ住立セリ【華】、北ノ方ニ毘沙門天王百千ノ眷属ヲ饒テ空中ニ住立セリ【真】／切利天王帝釈ー切利天ノ帝釈ハ【華】眷属トシテー【華】タナヒキ

無数ノー無量ノ【華】／香雲華雲ヲー香花ヲ【華】、天曇花雲ヲ【真】／充滿セリーミチミテリ【真】／悉達太子ー太子是ヲ見玉ウニ【華】、悉達太子ノ玉ハク【真】

我一人ヲー我レ一人【真】／天人聖衆ー聖衆【華】

事ヨトーコト【華】、コトヲ【真】／貴クー有難【華】／空ニー空中ニ【華・真】／鬼ー鬼宿【華・真】／答セリー合セリ【華・真】

此已ニ時至レリー時已ニ至レリ【華】、時ステニ至レリ【真】／出給へー出ヨ【真】／勸ムルー勸ム【華】、ス、ム【真】

舍人ノ中ニー舍人ノ中ノ王ヲ舍匿ト名ク即チ【華】、舍人ノ中ノ王【真】／生レタルー生セル【華】

コンデイ駒ト云ー金泥駒ト名ク【華】、なし【真】／彼駒ニー彼馬ニ【華】、金泥駒ニ【真】／参レトー参シテ【真】

時已ニ夜半也ー夜イマタ半也【華】／何事ノ御用ニテー何ニ依テカ【華】、何事ヲ憂テ【真】

答テ言クー勸ハク【華】、答タマハク【真】／只今ーなし【華・真】／四角八面ヨリー八方ヨリ【華・真】

責来ルー責来レリ【華・真】／遁レ難シー遁^カヘカラス【華】、遁ルヘカラス【真】／アシカリヌヘシトーアシカルヘシ【華】、悪カルヘ

ヲ出ント思フ也早く金泥駒ヲ將テマイレト舍匿イサメ申

ヤウ門ノ外ニハ四十里ニ兵充滿シテ城ヲ守ル門中ニハ六万ノ

采女十萬眷屬太子ヲ奉守リ云何ナル大国ノ王軫
「41オ

輪聖王ナリトモ争カ太子ノ徳ヲ傾ケ奉ルヘキト申太子思

召様目ニミエタル敵ナラハイカナル軫輪聖王ノ七宝ノ中ノ

宝兵無量ナリトモフセクヘシ是ハ年ノヨリ病ノ来リ命ノ

滅スルヲハ十萬眷屬モフセクヘカラス無量ノ兵モ争カ是

ヲシリソケント思召シナリ実ニ争^トノヨリ病ノ来リ命ヲ

奪フ程誠ノ怖キ敵ハアルヘカラス何ナル城柳ニ籠リ何ナル

シ【真】／早く此城ヲ速ニ城ヲ【華】

思フ也―思フ【真】／早く金泥駒ヲ將テマイレト―なし【華】、金
泥駒ヲトクキテマイレト【真】／舍匿―舍匿ハ【真】

門ノ外ニハ―門ノ外【真】／充滿シテ城ヲ守ル―ミチミテリ【真】
／門中ニハ―宮ノ中ニハ【華】、城ノ内ニハ【真】

太子ヲ―昼夜ニ【華】／奉守リ云―守護シ奉ル【華】／大国ノ王―
大国ノ【華】、大国ノ大王【真】

軫輪聖王ナリトモ―軫輪聖王ナリト申ストモ【真】／傾ケ奉ルヘキ
ト申―傾ケ奉ルヘキ何事カ有ルヘキト申サハ【華】、傾ケ奉ル事何
事ノ恐れカ有スヘキト申スニ【真】／太子思召様―なし【華・真】

敵―怨敵【華】／軫輪聖王ノ―輪王ノ【華】／七宝ノ中ノ―なし【華】、
七宝ノ中ナル【真】

宝兵無量ナリトモ―宝兵ナリトモ【華】／フセクヘシ―防キツヘシ
【真】／是ハ―是ノ【華】、コノ【真】／年ノヨリ―年老イ【華】、
年ノ老ヒ【真】

滅スルヲハ―死シホロフルヲハ【真】／兵モ―宝兵モ【華】／争カ是
ヲシリソケント思召シナリ―戦ウコト無ルヘシ【華】、何トシテカ留
ムヘキ【真】／なし【慶・華】―アマサハ三人ノ妃六万ノ采女十萬
ノ眷屬汝等ニ至ルマテ皆悉ク煩惱ノヲモキ敵ナリト思食シテ【真】
実ニ―なし【華・真】／争ノヨリ病ノ来リ命ヲ奪フ程―是ヨリ外ニ
恐怖スヘク遠離スヘキ【華】

誠ノ怖キ敵ハアルヘカラス―怨敵ハ有ヘカラス【華】、誠ノ恐シキ敵

石ノ室ニ入ルトモ不可遁サレハ無常ノ敵ニ如シクハナシ山ノ中

海ノ中空ノ市ノ中ニ隠レテモ死スル道ヲハ不可免家ヲ

出テ城ヲ越テ仏道ヲ行シテコソ生死ノ魔軍ヲ離ルヘケレ」41ウ

ト思召定テ怨敵四方ヨリ責来ル可遁事不可得ト被

仰ケリ四方ヨリ怨敵責来ルトハ生老病死ノ四ノ苦ミ

ヲ四方ノ敵トハ被仰ケリ八方ヨリ怨敵責来ルト遁

ル、事不可得トハ生老病死ノ外ニ愛別離苦求不得

苦五盛苦怨憎会苦此ノ四ノ苦ミヲ加テ八方ヨリ

ハナキ物ヲ【真】／城柵ニ堅城ニ【華】

入ルトモ―入ルトテモ【華】／不可遁サレハ無常ノ敵ニ如シクハナシ―無常敵ヲハ遁ルヘカラス【華】、遁ルヘカラサルハ無常ノ敵ナリ【真】／山ノ中海ノ中空ノ市ノ中ニ―山海空中ノ中ニ【華】、山ノ中海ノ中空ノ中市ノ中ニ【真】

死スル―生死ノ【華】／不可免―免レカタシ【華】／家ヲ出テ―唯家ヲ出テ【華】

生死ノ魔軍ヲ―生死無常ノ怨敵ヲハ【華】、生死ノ魔軍無常ノ怨敵ヲハ【真】／離ルヘケレト―離ルヘケレトモ【真】

思召定テ―思食シ定メ玉イケリ【華】／怨敵四方ヨリ責来ル―なし【華】、怨敵八方ヨリ責メ来ル【真】／可遁事不可得ト被仰ケリ、なし【華】

四方ヨリ怨敵責来ルトハ―怨敵八方ヨリ責来ルト仰ラレケルハ【華】、なし【真】／生老病死ノ四ノ苦ミヲ―生老病死ノ四苦ヲハ【華】なし【真】

四方ノ敵トハ被仰ケリ―四方ノ敵トハ心得玉ヘリ【華】、なし【真】／八方ヨリ怨敵責来ルト遁ル、事不可得トハ―なし【華】、八方ヨリ怨敵セメ来ルトハ【真】

生老病死ノ外ニ―なし【華】、生老病死ノ四ノ苦ノ外ニ【真】／求不得苦―怨憎会苦【真】

五盛苦―五盛陰苦【華】、求不得苦【真】／怨憎会苦―怨憎会苦ヲ【華】、五盛陰苦【真】／此ノ四ノ苦ミヲ加テ―なし【華】、コノ四苦ヲ上ノ

怨敵責来ルトハ被仰ナリ是ヲ人間ノ八苦トハ名ク
愛別離苦トハイトラシキ妻夫悲キ親子ニモソハスシテ
別レシトコソスレトモ相別ル、習免難キ苦也求不得苦

トハ官位福祿誰カ求メサル或ハ吉キ妻夫ヲ求メ

「 42オ

或ハ吉キ子孫ヲ求ム主ハ吉キ従者ヲ求メ従者ハ能キ主ヲ
求ム賊宝ヲ求メ衣裳ヲ求ム誰カ是ヲ求メサルサレトモ得ル事

四苦ニ具シテ【真】／八方ヨリ怨敵責来ルトハ被仰ナリ―四面ヲ敵
トハ思イ玉リ【華】、なし【真】

是ヲ―なし【真】／八苦トハ―八苦ト【華】

イトヲシキ妻夫―イトヲシキ夫婦【華】、イヲシキ夫妻【真】／ソハス
シテ―副ント思トモカナワス【華】 ソワムト思ヘトモカナハス【真】
別レシトコソスレトモ―別レシトスレトモ【華・真】／相別ル、―
離ル、【華】／免難キ苦也―逃カタクキ苦ミナリ【華】／求不得苦
トハ―怨憎会苦トハ【真】

以下、真福寺本の記述は「怨憎会苦」と「求不得苦」の順序が慶応
本と逆であるため、入れ替えて校異を付した。

ここより【真】の校異は「求不得苦」の記述と順序入れ替え。

官位福祿―官サ位イ福祿国城【華】／誰カ―誰カ是ヲ【華】、誰カ
此ヲ【真】／或ハ吉キ妻夫ヲ求メ或ハ吉キ子孫ヲ求ム―婦メ夫コ男
女眷属【華】、吉キ夫妻子孫【真】

主ハ吉キ従者ヲ求メ従者ハ能キ主ヲ求ム―なし【華・真】

賊宝ヲ求メ衣裳ヲ求ム―なし【華・真】／誰カ是ヲ求メサル―誰カ
是ヲ欣ワサル【華】／得ル事ハ難シ有リ―求ニ随テ得ル事甚タ難シ

【華】、求ルニ随テ得ルコト難也【真】／なし【慶】―此外世人ノ
一生ノ間何事カ心ニ求メサル何事カ心ニ叶イ得タルヤ【華】、病ヲ
除キ命ヲ保ツコト久カラム事ヲ求レトモ不得苦也【真】／なし【慶】
―此苦ヲ防ク兵ノ更ニ有ヘカラス【華】、此苦防ク兵不可有【真】

ここまで【真】の校異は「求不得苦」の記述と順序入れ替え。

ハ難^シ有^リ怨増会苦トハ江河ノ鱗ツ山野ノ獸ノ勝者

劣ヲ害ス大者少者ヲ飲天帝釈阿修羅トノ合

戰ヨリ始テ夫婦兄弟等ニ至マテ互ニ皆敵トナル

何況異性他人ニライテヤ一切衆生誰カ此苦ヲ可免皆

是互ニ敵ト成ル事ヲ不^レ弁五盛陰苦ト者此身五陰

和合シテ成セル貨也一切苦ハ此身ヲ所依トシテ受クサレハ

以前七ノ苦ノ外ニ漏タル一切ノ諸苦ハ皆此盛陰苦ノ所様也」42ウ

有待ノ身ハ時トシテ苦ナラスト云事ナシ五盛ノ質ヲ事トシテ愁

ナラスト云事ナシ生老病死ノミニアラスシテ其間ニモ諸ノ

苦多シ愛別離苦怨増ノミニモアラス其外ニモ又愁

アリ寒ヲウレエ熱ヲウレエ寢ヲ忘レ食ヲ忘テ身疲レ

怨増会苦トハ―怨増会苦ト云ハ【華】、求不得苦トハ【真】／

ここより【真】の校異は「怨憎会苦」の記述と順序入れ替え。

山野ノ獸ノ―山野ノ獸羽族虫類ニ至マテ【華】／勝者―強キ者ハ【華】劣ヲ害ス―弱キヲ害シ【華】／大者少者ヲ飲―大ナルハ小キヲノム

【華】／天帝釈―天帝釈ト【華・真】／合戰ヨリ―闘^{トウセウ}爭ヨリ【華】

夫婦兄弟等ニ至マテ―夫妻兄弟親族恩愛【華】、夫婦兄弟【真】／

互ニ皆敵トナル―皆^{タカイ}互ニ怨ト也敵ト成テ害ヲ起シ損^ソヲ致スコト量

カタシ【華】、互ニ敵トナル【真】

何況異性他人ニライテヤ―なし【華・真】／一切衆生誰カ此苦ヲ

可免皆―此苦ミ何レノ劫何レノ世ニカ解脱ヲ得ヘキ【華】、サレハ

一切衆生皆是互ニ敵トナルコトハ有難キ事ニテモナキ事也【真】

ここまで【真】の校異は「怨憎会苦」の記述と順序入れ替え。

是互ニ敵ト成ル事ヲ不^レ弁―なし【華・真】／此身五陰和合シテ成セ

ル貨也―我等カ此身ハ四大和合ノ形チ先住異滅ノ四相ニウツサレ替

リモムテキテ新ナルコト刹那モ留ラス【華】、此身ハ五大和合ノス

カタ也【真】／なし【慶・真】―此苦ミ誰ノ人、何レノ物カ受サル【華】

一切苦ハ―ここより【華・真】になし

心疲ル惱^レ病ニトモ如^レ病非死トモ如死ノ仏説テ云諸苦皆非^レ苦
有^レ身爲^レ苦ト此八苦ハ皆身ヲセメ形ヲ滅シ心乱リ命

失フ敵也此等ノ苦ヲフセク兵不可有此八苦ヲ八方ヨリ

責メ来ル敵トハ太子被仰ケル也此四苦八苦ヲ離テ不

生不滅ノ理リニ叶ン爲ニ家ヲ出テ城ヲ越ント思召テ金
泥駒ヲハ召ケル也車匿此事ヲハ不知シテイカナル大国ノ

大転輪聖王成共争カ太子ノ德ヲ奉傾敵可有トイ

サメ申也太子ハ舍匿カイサメニモ随イ不給金泥駒ヲ被

召ケレハ力不及鞍ヲ置テ舍匿引テ参リタリ太子金

泥駒ニ乘リ給ヘハ八足ト云夜叉神金泥駒ノ四ノ足ヲ手
ニスヘ舍匿ヲハ金泥駒ニ随ヘキ空ヲ飛テ城ヲ越ケレトモ

— 43 —

爲^レ苦ト——ここまで【華・真】になし

此八苦ハ——三十八種ノ苦【華】／皆身ヲセメ形ヲ滅シ心乱リ命失フ
敵也——皆是身ヲ惱シ心ヲ乱リ形ヲ亡ホシ命ヲ失ウ怨敵也【華】、皆
身ヲ苦シメ形ヲ滅シ心ヲ乱リ命ヲ失フ敵共也【真】

此等ノ苦ヲフセク兵不可有——なし【華・真】／此八苦ヲ——是ヲ【華】、
此ヲ【真】

責メ来ル敵トハ——責来トハ【華】／太子被仰ケル也——仰セラレケリ
【華】／不生不滅ノ理ニ叶ン爲ニ——不生不滅ノ理ヲ悟リ涅槃ノ常樂
ヲ証シ一切衆生ヲ同ク彼岸ニ誘引セン爲ニ【華】

金泥駒ヲハ——金泥駒ヲ【華】

此事ヲハ——此理ヲ【華・真】／イカナル大国ノ——何ナル【華】／大
転輪聖王——輪王大王【華】、大王転輪聖王【真】

德ヲ——威德ヲハ【華】／奉傾敵可有ト——尊イ奉ヘキト【華】、傾ル

敵アルマシト【真】／イサメ申也——申ケリ【華】、諫メ申ケリ【真】

太子ハ——然トモ太子ハ【華】、太子【真】／金泥駒ヲ——頻ニ金泥ヲ

【華・真】／被召ケレハ——召レシカハ【華】、召サルレハ【真】

力不及——なし【華・真】／舍匿引テ参リタリ——参タリ【華】、引テ

参リタリ【真】／太子——太子則【華】

金泥駒ノ——金泥カ【華】、駒ノ【真】

舍匿ヲハ——舍匿ヲ取テ【華】、舍匿【真】／空ヲ飛テ——空ニ飛騰【華】
／越ケレトモ——越レハ【華・真】

宮中ノ六万ノ采女モ門外ノ無量ノ兵モ一人モ是ヲ不知

四十里ヲ響カス門ヲ開キ閉ル五百ノ兵モ用ニモタ、ス夜

半ノ時ヨリ明星ノ出ル時ニ至ルマテ三百由旬ノ道ヲ進テ」43ウ

閻浮樹ト云植木ノ本ニ金泥駒ハ飛付ケリ一百由旬マテ遠キ

道ナレトモ夜半ノ時ヨリ明星ノ出ル程ニ飛付キケル金泥駒コソ

難有ケレ或ハ経ノ説ニハ仏法守護ノ四天王ノ力ヲ以テ金泥

駒ノ四足ヲ捧テ空ヲハ飛テ城ヲ越ルトモイヘリ夜叉神ハ

四天王ノ中ノ毘沙門天王ノ眷属也心得合スヘシ又善知識ヲ

ハ経ニハ天帝釈ト説ケリ今経ニハ作瓶天子ト云事ハ帝釈

宮中ノ六万ノ采女モ―宮中ノ采女モ【華】、宮ノ中ノ采女【真】／
無量ノ兵モ―軍兵モ【華】、兵モ【真】／一人モ是ヲ不知―一人是
ヲ知ルコトナシ【華】、コレヲ不知【真】

四十里ヲ響カス門ヲ開キ閉ル―四十里響カス門ノ扉モ【華】、四十
里ヲヒ、カス門ヲ開ク【真】／用ニモタ、ス―用ニモタ、サリケリ

【華】／夜半ノ時ヨリ―夜半ヨリ【華】

三百由旬ノ道ヲ進テ―一百由旬ヲ過テ【華】、一百由旬ノ道ヲ過テ【真】
閻浮樹ト云植木ノ本ニ―閻浮樹ノ下ニ【華】、閻浮樹ト云樹ノ本ニ
【真】／金泥駒ハ飛付ケリ―飛着タリ【華】、金泥駒ハ飛付タリ【真】
／一百由旬マテ―金泥駒コソ―なし【華・真】

難有ケレ―なし【華】、有難キ事共ナリ【真】／或ハ経ノ―或経ノ
【華・真】／仏法守護ノ四天王ノ力ヲ以テ―仏法擁護ノ四天王各ノ
手ヲ以テ【華】、仏法守護ノ四天王ノ手ヲ以テ【真】／金泥駒ノ
四足ヲ捧テ 金泥駒ノ四ノ足ヲ【華】、駒ノ四ノ足ヲ捧テ【真】
空ヲハ―空ヲ【華・真】／城ヲ越ルトモイヘリ―城ヲ出ト説ク【真】
／なし【慶】―八足ノ夜叉神トモ云リ【華】、八足ノ夜叉神駒ノ足
ヲ捧テ空ヲ飛テ城ヲ越ト云フト【真】／なし【慶】―心エ合スヘシ
【華】、心得合スヘシ【真】／夜叉神ハ―夜叉神トハ【真】

四天王ノ中ノ毘沙門天王ノ―四天王ノ中ノ毘沙門ノ【華】、毘沙門天
王ノ【真】／心得合スヘシ―なし【華・真】／又善知識ヲハ―善知
識ヲ【華・真】

経ニハ―或経ニハ【華・真】／説ケリ―説ク【真】／なし【慶・華】

ノ異名也帝釈二千ノ名在ス其ノ中ニ作瓶天子ト云ハ帝釈

ノ瓶ヲ作給フカ故ニ作瓶天子ト云也觀經ノ中ニ極樂ノ

七重宝樹ヲ説諸ノ菓ミヲ生ル事帝釈ノ瓶ノ如シト説ク
帝釈ノ瓶ハ諸ノ宝ヲ雨ス也極樂ノ宝樹ヨリ多ク実ヲ

生スルニ喩エタリ知ヌ帝釈ト作瓶天子トハ一体ノ異名也

又或ハ善知識ヲ淨居天子ト説ク云何可_レ得_レ心ヲ善知識

多クノ善知識アリサレハ無辺ノ諸天恒沙ノ知識ト説ク

恒沙ノ知識ノ中ニ淨居天ハ下リ給ヒケル也悉達太子ハ金

— 44オ

— 心エ合スヘシ【真】／今經ニハ— なし【慶・真】—
作瓶天子ト云リ【華】／なし【慶・真】— 是亦同シカルヘシ【華】

／作瓶天子ト云事ハ— 作瓶天子ト云ハ【華・真】

帝釈二千ノ名在ス— 千ノ名有_{イマス}ス【華】、帝釈ニハ千ノ名坐ス【真】

／帝釈ノ— 帝釈【華】

瓶ヲ作給フカ故ニ— 水瓶ヲ作り玉ウ故ニ【華】／云也— 名ルナリ【華】、
名付ル也【真】／觀經ノ中ニ— 觀經ニ【華・真】／極樂ノ— 極樂世

界ノ【華・真】

諸ノ菓ミヲ— 諸樹ノ菓ヲ【華】、福ノ樹菓ヲ【真】／説ク— 云ヘリ【華】
雨ス也— 宝雨スルナリ【華】／多ク実ヲ、多ノ宝ノ菓ヲ【華】、多

ノ宝ノ木ノ実ヲ【真】

知ヌ— 知ヘシ【華】、故ニ知ヌ【真】／一体ノ異名也— 一体異名ナ
ルコトヲ【華】

又或ハ— 或經ニハ【華・真】／善知識ヲ淨居天子ト説ク云— 淨居天
子ト説ケリ【華】、淨居天子ト云【真】／何可_レ得_レ心ヲ— なし【華】

／善知識多クノ善知識アリ— 諸天ニ多ノ善知識有リ【華】、善知識
ニ多ノ品アリ【真】

無辺ノ諸天— 無量ノ諸天【華】、无量ノ諸天【真】／説ク— 云ヘリ

【華】、説ケリ【真】

恒沙ノ知識ノ中ニ— 恒沙ノ中ニ【華】／淨居天ハ下リ給ヒケル也—
淨居天子下リ玉イケリト知ヘシ【華】、淨居天子下リ玉ケル也ト知
ヘシ【真】／なし【慶】— サテ【華・真】

泥駒ヨリ下テ閻浮樹ノ下ニシテ御髻リヲ開テ如意宝珠

ヲ取出シ舎匿舎人ニ与給ヒテ汝チ此珠ヲ以テ王宮ニ

返テ大王ニ進セヨ我ハ此所ニシテ仏道ヲ可行スト被仰

ケレハ舎匿涙ヲ流シテ申様何ニ太子宮ヲ出御坐シテ独リ此木」44ウ

本ニシテ空クスコシ給フヘキ早く王宮ヘ帰リ在シテ浄飯王ノ位ヲ

受テ迦毘羅衛國ノ王ト成リマシマシテ千乗万騎ニカシ

ツカレ一天四海ヲ掌ニニキリ十善万乗ノ主ト成リ給フヘシ

七由旬ヲ照摩尼宝玉宮中ニ有リ万宝ヲ雨ス如意珠

首ニ頂キ給ヘリ三人ノ妃ニ六万ノ采女ト樂ヲ受テ位ニ付

カセ給ヒテ夷母摩訶波闍波提ノ御心ヲモ安シテ進セ

給フヘシタ、産マイラセヌト申計リ也太子生レサセ給ヒテ

下テ下リ【華】／開テ開キ【華】／如意宝珠ヲ取出シ如意宝珠ヲ出シテ【華】、如意珠ヲ出シ【真】

舎匿舎人ニ与給ヒテ舎匿ニ与ヘテ勅ハク【華】、舎匿舎人ニ与ヘテノ玉ハク【真】／王宮ニ王宮ヘ【真】

大王ニ進セヨ、大王ニ奉レ【華】／仏道ヲ可行スト被仰ケレハ仏道ヲ行スヘシト【華】、道ヲ行スヘシト仰セラルレハ【真】

涙ヲ流シテ申様――涙ヲ流シテ申サク【華】、涙ヲ流シテ申サク【真】

／何ニ太子宮ヲ出御坐シテ太子何ノ故ニカ王宮ヲ出テ【華】、何ノ御心ニカ太子宮ヲ出テ【真】

スコシ給フヘキスミ玉ウヘキ【華】／早く王宮ヘ帰リ在シテなし【華・真】／浄飯王ノ浄飯大王ノ【華・真】

王ト成リマシマシテ主ト成リ【華】、王トナリ【真】

七由旬ヲ七間【真】／摩尼宝玉――摩尼宝王ト云珠ハ【華】、摩尼宝珠ト云宝【真】／如意珠――如意宝珠ハ【華】、如意宝ヲ【真】

六万ノ采女ト六万ノ采女ト共ニ【華】／位ニ付カセ給ヒテ位ニ即キ玉イテ【華】、位ニ即セタマヘ【真】

夷母――姨母【華・真】／摩訶波闍波提ノ――摩訶婆闍波提ノ【真】／御心ヲモ安シテ進セ給フヘシ――御心ヲモ安メ奉リ玉ヲ又計ナリ【華】、御心ヲカケス【真】

タ、――ここより【真】になし

タ、産マイラセヌト申計リ也――なし【華】／太子生レサセ給ヒテ――大

七日ヨリ養育シマイラセラル、御心サシ是深シ又親ノ

子ヲ思フ心サシトナカラ淨飯大王ノ御心実ニ哀也師子頼王ノ」45オ

跡ヲ継キ迦毘羅衛國ノ王トモ成リヲハスヘキ一人ノ太子モ坐シ

マサヌ事ヲ憂悲ミ給フ処ニ太子ノ御誕生シ給ヘハ嬉ク思

召テ恭敬供養シ給フニ太子十善ノ位ヲ御心ニモカケ給

ハスヤ、モスレハ世ヲ遁ントノミシ給ヘハ城櫛ヲ構ヘ兵ヲ置カセ

給テ明ケ暮レ守セ給ヒツルニ甲斐モナク失ヒ進セテサコソ

ハ悲ミ給フラン舍匿金泥駒ト此珠トヲ以テ參タル物ナラハ

太子ヲハ何クニヲキマイラセテ舍匿ハ徒ラニ歸リタルソトテ重キ

子誕生シ玉イテ【華】

七日ヨリ養育シマイラセラル、―七日ト申スヨリ養育シ奉リ玉ヘリ
【華】

トナカラ―貴賤共ニ深シト申セトモ【華】／淨飯大王ノ御心―大王
ノ御志シ【華】

王トモ成リヲハスヘキ―王ト成ヘキ【華】／一人ノ太子モ坐シマサ
ヌ事ヲ―一人ノ太子ノ有サヌコトヲ【華】

太子ノ御誕生シ給ヘハ―太子誕生シ玉ヘハ【華】／嬉ク思召テ―悦
シキコトニ思食シ【華】

恭敬供養シ給フニ―恭敬養育シ玉ウニ【華】／十善ノ位ヲ御心ニモ
カケ給ハス【華】十善位ニモ御心ヲ懸玉ワス

カケ給ハス―ここまで【真】になし

世ヲ遁ントノミ―世ヲ遁ント【華】／兵ヲ置カセ給テ―兵ヲ以テ

【華・真】

明ケ暮レ守セ給ヒツルニ―アケクレ守レ守ラセ玉イツルニ【華】／

甲斐モナク失ヒ進セテ―其甲斐モナク空シク失イ奉リ【華】、カイ
モナク空ク失ヒマイラセテ【真】

悲ミ給フラン―歎キ悲ミ玉ウラメ【華】、歎悲ミ給ラシメ【真】／舍匿
金泥駒ト此珠トヲ以テ參タル物ナラハ―然ニ舍匿此珠ヲ以テ參タル
物ナラハ【華】、舍匿此玉ヲ以テ奏タル物ナラハ【真】

ヲキマイラセテ―捨置奉リ【華】／舍匿ハ徒ラニ歸リタルソトテ―
你イタツラニ還リヌルソトテ【華】／重キ罪ニヤ―重キ罪ニ【華】、

罪ニヤ行レ進スラン舍匿ハ参ルヘカラス其上太子朝暮三人

ノ妃六万ノ采女ニカシツカレ習ハセ玉ハヌ此柴ノ下ニタ、独リ

「45ウ

何カ住セ給フヘキトイサメ申セトモ太子用ヒ給ハス劍ヲヌイテ

御髻ヲ切テ宮中ニ捧ケ天帝釈切利天ヨリ下リテ菩薩

ノ御髻ヲ取テ供養ス菩薩髻髮会ヲ始テ菩薩ノ御髮

ヲ供養スル事今ニ不絶ト経ニハ説レタリサレハ髮ヲ剃ル

所ニハ天人影向シ給フ故二人ハ不立事也御髻ヲ切テ

空ニ上テ御身ノ環珞種々ノ御衣ヲ脱キテ舍匿ニ与

テ被仰様ハ汝此環珞衣服ヲ以テ王宮ニ参テ種々ノ

形見ヲ分テ面々ニ進セヨ我父ノ大王ハ舍匿ヲ御覽シテハ

重キ罪ニモ【真】

行レ進スラン行レンコト甚^{ハナタケ}怖レアリ【華】、行ハレマイラセン事

ノ恐レアレハ【真】／参ル王宮へ帰ヘリ参ル【華】、還リ参ル【真】

／其上亦【華】／朝暮年来【華】

カシツカレ習ハセ玉ハヌカシツキ敬ワレ坐シツルニ【華】、カシ

ツキ敬ヒ習ハセマシクテ【真】／此柴ノ下ニ今更此木ノ下ニ【華】、

コノ木ノ下ニ【真】／何カ何ニトシテカ【華】

太子用ヒ給ハス太子ハ【華】、太子【真】

御髻ヲ自ラ御髮ヲ【華】／宮中ニ捧ケ空中ニ捧ケ玉ヘハ【華】、虚

空ノ中ヘ捧ケ玉ヘハ【真】／下リテアマクタリ【真】／なし【慶・真】

御髮ヲ取テ天ニ登テ【華】／菩薩ノ御髻ヲ取テ供養スーなし【華】

菩薩髻髮会ヲ始テ菩薩髻髮会ヲ建テ【華】、菩薩ノ髻髮会ヲ立テ

【真】／菩薩ノ御髮ヲなし【華・真】

今ニなし【華】／経ニハ説レタリ経ニ説ケリ【真】／髮ヲ剃ル

所ニハ今モ髮ヲ剃所ニハ【華】

不立事也立サル也【華】、不立ナリ【真】／御髻ヲ切テ空ニ上テ

一時ニ太子御髮ヲ切り空ニ投テ【華】、なし【真】

御身ノ環珞御身ノ種々ノ環珞【華】、太子ノ御身ノ環珞【真】／

種々ノ細要ノ【華】

被仰様ハ勅ハク【華】／汝なし【真】／種々ノ形見ヲ形見ヲ【真】

分テ面々ニ進セヨ分ケ奉ルヘシ【華】、分チ奉レ【真】／我父ノ

大王ハ父ノ大王ハ【華】、大王【真】／舍匿ヲ御覽シテハ你ヲ

太子ハ何クニ有ソトテ故ヲ問ハントコソ思召サンスレ罪ニ行ハン

「46オ

トハシ給フマシキ也其上道理ノ至極セル四句ノ偈頌ヲ書テ

進セン是ヲ御覽セハ御漢^{ナケキ}自ラ止テ御心安ク思召サントテ金泥

駒ニ御名残ヲヲシマセ給フ我ハ是人ノ中王汝ハ是馬ノナカ

ノ王也物ノ王ト成ル事ハ皆是十善戒力也汝チ馬ノ王ト成

我ト同日ニ生レテ今最後ノ送リヲシツル事コソ哀レナレ我仏
ト成ラハ急テ汝カ為ニ甘露ノ法ヲ可説我ハ此ニ留ルヘシ王宮
エ帰レト告給ヘハ金泥駒モ首ヲウナタレテ涙ヲ流シ口^{クチ}ヲアキ

舌ヲマキテ大地ニ倒レ臥ス舍匿^{カクレ}是ヲミテ音ヲ上テ大ニサケフ

見玉ヒテ【華】

故ヲ問ハントコソ思召サンスレーイツキムクヘヲコソ問玉ハンスレ

【華】、イツキ舍匿ヲ召テ故ヲ問ハントソ思食サムスル【真】／罪

ニ行ハントハ―罪ニ行ハル、コト【華】

シ給フマシキ也―有ヘカラス【華】／其上―其【華】／書テ進セン

―奉ル【華】、參ラセン【真】

是ヲ御覽セハ―大王是偈ヲ見玉ワハ【華】、此偈頌ヲ御覽セハ【真】

／御漢―大王ノ御歎【真】／御心安ク思召サントテ―御心安カルヘ

シ【華】、御心安ク思食スヘシトテ【真】／金泥駒ニ―亦金泥駒ニ

向ヒテ【華】

御名残ヲヲシマセ給フ―勅シ玉ハク【華】、名コリヲソ惜シミタマ

フ【真】／是馬ノナカノ王也―亦馬ノ中ノ王タリ【華】

十善戒―先世十善戒ノ【華】／馬ノ王ト成―馬ノ王チ也【華】、馬

ノ王トナルト云ナカラ【真】

兼テ―先ツ【華】／王宮エ―汝ハ王宮ヘ【華・真】

金泥駒モ首ヲウナタレテ―金泥首ヲ垂レ【華】／なし【慶】―舌ヲ

ノヘテ太子ノ御足ヲ舐^{ネアリ}リ【華】、舌ヲ出シ太子ノ御足ヲ舐^{ネアリ}リ【真】／

涙ヲ流シ口ヲアキ―両眼ヨリ大ナル涙ヲ雨ラシ【華】、二ノ眼ヨリ

大ニ涙ヲオトシテ【真】

舌ヲマキテ―なし【華・真】／大地ニ倒レ臥ス―左右ノ膝ヲ屈^{ヒナ}シテ

身ヲ捨テ大地ニツヨク倒レ臥シテ起ス【華】、左右ノ足屈ツヨク大地

云心ナキ畜生ノ金泥ナヲシ太子ノ別ヲ悲テ涙ヲ流シ倒レ臥ス」46ウ

何ニ況ヤ心有ル人倫ノ舍匿ヲヤ太子ヲステ進セテ我空ク舍

匿独王宮ニ可帰トラメキサケフトイヘトモ太子ノ御命重ケレハ

主ナキ金泥駒ノ鞍ノ間ニ太子ノ種々ノ御衣瓔珞ヲ結ヒカケ

テ泣々馬ヲ引テ舍匿ハ王宮ヘ帰リケリ金泥駒太子ニ別レ

奉テ王宮エ帰ルトテ見返テハ嘶キ見返テハイナ、キスル其音

四十里ヲ響ス金泥駒ノ嘶音ヲ聞付テ国内ノ人民家内ヨリ

走出テ金泥駒ノ音ノ聞ユルハ太子ノ王宮エ還御成給フカト

ミレハ主無馬ノ鞍ノ間ニ御衣瓔珞ヲ結テ舍匿泣々馬ヲ引テ

返ル是ヲミル人民太子何様ニ成給ヒタリトマテハシラネトモ太子ミ
エタ

「47オ

ニ倒レ臥ス【真】／サケフーオメイテ【真】

心ナキ畜生ノ金泥―畜生スラ【華】、心ナキ畜生【真】／別ヲ―御
別ヲ【華】

心有ル人倫ノ舍匿ヲヤ―人倫ヲヤ【華】、人倫ノ舍匿ヲヤ【真】／
進セテ―奉テ【華】／我空ク舍匿独王宮ニ―争カ^{イカテ}舍匿^{シヤノク}独リ空ク王

宮ニ【華】、何テカ空ク【真】

ヲメキサケフトイヘトモ―悲ミ申セトモ【華】、^{ヲメキサケ}叫喚ヘトモ【真】

金泥駒ノ―なし【真】／種々ノ御衣瓔珞ヲ結ヒカケテ―種々ノ瓔珞
衣服ヲ結懸テ【華】、御衣瓔珞ヲ結付テ【真】

馬ヲ引テ―なし【真】／舍匿ハ―なし【真】／太子ニ別レ奉テ王宮
エ―太子ヲ別レ奉テ王宮ヘ【華】、太子ニ別レテ【真】

見返テハ嘶キ見返テハイナ、キスル其音―^{カハリミ}顧テハ嘶々スル声【華】
四十里ヲ響ス―四十里ヲヒ、カス馬ノ王也【真】／金泥駒ノ嘶音ヲ聞

付テ―此馬ノ声ヲ聞ク【華】、金泥駒ノ音ヲキ、ツケテ【真】／国内ノ
人民家内ヨリ―此馬ノ声ヲ聞ク内ノ人民悉ク【華】、国内ノ人民【真】

金泥駒ノ音ノ聞ユルハ―金泥駒ノ声ノスルハ【華】、なし【真】／
太子ノ王宮エ還御成給フカト―太子王宮ヲ出テサセ玉ナルカ王宮

ヘ還御ナルカト【華】、太子ノ御還御ナル歟ト【真】

主無馬ノ鞍ノ間ニ御衣瓔珞ヲ結テ―主ナキ馬ヲ引テ^ビ【華】、舍匿泣々
馬ヲ引テ返ル―舍匿一人返ヲ見テ【華】

是ヲミル人民―なし【華】／太子何様ニ成給ヒタリトマテハ―太子ハ
イカヤウニ成玉ウルトハ【華】、太子ハイカニナリ玉ヒタリトハ【真】

マハネハ父母ニ別レタルカ如シテ泣悲エリ去程ニ浄飯王宮ニモ

金泥駒ノ音ヲ聞付テ浄飯王宮ニモ騒動ス太子ト舍匿舍

人ト舍泥駒トヲ失テヲメキ叫フ事無極処ニ金泥駒ノ音ノ

聞ユルニ太子ノ還御被成歟ト悦テ走り出テミレハ主ナキ馬ノ鞍ノ

間ニ太子ノ御衣瓔珞宝冠ヲ結付テ舍匿一人泣々引テ返ル

ヲテ太子ハ何様ニ成給ヘハ空ク馬斗ヲハ引テ舍匿ハ返ソ

トテ或ハ音ヲ失ヒ或ハ倒レ臥ス或ハヲメキ叫ヒ或ハ悶絶辟地ス舍匿

王宮ニ参テ如意宝珠ヲ手ニ捧テ大王ニ奏ス此ハ是太子ノ御

／太子ミエタマハネハ―なし【華・真】

父母ニ別レタルカ如シテ―人々悉ク皆父母妻子ニ別タルカ如ク【華】、
父母ニ別レタルカ如ニ【真】／泣悲エリ―天ニ仰キ地ニ伏シテ歎キ
悲ミアエリ【華】、泣キ悲ミアヘリ【真】／浄飯王宮ニモ―なし【華】、
王宮ニモ【真】

金泥駒ノ音ヲ聞付テ―なし【華】／浄飯王宮ニモ騒動ス―なし【華】、
騒動ス【真】／舍匿舍人ト舍泥駒トヲ失テ―王宮ハ太子ト舍匿舍人ト
金泥駒トヲ失テ【華】、浄飯王宮ニハ太子舍匿舍人金泥駒等ヲ失テ【真】
ヲメキ叫フ事無極処ニ―天地ヲ震動シテ上下男女ヲメキ叫フ喩エン
コトナシカ、ル所ニ【華】、ヲメキサケフコト无限キ所ニ【真】／
音ノ聞ユルニ―□ヲキ、テ【華】、音ノスルハ【真】

還御被成歟ト悦テ―返御ナルカトテ【華】、還ナリタルカト【真】
／走り出テ―イソキ走出テ【華】、イソキ走出テ、【真】

御衣瓔珞宝冠ヲ結付テ―御衣瓔珞ヲ結掛テ【華】、御衣瓔珞ヲ結ヒ
付テ【真】／舍匿一人―なし【真】／引テ返ルヲテ―馬ヲ引テ還ヲ
見テ【華】、馬ヲ引テ返ルヲ見テ【真】

空ク馬斗ヲハ引テ―空キ馬ヲ引テ【華】、空ク馬ヲ引テ【真】／舍匿
ハ返ソトテ【華】你ハ還ルトテ【真】舍匿ハカリハ返タルソトテ
音ヲ失ヒ―言ヲ失テ涙ヲ流シ【華】／倒レ臥ス―肝ヲ銷テ倒レ臥シ
【華】／ヲメキ叫ヒ―仰テヲメキ叫フ【華】／悶絶辟地ス―地ニ伏
テ悶絶ス【華】、地ニ伏テ悶絶蹙地ス【真】

王宮ニ参テ如意宝珠ヲ手ニ捧テ―王宮ニ詣テ【華】、なし【真】／大

髻ノ中ニ納給ヒツル如意宝珠也又父王ニ進セヨトテ送り給ヘリト

「47ウ

奏スレハ太子ハ何様ニ成リ給タレハ加様ナルラントテ悲ミテ消入給フ大臣冷

水ヲ御カホニソ、キ奉リケレハ大王御心地出来給フ其時舍匿種々ノ

御衣宝冠瓔珞ヲ取出テ是ハ姨母摩訶波闍波提ノ御為是ハ

第一ノ后耶輸多羅ノ御為是ハ第二ノ后意持女ノ御為是第三

ノ妃俱陀弥ノ御為是ハ六万采女ノ為是ハ五百ノ大臣ノ為トテ種々ノ御形見ヲ取出ス后妃采女はヲ見テヲメキ叫フ事叫喚地獄ニ不レ異ト仏ハ

経ノ中ニ説給ヘリ舍匿太子ノ四句ノ偈頌ヲ父ノ大王ニ奉ル此偈頌ヲ御

覧シテ御心ヲ息シテ御恨ミヲ忘レ給フヘキ道理ノ至極セル法門ヲ送り給ヘリ其文ニ

王ニ奏スー大王ニ奏シテ白サク【華】／御髻―御髮【華】

納給ヒツル―戴キ玉ヘル【華】、戴キ給ツル【真】／如意宝珠也―宝珠也【華】、珠也【真】／又父王ニ進セヨトテ―父ノ王ニ奉レトテ【華】、進セヨトテ【真】／給ヘリト―給ヘルト【真】

太子ハ何様ニ成リ給タレハ加様ナルラントテ―大王太子ハ何様ニ成玉ヘルトハ知食サネトモ【華】、太子ノイカヤウニ成給ヌルトハ知食サネトモ【真】／悲ミテ消入給フ―余ノ悲ミニタヘスシテ消入玉イヌ【華】、悲ノ余ニ消入玉ヒヌ【真】／冷水ヲ―ス、シキ水ヲ【真】大王御心地出来給フ―暫ク有テ活リ玉ウ【華】、大王 甦 玉ヌ【真】／其時―尔時【真】

御衣―御服【華】／宝冠―なし【華・真】／姨母摩訶波闍波提―姨母【華】、摩訶波闍婆提【真】

耶輸多羅―なし【真】／意持女―意持【華】、なし【真】／俱陀弥―なし【真】

為―御為【華・真】／取出ス―取出スヲ【慶】

ヲメキ叫フ事―悶絶蹠地シテヲメキ叫フ【華】／叫喚地獄―大叫喚地獄【華】／不レ異ト―不実【真】／仏ハ―仏ケ【華】、なし【真】

舍匿―サテ舍匿【華】、サテ【真】／偈頌ヲ父ノ大王ニ奉ル―偈ヲ取出シテ【華】、偈ヲ大王ニ奉テ云【真】／御覧シテ―御覧セハ【華】御心ヲ息シテ―御心モ安シテ【華】、心ヲヤスメ【真】／御恨ミヲ―恨ヲ【華】、恨ヲワスルヘキ【真】／至極セル法門ヲ―法門也トテ【華】／送り給ヘリ―送り玉ヘリトテ大王ニ奉ル【華】、送タマヘリトテ奉

云譬如大樹衆鳥群 各從諸方來共宿 後日別飛各自去 「48オ

衆生離別亦復然ト此文ヲ訓釈スルニ譬ハ大ナル樹ニ諸ノ鳥群アリ各諸方

ヨリ來テトモニ宿スレトモ後日ニハ別レ飛テ各自ラ去ルカ如シ衆生別レ離ル、事又復然也

ト文ノ意ハ心得ルニ哀貴事也譬ハ淨飯王宮ナル樹ノ如シ父ノ大王ヲ始メ

奉リ姨母ノ摩訶波闍波提三人ノ妃キ六万ノ采女五百ノ大臣十万眷屬ハ

木スヘニ宿スル夜ノ鳥ノ如シ生テモ別レ死シテモ別ル、事木スエニ宿ル夜ノ

鳥ノ夜明レハ皆四方ニ飛去テ独リモ木スエニ不^{サル}殘^ラカ如シ独モ殘留ルハ

可^{カラ}レ有ス大王此理ヲ御覽スレトモ親ノ子ヲ思フ道ニハ理ヲモ忘テ是ヲ慈ム習ヒ一人ニ不限

一切衆生如此又淨飯王宮ニ生ヲ受ル衆生ノ別離ノミニアラス此理ハ三世十方

ル【真】

復然ト―復然云々【華】／此文ヲ訓釈スルニ―此文ノ意ハ【華】、コノ文ノ心ハ【真】／群アリ―群^{ムラカ}レリ【華】

宿スレトモ―宿ス【華】／別レ離ル、事―離レ別ル、コト【華】、離レ別ル、コトモ【真】／又復然也ト―会イ亦然ナリト【華】

文ノ意ハ心得ルニ―なし【華】、文ノ心得ルニ【真】／哀貴事也―誠ニ哀^{アツレ}ニ貴キ文也【華】、哀ニ貴キ文也【真】／淨飯王宮ナル樹ノ

如シ―淨飯王宮ハ大樹ノ如シ【華】、王宮ハ大樹ノ如シ【真】／父ノ大王ヲ始メ奉リ―父ノ王ヲ始奉テ【華】、大王【真】

姨母ノ摩訶波闍波提―姨母【華・真】／六万ノ采女―采女【真】／五百ノ大臣十万眷屬ハ―大臣眷屬等ハ【真】

木スヘニ宿スル―枝ニ宿スル【華】、なし【真】／夜ノ鳥―衆鳥【華】、鳥【真】／別ル、―離ル、【華】／木スエニ宿ル夜ノ鳥ノ―群鳥ノ【華】

夜明レハ―なし【真】／四方―四方八面【華】、四方八方【真】／木スエニ―枝ニ【華】、木ニハ【真】／【慶】独モ殘留ルハ―王宮

ニ独モ殘リ留ル者【華】、なし【真】

大王此理ヲ―一切衆生如此―なし【華】

可^{カラ}レ有ス―なし【真】／御覽スレトモ―知食セトモ【真】／思フ道ニハ―思ニハ【真】／是ヲ慈ム―悲ム【真】

又淨飯王宮ニ生ヲ受ル衆生ノ別離―唯淨飯王宮【華】、淨飯王宮ニ生レタル衆生ノ別レ【真】／此理ハ―なし【華・真】

ノ衆生ノ生アル者ハ必ス死スル習アリ会者定離ノ理有一人トシテモ
遁ルヘカラス只

「48ウ

無常博愛ノ境ヲステ、涅槃常住ノ城ヲ欣フヘシ人間ニ生ヲ受ル事極
テ希也

譬ハ針^{はり}ヲ大地ニ立テ芥子ヲ以テ針ノ穴ヲ打通サント打トモ針ノ穴ヲ
打トヲサシ

事難シ譬ハ針ノ耳ヲ打通ス事ハアリトイフトモ二度又人界ニ生ヲ受
ル事難シ

經ニハ説キ給ヘリ其故ハ罪ヲ造ル者ハ多ク善ヲ修スル者ハ希也善ヲ
修シテコソ

人間ノ果報ヲハ受ク也サレハ人天善趣ノ生ヲ受ル事難シト説ケリ或
經ニハ三途

八難ニ墮ツル者ハ十方ノ土ノ如シ人天ノ果報ヲ受ル者ハ爪上ノ土如シ

衆生ノ一切衆生【華】、一切ノ衆生ニ【真】ノ生アル者ハ必ス死ス
ル習アリ生者必滅【華】、スル者ハ必ス滅スル習アリ【真】ノ慶
会者定離ノ理有一会者定離ノ習【華】、会物ハ定メテ離ル、理リ【真】
ノ一人トシテモ遁ルヘカラス一なし【華】、遁ルヘカラス【真】ノ
只無常博愛ノ境ヲステ、涅槃常住ノ城ヲ欣フヘシ無常轉變盛者必
衰ノ裡一人トシテ遁ルヘキコトナシ【華】、無常轉變ノ堺【真】ノ
なし【慶】一有為ノ堺尤厭ヘシ無漏ノ悟リ速ニ求ヘシ【華】、有為
有漏ノ世ハ尤厭ヘシ【真】ノ慶人間ニ生ヲ受ル事極テ希也一人
間ニ生ヲ受ルコト極テ希有ニシテ得難シ【華】

譬ハ針ヲ大地ニ立テ大地ニ針ヲ立テ【華】ノ芥子ヲ以テ針ノ穴ヲ
打通サント打トモ一梵天ヨリ芥子ヲ以テ【華】ノ針ノ穴ヲ打トヲサ
ン事難シ一打通サンコトハ安シ【華】

譬ハ針ノ耳ヲ打通ス事ハアリトイフトモ一なし【華】、タトヒ針ノ
穴ヲ打トヲスコトハアリトモ【真】ノ又人界ニ人界ニ【華】、人
界ノ【真】ノ難シ一其ヨリ百千万陪難カルヘシ【華】、有難シト【真】
經ニハ説キ給ヘリ一なし【華】、仏ハ説玉フ【真】ノ修シテコソ一
修シテハ【華】

果報ヲハ受ク也一生涯受ク【華】、果報ヲハ受レ【真】ノなし【慶・
真】一惡ヲ作レハ三惡四趣ニオツレハ也【華】ノサレハ人天善趣ノ
生ヲ然レハ人天ノ善報ヲ【華】ノ難シト説ケリ一甚タ難シト説玉
ヘリ【華】

土一大地【華】、土田【真】ノ其故ハ一其故ハ何ントナレハ【華】、

ト説リ其故ハ

悪ヲ好ム者ハ十方ノ大地ノ如ク多ク善ヲ修スル者ハ爪上ノ土ノ如シ
是程受難キ

人界ノ生ヲ受タレトモ仏法ニ値事又難シ譬ヒ仏法ニ値ト云トモ信心
ヲ発ス

事難シ譬ヒ信ストイヘトモ誠シク行フ事難シ加様ニ難受人界ノ生ヲ
ウケ

— 49オ

難値仏法ニ値ルシルシニ生死ヲ可離御法ヲ行シテ仏ト成ラント思召
シテ太子ハ御衣

瓔珞ヲ脱テ都ヘ返給フ身莊リラスデ、御サマヲヤツシ給ヘリ或ハコ
ケヲアフ

其故云何ト尋ヌレハ【真】

悪ヲ好ム者ハ十方ノ大地ノ如ク多ク—なし【華・真】／土ノ如シ—
土ノ如ク有難キ也【真】／なし【慶・華】—悪ヲ好ム者ハ十方ノ大
地ノ土ノ如ニ多シ【真】／是程—カク計リ【華】

人界ノ—人間ノ【華】、なし【真】／受タレトモ—受テモ【華】／
又難シ—百千万倍難シ【華】／信心ヲ発ス事難シ—信ヲ起スコト甚
希有ナリ【華】、如法信ヲ起スコト有難シ【真】／なし【慶・華】
—タマ—仏弟子トナレトモ五戒十戒ヲ不持レハ不僧ニ不比丘ニ是
ヲナニトカ名ツクヘキト説玉ヘリ【真】

譬ヒ信ストイヘトモ—信ヲ起スコトハ有トイヘトモ【華】、或ハ信ス
レトモ【真】／誠シク—誠ニ【華・真】／行フ事難シ—仏意ノ如ニ行
スル事難シ【真】／なし【慶・華】—皆仏法ヲ以テ商ニシテ度世ノ計
ニスレハ恥ヲモ顧ス誹謗ヲモ恐ス適持戒ノ僧ヲミテハ我ニ不似トテ
毀廢ス如此ノ惡輩ノ来所アハレニ可悲キ事トモ也【真】／なし【慶】
—此故ニ人界ニ生ヲ受コトヲハ爪ノ上ノ土ニ譬タリ【華】、此故ニ人
界ニ生ヲ受コトハ爪ノ上ノ土ニ譬タリ【真】／加様ニ難受人界ノ生ヲ
ウケ—是程ニ受難キ生ヲ受【華】、此程ニ受難キ人間ノ生ヲ受テ【真】
値ルシルシニ—値ル時【華】／御法—仏法【華・真】／【慶】仏ト
成ラント思召シテ—仏道ヲ成センコトヲ人天ニ示サント【華】／太
子ハ御衣瓔珞ヲ脱テ—太子種々ノ御衣瓔珞ヲ脱テ【華】、なし【真】
都ヘ返給フ—王宮ヘ返シ玉イ【華】、なし【真】／身莊リラスデ、
—太子ハ世ヲ通レ【真】／御サマヲ—サマヲ【華・真】

テ御身ニ着シ木ノ柴ヲツ、リテ御膚ヲ隠シ或ハ木ノ皮ヲハキテ御身

ニマトイ板ヲミテ覆ヒ御ス百味ノ貢御ヲステ、山ノ中ニシテ菓ヲ拾
ヒ

五日ニ一度一ノ菓ヲ服シ七日ニ一度ヒ水ヲ飲ミ御ス泥ノ上ニ御シ苔ノ

上ニ臥ス或ハ岩ノ上ニ臥シヲトロノ上ニ臥ス或ハ片ノ足ヲ屈シ片ノ
足ノ爪ヲツマ

タテ、苦行ヲ致ス加様ニ六年マテ行ヒ給ヒシカハ六年ノ苦行ニ玉膚モ

クロミ衰エ御身ノ毛孔ヨリ出シ光モ失セ御力モヨハリ果テ、優

留頻羅聚落ノ泥土ノ上ニ臥給ヘリ只御眼ハカリソ残り給ヒケル天

御身ニ着シ御身ニマトイ【華】なし

御身ニ着シ御身ニキ【真】／柴葉【真】／御膚膚【真】

板ヲミテ覆ヒ御ス膚ニ覆ウ【華】、板ヲアミテ膚ニ覆フ【真】／

百味ノ貢御ヲステ、百味アル貢御ステ、【華】、百ノ味アル供御

ヲ捨テ、【真】／なし【慶・真】一苔ヲ編テ御身ニ着草ヲ綴テ膚ヲ

カクシ或ハ木皮ヲ剥テ身ニ纏イ板ヲ編テ膚ニ覆ウ【華】／山ノ中ニ

シテ山ノ中ニ【華】

一度一三度【真】／水ヲ飲ミ御ス一水ヲ飲ミ【華・真】／泥ノ上ニ
御シ一或ハ泥ノ中ニ臥シ【華】、或ハ泥ノ上ニ臥シ【真】

臥ス一臥シ【華・真】／臥シ一坐シ【華】／ヲトロノ上ニ臥ス一樹

ノ下ニ坐シ玉ウ【華】、オトロノ下ニ臥ス【真】／片ノ足ヲ一脚

ヲ【華】、片方ハ足ヲ【真】／片ノ足ノ爪ヲ一足ヲ【華】、足ノ爪

ヲ【真】／ツマタテ、一爪タテニ【華】

苦行ヲ致ス一七日七夜地ノ上ニ立玉ウ【華・真】／なし【慶】一此

ノ如ク苦行一種ナラス【華】、如此ノ苦行一シナナラス【真】／なし

【慶】一【華】サマタニ多シ、様々ニ多シ【真】／なし【慶】一

日七日ニ非ス【華】、一日二日ノ苦行ニ非ス【真】／加様ニ一なし【華・

真】六年マテ行ヒ給ヒシカハ一六年ノ間ヒマナク苦行シ玉ヘハ【華】

／六年ノ苦行ニ一なし【華・真】／玉膚モ一雪ノ膚モ玉ノ御体モ【華】

クロミ衰エ一クロミヤセ衰ヘ【真】／御身ノ身ノ【華・真】／光

モ一光モ香モ【華】／御力モ一御氣力モ【華】、御身モ【真】

優留頻羅聚落ノ一留頻羅聚落ニシテ【華】／臥給ヘリ一臥玉ヘハ【華】

是ヲ奉見テ急キ淨飯王宮ニ參テ大王知召スヤ悉達太子六年

苦行ニツカレ給ヒテ優留頻羅聚落ニ臥シ給ヘリ八万四千ノ毛孔ヨリ
出シ給フ御光モ消口ノ中ヨリ出シ給フ青蓮華ノニホイモ止玉体

ハクロニ衰エテ泥土ノ如シ只御眼ハカリ瞬キ御口ノ中氣息ノミ

カヨヒ給ヘリ今七日マテモナカラヘ給フヘカラスト大王此事ヲ聞召
テコハ

イカナル事ソヤサラストニ苦ク思召ツルニカヤウニ天人ノ告ケ給フ
コソ

悲シケレ太子命ヲ失ハン事今七日ヲ不可過ト聞給ヒイカ、スヘキト

歎キ悲ミ給ヘリ五百ノ大臣モ各悲シミアヘリ姨母摩訶波闍波提

三人ノ妃キ思ニムセヒ悲ミ泣ク時ニ優提大臣大王ノ御前ニ進ミ

／御眼ハカリソ残り給ヒケル―眸^{マノシリ}ハカリソ瞬^{マシロキ}キケル【華】、御マナ
シリハカリソマシロケル【真】／天―天人【華・真】

奉見テ―見テ【華・真】／急キ―急々【華】／知召スヤ―知食サス
ヤ【華】

ツカレ給ヒテ―ツカレテ【華・真】

出シ給フ―出シ【華・真】／御光モ―光モ【華・真】／出シ給フ―
出シ【華・真】／青蓮華ノ―青蓮ノ【華・真】／玉体ハ―玉ノ体モ

【華】、躰タハ【真】

クロニ―黒ミ【華】、クロミ【真】／御眼ハカリ瞬キ―御眸ノ瞬キ
【華】、なし【真】／御口ノ中氣息ノミ―口ノ氣ノミ【華】、口ノ中
ノ氣ハカリ【真】

今七日マテモ―七日モ【華】、七日マテモ【真】／此事ヲ聞召テ―
是ヲ聞玉イテ【華】、聞食シテ【真】

サラストニ苦ク思召ツルニ―イト、心苦ク思ツルニ【華】、イト、
心苦ク思□【真】／カヤウニ天人ノ告ケ給フコソ―天人此ノ如ク告
ルコトコソ【華】、天人ノ告ル事コソ【真】

今七日ヲ―七日モ【華】／聞給ヒ―聞ク【華】、聞ハ【真】／イカ、
―イカニ【華】

五百ノ大臣モ各悲シミアヘリ―姨母三人ノ后キ五百ノ大臣六万ノ采
女悲ニ泣クコト今―シホナリ【華】／姨母摩訶波闍波提―なし【華】、
摩訶波闍波提【真】

三人ノ妃キ思ニムセヒ悲ミ泣ク時ニ―時ニ【華】

出テ奏ス太子ノ宮ノ内ニ御坐ノ時モ優提ハ身親キ大臣ナレハ殊ニ

哀ミ思フナリト仰ヲ蒙リシ事モ今ニ不忘太子ノ苦行ニツカレテ臥

サセ給ヘル処ニ尋ネ參テ何様ナル御アリサマソ見進セント申

セハ大王御心ノヲキ所ナク悦ヒ給ヒテ優提イミシク申タリサラハ

自聚落ニ趣テ太子ヲイサメテ王宮エ還セ優提ハ重キ大臣

ナレハサリトモ優提ヲミテナトカ哀トラモハサラン太子還リ給ハス

ハ優提モ

還ルヘカラスト優提大臣宣旨ヲ蒙テ十善ノ王宮ヲ出テ優留類

羅聚落ニ詣テ、太子ハ何ナル所臥サセ給ヒタルソミ奉レハ泥ノ中

土ノ上ニ臥サセ給タリ玉体衰エ土ノ色ノ如シミ忘レ奉ル程ナリサレ
トモ

天人ノ告ニ心得テ太子ノ臥サセ給ヒタリト知りテ優提大臣太子ニ

申様イカニヤ太子浄飯大王ノ使ニ優提コソ參テ侍レ玉ノ台錦ノ

奏ス—奏スラク【真】／御坐ノ時モ—坐シ時【華】、坐シ時モ【真】

／身親キ—御身ニシタシキ【真】

哀ミ思フナリト—哀レニ思奉ル也【真】／仰ヲ—勅ヲ【華】／臥サ

セ給ヘル—臥玉ヘリ【華】、臥玉ヘル【真】

何様ナル御アリサマソ見進セント—御有様ヲ見奉ラント【華】

御心ノヲキ所ナク悦ヒ給ヒテ—歡喜シ玉イテ【華】、御心ノオキ所

ナキ程ニ悦ハセ玉テ【真】／優提—なし【真】

自聚落ニ趣テ—汝聚落ニ至テ【華】、聚落ニ趣テ【真】／王宮エ還

セ—王宮ニ還シ奉レ【華】、王宮ヘ返セヨ【真】／重キ—重テ【華】

サリトモ優提ヲミテ—汝遙ニ尋行キタラン【華】、サリトモ太子優

提ヲ見付テハ【真】／ヲモハサラン—思ワサルヘキ【華】、思サラ

ム【真】／優提モ—汝モ【真】

優提大臣—大臣【華】、なし【真】／十善ノ王宮—王宮【華・真】

／優留類羅聚落ニ詣テ、—遙ニ優留類羅聚落ニ至テ【華】

太子ハ何ナル所臥サセ給ヒタルソ—太子ヲ尋ネ【華】

玉体衰エ土ノ色ノ如シ—玉体瘦衰【華】／サレトモ—ソレトモ云ヘ

玉ワネトモ【華】

告ニ心得テ—告ヲ以テ【華】／優提大臣—大臣【華】、なし【真】

／申様—申シテ白サク【華】

イカニヤ太子—イカニ太子知食スヤ【華】／浄飯大王ノ使ニ—浄飯

大王ノ勅ヲ承テ【華】、大王ノ御使ニ【真】／參テ侍レ—詣リテ侍ヘ

シトネノ上ニ住ミナレサセ給ヒテ習ハヌ泥土ノ上ニ臥サセ給ヘル御事コソ

御傷^{イッ}侍レ太子ノ五百ノ童子ト御能クラヘノ時大象ノ臥テ道ヲ

フサキ人ノ通ルヘクモナカリシニ御手ヲノヘ大象ヲ捧給フ傍ニヲカ

レシ御イキラヒ優敷コソミエサセ給シカ又五百ノ童子ヲ三十

六番ノスマウヲ撰ヒシニ太子提婆達多ヲ御手ニ捧ゲ如施

火輪振り給ヒシニ唯今御力モヨハリハテ青蓮ノ御眸リ

モ変シ只御氣キ計カヨハセ給フ事コソ悲シケレ大王ノ宣旨「51オ

ニハ優提太子イサメテ王宮ヘ返シ太子還給ハスハ優提モ還ラスト

宣旨ヲ蒙テ優提自詣タリ早ク王宮ヘ還御ナラセ給テ大王ノ

御心ヲモ悦^{エロク}ハシメ又ハ姨母摩訶波闍波提ノ愁ヲモ息メサセ給ヘト

【真】

シトネノ上ニ茵ニ【真】／習ハヌー只今【華】／臥サセ給ヘル御事コソ―臥玉ヘルコソ【華】、臥セ玉ヘルコソ【真】

御傷侍レ―御イタワシケレ【華】、御痛シケレ【真】

フサキ―防キ【真】／人ノ通ルヘクモ―通ルヘクモ【華】、通フヘ

クモ【真】／ノヘ―以テ【真】／捧給フ―捧テ【華・真】／傍ニヲ

カレシ―遠ク置キ玉イシ【華】、遠ク置カセ坐シ【真】／御イキラ

ヒ―勢イ【華】
^{イキライ}

優敷―ユウシク【華・真】／童子ヲ―童子ヲ勝^{スクリ}リテ【華・真】

太子―なし【真】／如施火輪―空ノ中ニ於テ施火輪ノ如ク【華】、

空ノ中ニテ施火輪ノ如ク【真】

唯今―今ハ【華・真】

変シ―色変シテ【華】、色変シ【真】

優提太子イサメテ王宮ヘ返シ―優提モシ太子ヲ諫メテ王宮ニ帰シ奉

ラスハ【華】、太子ヲ諫メ奉テ王宮ヘ返スヘシ【慶】／太子還給ハ

スハ―なし【華】／優提モ還ラスト―汝モ還ヘカラスト云【華】、

優提モ還ルヘカラスト【真】

宣旨ヲ―勅ヲ【華】、仰ヲ【真】／優提自詣タリ―遙ニ尋詣タリ【華】、

詣リタリ【真】／早ク王宮ヘ還御ナラセ給テ―願クハ太子早ク王宮

ニ還坐シテ【華】、早ク王宮ヘ還御ナリテ【真】／大王ノ―父ノ大

王ノ【華】

悦ハシメ―悦シメ奉リ【華】／又ハ姨母摩訶波闍波提ノ―伯母摩訶波

申セハ太子此事ヲ聞召テ我涅槃ノ使コソ願ハシケレ煩惱ノ使ハ

不^{サル}願也早ク仏ニ成テ衆生利益セヨト勸事コソ願フナレ王宮ニ還テ

樂ミヲ受ケヨトイサムルハ是煩惱ノ使ナリ全ク願フ所ニアラス汝チ聞テ淨

飯王ニ奏セヨ我王宮ヲ出テ、後仏ト不成ハ二度都ヘ還入ラシト誓言

ヲ立ル也大臣早ク王宮ヘ返テ大王ニ此旨ヲ奏セヨトイサメ奉レトモ

動シ給ハサル事如^ニ須弥山ノ優提大臣ハ手モ力モ不及シテ泣々王宮ニ

「51ウ

返テ大王ニ奏スルヤウ太子ノ御有様コソ目モアテラレサル御事ナレ

青蓮ノ御眸リモ色変シテ丹菓ノ脣モニホイ衰テ玉体ハヤセ

クロミテ土ノ如シ御力ラモヨハリ果テ泥土ノ上ニ臥サセ給ヒタルヲイサ

闇波提ノ【華】、姨母ノ【真】／愁ヲモ―御愁ヲモ【華・真】／息メサセ給ヘト―安メ奉リ玉ヘリト【華】

太子此事ヲ聞召テ―太子宣ク【華】、太子聞食シテ【真】／涅槃ノ―涅槃菩提イノ【華】／願ハシケレ―ウレシケレ【真】／煩惱ノ使ハ―煩惱ヲ【華】

不^{サル}願也―願ハサル所ナリ【華・真】／仏ニ―仏ト【華】／勸事コソ―勸ムルコソ【華】／願フナレ―願ワシケレ【華】、願フ所ナレ【真】樂ミヲ受ケヨト―有為ノ樂ヲ受ヨト【華】、樂メト呼ヒ【真】／全ク願フ所ニアラス―我願ウ所ニ非ス【華】、なし【真】／汝チ聞テ―汝善ク聞テ【華】／淨飯王ニ―大王ニ【華・真】

都ヘ還入ラシト―都ニ還シト【華】、都ニ返ラシト【真】／誓言ヲ立ル也―誓キトテ【華】

大臣早ク―奉レトモ―なし【華】

大臣―なし【真】／王宮ヘ王宮ニ【真】／イサメ奉レトモ―諫レトモ【真】

動シ給ハサル事―動シ玉ワルコト【華】、不動【真】／優提大臣ハ―大臣【華】、優提ハ【真】／手モ力モ不及シテ―力及ハス【華】

大王ニ奏スルヤウ―大王ニ奏ス【華・真】／御有様コソ―御有様【華】／目モアテラレサル―目モ心モ及ハヌ【華】／御事ナレ―ワサナレ【真】

御力ラモ―御身モ【真】／泥土ノ―泥ノ【真】／臥サセ―臥シ【華】／イサメ申セトモ―再三諫メ申セトモ【華】

メ申セトモ涅槃ノ使ヒコソ我カ願エ煩惱ノ使ヒハ願ハサル所也王宮ニ還テ

五欲ノ樂ミニ居セヨトイサムルハ是煩惱ノ使ニ非ヤ雪山ノ麓ニ二人ノ

訶修羅^ア有リ一人ノミメヨキ王女ヲ争ヒテ二人トモニ命ヲ滅セリ

サレハ色アサヤカニ媚タル^{ナメイ}体ヲミン事ハ只命ヲツ、メ身ヲ滅スル基ヒ

也煩惱ノ敵也サレハ思召捨テ出ニキ五欲ノ樂ミヲ受ム事ハ思ヒモ

ヨラス事也我都ヲ出テ、ヨリ後不成仏二度王宮エ還ラシト誓」52オ

言ヲ立テアレハ王宮ニハ不可返此誓誠ニ空カラサレハ必ス仏ト成ヘシ

仏ト成テ後都ヘハ可返優早く返テ此由ヲ奏セヨトテ何カニモカ、

涅槃ノ使ヒコソ我カ願エー我ハ涅槃ノ使ヲコソ願ヘ【華】／使ヒハ
ー使ヲハ【真】

居セヨトー受ヨト【華・真】／イサムルハー勸ルハ【華】／是ーな
し【華・真】／雪山ノ麓ニーサレハ雪山ノフモトニ【真】

訶修羅ー阿修羅王【華・真】／二人トモニー共ニ【華・真】

只ー只此【華】、タ、コレ【真】／身ヲ滅スル基ヒ也ー身ヲ亡ス【華】、
身ヲ滅ス【真】

敵ー敵共【真】／サレハ思召捨テ出ニキー思捨テニ出ニテ【華】、思
ヒステ、出テタレハ【真】／なし【慶・真】ー然ハ二度王宮ニ返テ

【華】／五欲ノ樂ミヲ受ム事ハー五欲ノ樂受ケントハ【華】、五欲ノ

樂ミ受ヨト諫ルハ【真】／なし【慶・華】ー命ヲツ、メ身ヲホロホ

セト諫ニコソ是即オヤノ慈悲モナク大臣ノ忠モナキニアラスヤ王宮

ヘ還ラム事【真】／思ヒモヨラス事也ーユメ／思モヨラス事也【真】

都ヲー城ヲ【華・真】／出テ、ヨリ後ー出シ時【華】／二度ーなし【華】

／王宮エー王宮ニ【華・真】／誓言ヲ立テアレハー誓タレハ【華】

王宮ニハ不可返ー還コトアルヘカラス【華】、今王宮ヘ返ヘキ時ニ

非ス【真】／誠ニ空カラサレハー誠ニシテ空カラスンハ【華】、マ

コトニアサカラサレハ【真】／必ス仏ト成ヘシー仏ト成ヘシ【華】、

仏トナラムコト疑ヘカラス【真】

都ヘハー都ニ【華】、都ニハ【真】／優提ー你【華】、優提【真】／

何カニモカ、ワラセ給ハスー何ニ諫申セトモ【華】、諫ニシタカハ

セ玉ハス【真】

ワラセ給ハス其心不動事須弥山ノ如シ浄飯王宮ニハ父浄飯王

五百大臣摩訶波闍波提三人ノ妃キ六万ノ采女力及ヌ事トテアリケルニ

魔王形ヲ変シテ王宮ニ枝露^ヒスル様ハ悉達太子苦行ニ勞テ早命

ヲハリ給エリト十善ノ王宮ニ此事ヲ聞付テヲメキ叫ヒ給フ事無限サ
レハ

ニヤ衰エ果テ給フ御スカタニ坐シケルト承レハ頼ミスクナキ御事ト
思ツルニ早ヤ

空ク御命ヲハリ給ヒヌラン事ヨトナキ悲ミ給フ事無限云々

八相上ノ終

「 52ウ

釈迦八相ノ下

諸ノ天人浄飯王宮ニ参シテ大王ニ奏ス悉達太子外ニハ苦行ニ勞レヲハ

其心―其御心【真】／浄飯王宮ニハ―王宮ニハ【華・真】／父浄飯
王―父ノ王ヲ始奉テ【華】、浄飯大王【真】

五百大臣摩訶波闍波提三人ノ妃キ六万ノ采女―姨母三人ノ后キ五百
ノ大臣六万ノ采女諸ノ眷属【華】、五百ノ大臣摩訶波提三人ノ妃六
万ノ采女【真】／力及ヌ事トテアリケルニ―力ヲ及ハスシテ有ケル
ヲ【華】、力モ及ハヌコトニテ有ケル所ニテ【真】

枝露スル様ハ―王宮ニ告テ曰ク【華】

給エリ―玉イヌ【華】、玉ヒヌ【真】／十善ノ王宮ニ―王宮ニハ【華】、
王宮ニ【真】／此事ヲ聞付テ―亦是ヲ聞テ【華】／ヲメキ叫ヒ給フ
―ヲメキ叫【華】、ヲメキサケフ【真】／サレハニヤ―サレハコソ
【華・真】

衰エ果テ給フ御スカタニ―衰ヘハテ玉ヘル御気色ニテ【華】、衰ハ
テ玉ヒタル御姿ニテ【真】／承レハ―ウケタマワリシカハ【華】／
御事ト―御事ニコソ【真】、思ツルニ―思奉ツルニ【華】／早ヤ―
早ク【華】、サテハ早ヤ【真】

空ク御命―御命空ク【華】／ヲハリ給ヒヌラン事ヨト―脆クオハラ
セ給ヒヌラン事ヨトテ【真】／ナキ悲ミ給フ事無限云々―ナキカナ
シムコトカキリナシ【華】、泣キ悲ムコト限ナシ【真】

真福寺本ここまで

セトモ内ニハ

仏法ノ徳貴ク勇テ行シ給エハ諸ノ天人太子ヲ守リ奉ル故ニ本ノ如ク
光ヲ放テ

力モ付悟リ賢シテ仏ト成玉ハンコト既ニ近付ケリ大王御心苦ク嘆キ
給フヘカラスト

天人ノ告ヲ聞テ開テ浄飯王宮ニハ憂エ悲モ泣キ嘆クコト止テサテハ
空カラスシテ

既ニ仏ト成玉ハンコト近付タルコソ喜シケレト慶フ心更ニ起リケリ
其時提

婆婆羅門優婆羅聚落ニ悉達太子六年苦行ニ勞レテ臥シヲ

ハス由ヲ聞テ御訪ニ参リタレハ太子提婆々羅門ニ被仰様ハ六年ノ

苦行ニ勞テ力既ニ尽ヌ仏ト成ヌヘキ期近付ケリ然ハ天魔障ヲ」53オ

ヲナサンコト無疑我身ヲ勞力ヲ付テ魔王ヲ降伏シテ仏トナラン大力ノ

魔王ノ数ノ眷属ヲ戮テ天ヨリ下リテ定テ障ヲ成ヘシ身ヲ勞リ力

ヲ付テ魔王ヲ降伏セハヤト思フト提婆々羅門心有者ナレトモ身貧ニ財

乏クシテ太子ヲ勞リ奉ルヘキ力ナシサレトモ心ニ情ケ有ケレハ太子

ノ仰セ含ラル、

カイ有テ片衛ノ兵將婆羅門ト云ハ善生村ノ主シ七珍万福ノ財ヲ豊ナル
大福長者也カレカ許ヘ行テ相語テ云フハ浄飯王ノ太子六年苦行ニ勞
レテ

仏法ノ徳貴ク勇テ行シ給エハ諸ノ天人太子ヲ守リ奉ル故ニ―仏法ヲ
行シ玉ウ徳貴ク外ニハ諸天守護シ奉ル故ニ【華】

力モ付―力ヲ増シテ【華】

天人ノ告ヲ聞テ開テ浄飯王宮ニハ憂エ悲モ泣キ嘆クコト止テサテハ
―太子命畢リ玉ヘルト告ルハ魔王ノ語也更ニ用玉ウヘカラス是ヲ聞
テ王宮ニ愁悲ムフリヲ止テ【華】

近付タルコソ喜シケレト慶フ心更ニ起リケリ―近付ケリトテ歓悦ノ
心ヲ起シキ【華】

優婆羅聚落―優留頻羅聚落【華】

我身ヲ勞力ヲ付テ魔王ヲ降伏シテ仏トナラン大力ノ魔王ノ数ノ眷属
ヲ戮テ天ヨリ下リテ定テ障ヲ成ヘシ身ヲ勞リ力ヲ付テ魔王ヲ降伏セ
ハヤト思フト―身ヲ療シ力ツキテ大力ノ魔王無數ノ眷属ヲ將テ來ラ
ンヲ降伏ニシテ速ニ成仏セント思ウト【華】

身貧ニ財乏クシテ太子ヲ勞リ奉ルヘキ力ナシサレトモ心ニ情ケ有ケ
レハ―身貧ニシテ其ノ甲斐ナシ【華】

優婆塞聚落ニ臥給エルカ仏ニ成シコト既ニ近付ケリ定テ魔王障ヲ
ナサンコト無疑我身ヲ勞リテ魔王ヲ降伏シ仏ト成テ衆生濟度セハヤ
ト思フナリト給フ由シ語ル爰ニ兵將婆羅門ニ二人ノ娘アリ一ハ難
陀ト名ク一ハ

「53ウ

波叉羅ト名ク此二人ノ娘兵將提婆々羅門トノ悉達太子苦行ニ勞テ
聚落ニヲハスカ身ヲ勞ハラハヤト被仰ト云物語ヲ聞テ昔ノ福德ノ因
縁ニ

依テ今ノ果報目出度シテ長者ノ娘トナル故ニ仏法ヲ信スル心起リ太
子ノ御

身ヲ助テ仏ト成シ奉ラント思ヒテ善生村ヲ出テ優留頻羅此云林木

聚落ニ參テ太子ノ御有様ヲ見參セテ弥信心起リ太子ノ御身ヲ

勞リ香温ワカヲ湧シテ太子ニ浴セ參セ蘇密ト云イミシキ藥ヲ太子ノ

御身ニヌリ種々ニ勞リマイラセケレハ御身モ次第ニナリ御身力既
ニ付給ヒヌ人ノ

身ノ勞タルヲハ藥ノ温ヲ以テ治療スルカイミシキコトニテソ有ケル又
男ヲ勞ル

コトハ女人ヲ以テ看病セシム殊ニユ、シク藥ト成其故ハ太子ノ御身
ノ勞テ

「54オ

ヲハスヲハ藥ノ温ヲ治セ參ラセテ御身ノ垢ヲヌリ蘇密ヲ御身ニヌリ
奉ルコト

難陀婆叉羅ト云二人ノ童女太子ヲ勞リ給エハ其御身直リ給フ童女生テ

魔王ヲ降伏シトノ給フ由シ―魔王ヲ降伏セハヤト仰セアル由【華】
波叉羅―波羅【華】

兵將提婆々羅門トノ悉達太子苦行ニ勞テ聚落ニヲハスカ身ヲ勞ハラ
ハヤト被仰ト云物語ヲ聞テ―提婆婆羅門ノ父ニ語ルヲ子細ヲ聞テ【華】

故ニ仏法ヲ信スル心起リ―宿世ノ善根勝タル故ニ、仏法ヲ信スル心
忽ニ起テ【華】

善生村ヲ出テ優留頻羅此云林木聚落ニ參テ―二人共ニ密ニ善生村ヲ出テ
優留頻羅聚落ニ詣シテ【華】

香温―香湯ト云芳キ藥湯【華】

人ノ身ノ勞タルヲハ藥ノ湯ヲ以テ治療スルカイミシキコトニテソ有
ケル―人ノ身ノ疲タルヲハ藥温ヲ以テ療治スル尤コノ因縁也【華】
女人ヲ以テ看病セシム殊ニユ、シク藥ト成―女人ヲ以テ看病スルカ
シキ藥ト成ナリ【華】

其御身直リ給フ―速ニ本ノ如ク御身モナリ御力モ付玉ヘリ【華】

ヨリ男子ニ近ツカサルヲ云也仏法成就スルハ牛ノ乳ヲシホルニモ生
テヨリ以来男ニ

嫁カサル童女ヲ撰テシホラスル也沙門智通ノ所訳ノ經ノ中ニハ生ヨ
リ以来男ニ

不嫁人ニ使ハレヌ貴ク敬ヒ重クモテナサル、物ニ乳ヲモ煮アタラセケル也此藥
ハ直カキラ

又藥也今此二人ノ童女善生村ニ還テ父兵將婆羅門ニ申テ千頭ノ

黄アメナル牛ヲ集テユ、シキ藥ヲ飲セ千ノ牛ノ乳ヲシホリテ五百疋ノ牛ニ

飲セ五百疋ノ牛ノ乳ヲシホリテ百疋ノ牛ニ飲セ百ノ牛ノ乳ヲ五十疋
ノ牛ニ

飲セ五十疋ノ牛ノ乳ヲ三十疋ノ牛ニ飲セ三十疋ノ牛ノ乳ヲ十六疋ノ
牛ニ飲セ

— 54ウ

十六疋ノ牛ノ乳ヲシホリテ白玉ノ如クナル白キ米ニ合セテ粥ヲ煮ル
此粥ヲ千分乳ノ麤カユト名ク此粥ヲ煮ル時種々瑞相粥ノ中ニ現ス

此粥ヲ煮ルコトハ兵將婆羅門ノ二人娘長ノ子ナルカ故ニ貴ミ敬レ重
クシ

カシツカレテ生テヨリ以来男ニ不嫁童女自ミラ粥ヲ煮テ月ノ十五日ニ悉

達太子ヲ善生村ノ父ノ元エ請シ奉テ新シキ金鉢ニ盛り太子ノ御

前ニ備タリ太子此十六分フノ乳ノ粥ヲ服シ給ヒシカハ八万四千ノ毛孔
ヨリ

男子ニ近ツカサルヲ云也——男子ニ嫁カサル女人也【華】

直カキラヌ藥也——直ヲ限ラヌ靈藥ナリ【華】

百疋ノ牛ニ飲セ——三百ノ牛ノ乳ヲ洩テ百疋ノ牛ニ飲セ【華】

千分乳ノ麤——十六分ノ乳麤種々瑞相粥ノ中ニ現ス——種々ノ瑞相粥ノ
中ニ出現ス三世諸仏ノ相好八万四千ノ聖教悉皆現ス【華】

生テヨリ以来男ニ不嫁——生テヨリ以来人ニツカワレス男子ニ嫁セサ
ル【華】

金色ノ光ヲ放テ十方世界ヲ照シ八万四千ノ毛孔ヨリ牛頭梅壇ノ

香ヲ出スサレハ此法成就ノ粥ト名ク此粥ヲ表テ正月十五日ニ赤粥ニ
テ

書タル牛玉杖ヲ以テ女ヲハ孕ト打幸ナキ者ハ幸アレト打テ病アル

— 55オ

者ハ病癒ヨト打チ菓ミナラサル木ヲハ菓ミナレト打ツ万ノ福德ヲ成

就スルハ仏也イミシキ正月ノ祝ニハ此粥ヲ煮ル也当世ノ人ノ心僻^{ヒカミ}

テ衆ニ

ホコツテ種々ノ呪事ヲ以人ヲ打ツ是ハ世ノ末ニ成テ正キ法ヲ欺也正
月

ト云ハ正ノ法ヲ行テ人ヲ祝事ハ自他ヨカレト祈也又持斎ノ僧ノ勞
ル、ヲ直サン

料ニ齊ヲ持スルニ粥ヲ煮ハ此謂レヲ表也サテ太子善生村ヲ起テ菩提
樹ノ下列給ニ先ツ尼連河ト云河ニ入テ水ヲアヒ給フ太子ノ御身ヲ雪
キタル

河ノ水ナレハトテ天人空ヨリ下テ汲取テ自ラ宮殿ニ灑ク六年ノ間貴ク
行シ給ヒタル太子ノ御身雪キタル水ヲ潤キケレハ五衰退没ノ苦ヲ止
ル故ニ諸ノ

天人諍ヒ汲シカハ河ノ水既ニ尽ヘシ水神善神龍神王諸トモニ此水ヲ惜

法成就ノ粥―法身成就ノ粥【華】／赤粥ニテ書タル牛玉杖ヲ以テ女

ヲハ孕ト打幸ナキ者ハ幸アレト打テ―粥ヲ煮ルコト末代マテタヘス
其粥ヲカイタル杖ヲ牛玉杖ト名ク是ヲ以テ善キ子ヲ孕ト打幸アレト

打【華】

福德ヲ成就スルハ仏也―一切有情非情ヲ^{ノロウコトシテ}呪シテウツニ悉ク所願

ヲ成就ス衆ノ福德智恵ヲ成就シメ一切所願円満シ玉ヘル仏也【華】

正月ノ祝ニハ此粥ヲ煮ル也当世ノ人ノ心僻テ衆ニホコツテ種々ノ呪
事ヲ以人ヲ打ツ是ハ世ノ末ニ成テ正キ法ヲ欺也正月ト云ハ正ノ法ヲ

行テ人ヲ祝事ハ自他ヨカレト祈也―正月ト云ハ正シキ月ナリ十五日
八月ノ中円満ノ時節也サレハ正直ノ法ヲ行テ福智ヲ円満シ偏邪ノ見

ヲ離テ等正覺ヲ成セン為ノ祝ナリ【華】

持斎ノ僧ノ勞ル、ヲ直サン料ニ齊ヲ持スルニ粥ヲ煮ハ此謂レヲ表也
―僧ノ身疲レタルヲ療シナホサン為ニ朝ニ先ツ粥ヲ供養スルハ此謂
也【華】

水神善神―諸天人龍神此ヲ惜ム―尼連禪河ノ神水神龍王龍衆水中ノ魚

ノ魚ム其

「55ウ

故ニ此河ノ水海ニ流入レハ竜王熱沙苦ヨリ始テ大海ニ住ム群類万鱗皆罪

業ヲ解脱ナル故ニ諸天人龍神此ヲ惜ムサレハ袈裟ノ糸筋ヲ大海ニ入レハ龍神悦ヒ貴ト經ノ中ニ説レタリカヤウニ貴キ仏法ナレハ聞者罪ヲ消シ信スル

者業ヲ除ク毀スル者ハ災ニアヒ憎者ハ咎ヲ招ク太子尼連禪河ノ辺ニ立テ

菩提樹ノ下ニ趣給道ニ青キ草ヲ持テ逢ル人アリ太子怪テ汝ハ是

何ナル人ソト問給ヘハ我ハ是吉智菩薩也ト云手持タル青キ草ハ何

ナル草ソト問給ヘハ此草ハ吉祥草ト答太子此コトヲ聞召テ吉智ト

云菩薩吉祥草ト云草ヲ持テ道ニ逢ヘハ我定テ仏ニ成シコト無疑吉群草

ニハ吉悦吉幸ノ名有此草ヲ^{コイ}乞テ金剛座ノ上ニ敷テ仏ト成ント思召

「56オ

テ其吉群草ヲ我ニ与ヨト乞給エハ第六天魔王過去ノ七仏皆金剛

坐ノ上ニシテ正覺ヲ成給フ此木ヲ守セントテ長寿ノ夜又ヲ菩提樹ニ

付ラレタリ其夜又ヲハ香寿ト名ク此夜又驚テ片衛ノ赤眼ノ夜

又ニ告云ク汝知ルヤ淨飯王ノ御子悉達太子六年ノ苦行畢又菩

提樹ノ下ニ在シキ仏ト成ランコト無疑速ニ第六天ニ告ヨト云六眼夜

又ナレハ須臾ノ間ニ虚空ニ飛登テ奏スル様ハ大王知召サスヤ悉達太

虫ノ類イ皆悉ク此水ニ触レテ苦ヲ離レ樂ヲ受業道ヲ解脱ス【華】

カヤウニ貴キ仏法―加樣ニ諸天竜神貴敬シ守護スル仏法【華】

吉智ト云菩薩吉祥草ト云草ヲ持テ道ニ逢ヘハ我定テ仏ニ成シコト無疑―我仏ト成ランコト疑ナシ【華】

其吉群ヲ我ニ与ヨト乞給エハ―其吉祥草我ニ与エヨ乞圭ヘハ此菩薩則彼草ヲ太子ニ奉ル太子吉祥草ヲ取テ菩提樹下ニ到リ玉ヘハ【華】

長寿ノ夜又―命長キ夜又【華】

香寿―普乘【華】

六眼夜又―赤眼夜又【華】

子コソ六年ノ苦行畢テ菩提樹ノ下ニ趣キ給フ定テ仏ニ成リ給ハンコト無

疑ト大王此由ヲ聞召テ過去拘留孫仏拘那含加葉文皆是菩提樹

下金剛坐ノ上ニシテ等正覺ヲ成ル悉達太子正覺ノ期已ニ近付テ

― 56ウ

菩提樹ノ下来給フラン太子一人仏ト成テ八万ノ聖教ヲ説玉ハ、多ク衆生

生死ヲ離ナン我カ此三界ヲ滅シナン如何スヘキト勅シ給フ第六天ノ魔王ノ太子

ヲハ商主ト名ク彼太子ノ父王ニ奏スラク悉達太子ハ何様ナル威徳有ル自ラ下テ降伏セント第六天ノ魔王云商主太子ノ徳ヲ以テイカテカ悉達太子ヲ降伏セン三界ノ大魔ノ使ハ愛欲也三界ニミメ形勝タラン天女ヲ勝テ三人菩提樹ノ下エクタサン悉達太子ハ男子ナレハ天女ヲミテ愛欲ノ

心ナトカ起サラン彼愛欲ノ心ヲ起サンヲ媒トシテ心ヲ乱リ障ヲ成ヘシ太子ヲ妨ムトテ

三界第一ニミメイッソクシキ嚴天女三人撰テ其身ヲ莊リ菩提樹下ニクタス太子金剛

座ノ上ニシテ坐禪シ給フ天女坐禪ノ砌ヲ通レトモ太子御目ニモ懸不給諸法ノ

― 57オ

大王此由ヲ聞召テ―如何シ玉ウヘキ魔王此由ヲ聞テ驚愕シテ言ク

【華】

多ク衆生―無量ノ衆生【華】

我カ此三界ヲ滅シナン―三界ノ惑衆滅シナン【華】

商主ト名ク―商主太子ト号【華】

三界ノ大魔ノ使ハ―三界第一ノ結使ハ【華】

太子ヲ妨ムトテ―太子ヲサマタケンコト何ノ難コトカ有ラントテ【華】

諸法ノ源ヲ見一念ノ心ヲハ底ヲ徹シテ一分モ物ヲ心ニ掛不給其時天女力不及シテ―一心ノ底ニ徹シ諸法ノ源ヲ見真如ノ妙理ヲ明シテ性相ノ空寂ニ住シテ一念モ動シ玉ハス【華】

源ヲ見一念ノ心ヲハ底ヲ徹シテ一分モ物ヲ心ニ掛不給其時天女力不及シテ太子

ニ申様ハ我ハ是三界第一ノ天女也君ハ一天無双ノ男子也我ト五欲ノ樂ヲ

愛シ娛樂シ給エト太子此コトヲ聞召テ我三人妃六万ノ采女ヲミス
テ、仏法

ヲ行スレハ愛欲ノ心カツテナシ我カ行ヲ妨ルコトナカレト被仰レハ
天女カ玉ノ体衰

額^{シツ}皺^{カ、マリ}ヲタ、ミ腰^{カ、マリ}曲^{カ、マリ}テ身ヲ莊ル瓔珞ハ朽^{クチ}タル蛇^{クチナハ}ト成テ頸^{クサク}ヲマトイ夥^{クサク}
キタ

ナキコト無限カシケ衰エ天女還テ太子ニ降伏セラレ參ラセテ云加様
ニ浅

猿敷衰エタリ我ヲ助サセ給エ太子仏ト成玉ハ、我モ仏法ヲ守ラント
誓フ

第六天ノ魔王此コトヲミテ飛行ノ夜又ニ告テ云三界第一ノ愛欲ノ使
天女モ太

子ニ降伏セラレヌ今ハ三界ノ魔王魔民ヲ集テ天ノ戰ヲ起テ太子ヲ責
メ

奉レトモ赤眼ノ夜又大王ノ勅ヲ請テ三界ノ中ノ魔王ノ眷属ヲ催ス
魔王魔軍魔民雲霞ノ如クシ集リ来ル第六天二千眼ヲ現シ或千

一天無双ノ男子―男子也【華】

腰曲テ―腰ニエニカ、マリ【華】／朽タル蛇ト―多ク死シ朽タル蛇
ト【華】／夥キタナキコト―臭^{クサク}クキタナキコト【華】

天女還テ太子降伏セラレ參ラセテ云加様ニ浅猿敷衰エタリ―天女カ
クノ如ク太子ニ降伏セラレ奉テ云ク希有ナルカナヤ男子ノ身トシテ
一念ノ愛欲ノ心マシマサス我等女人トシテ妨ヲ至サントスレハ今カ
クノ如ク浅マシキ老衰セリ【華】

雲霞ノ如クシ―微塵ノ如ク【華】

手ヲ現シ或ハ百ノ手ヲ現ス或ハ百ノ眼ヲ現ス其身或ハ赤キコト朱砂ヲサセルカ如ク成ルモアリ或ハ二眼ニ手ヲ現スルモ有或ハ逆ニ走り横ニ走ルモ有

或ハ日月ヲ手ニ掬リ長ケ高ク身大ナルモ有或ハ金剛槌ヲ提ケ金剛ノ

鉄ヲ提モアリ或ハ弓箭ヲ帶シ鎧イカフト冑チヤクヲ着シタルモ或ハ金剛ヲ肩ニ打カツ

キタルモアリ第六天ノ大魔王三界ノ魔王魔民諸兵器ヲ持シテ雲霞ノ如クニ

集リ來ルヲミテ赤眼ノ夜叉告淨飯王ノ太子何ナル威德坐ストモ此天ノ軍

兵戰ヲ以テ責ンニナトカハ降伏セサラシニ無量ノ眷屬ヲ變テ菩提樹ノ下ニ

降ル無量ノ軍兵大音声ヲ揚テ軍ノ関ヲ作ル其声天ヲ響地ヲ動ス

サレトモ太子少分モ怒ル、所ナク一念モ心ニカクル所ナシ身ヲモ命ヲモ惜ネハ何トテ

カトキノ声ニ驚キ給フヘキ魔王ノ眷屬ハ雲霞ノ如ク菩提樹下ニクタル

太子ハ唯一人金剛座ノ上ニ金剛喻定ニ入給フ魔王力不及太子ヲ勸メテ

或ハ百ノ手ヲ現ス或ハ百ノ眼ヲ現ス其身或ハ赤キコト朱砂ヲサセルカ如ク成ルモアリ或ハ二眼ニ手ヲ現スルモ有―或ハ其ノ身長短方円ヲ現ス【華】

長ケ高ク身大ナルモ有―或ハ水火ヲ身ヨリ出ス或ハ須弥サハケヲ捧ケ或ハ大海カクムケヲ傾ク【華】／金剛ノ鉄ヲ提モアリ―或ハ鉄石ノ鋒ムツ斧ツヲ荷ウ【華】

或ハ金剛ヲ肩ニ打カツキタルモアリ第六天ノ大魔王三界ノ魔王魔民諸兵器ヲ持シテ雲霞ノ如クニ集リ來ルヲミテ―或ハ盤石サハケヲ捧ケ鉄網ヲ持セリ如此ノ種々ノ惡相ヲ現シ種々ノ器械ヲ具シテ其数ス恒沙ノ如シ時ニ魔王眷屬ノ集レル勢力ヲ見テ【華】

淨飯王ノ太子―悉多太子【華】

太子少分モ怒ル、所ナク一念モ心ニカクル所ナシ身ヲモ命ヲモ惜ネハ何トテカトキノ声ニ驚キ給フヘキ魔王ノ眷屬ハ雲霞ノ如ク菩提樹下ニクタル―太子ハ金剛ノ宝座ニ坐シ甚深ノ禪定ニ入玉ヘハ一念モ動シ玉ワス身心共所在ナクシテ慈忍三昧ニ入玉ウ魔王ハ恒沙ノ眷屬無數ノ摩軍ヲ率シテ菩提樹下ニクタル【華】

魔王力不及太子ヲ勸メテ云―更ニ妨ヘキ便ヲ得スシテ魔王言ヲ出シテ太子ヲ勸テ白サク【華】

云此木ノ下ニハ惡羅刹有リ物ノ命ヲ奪也久住シ給ハ、惡カルヘシ早ク他所

ヘ移リ給ヘト云太子ハ此言ヲ聞召テ三世ノ諸仏金剛定ヲ修スルコト此金剛座ノ上ナラテハ大地モ破烈スヘシ只此道場ハ此菩提樹下ニ

シテ定座セン我ヲ妨ケン為ニ余所エ移レト勸ル也心ヲ得テ誓言ハク虚空刀杖雨我身 対樹切切割我体 若我不度生死海 此菩提」58ウ終不移文ノ心ハ虚空ヨリ劍雨リ下テ我身ヲ寸々ニ割クトモ我若生死海ヲ不汲ハ此菩提樹ヲ終ニ不移スト誓実ノ心重ケレハ一分ニ動ク心無ク

恐ル、所ナシ云物ノヲソロシキコトハ身ノ惜ク命ノ惜キニコソアレ身ヲモ命ヲモ惜マネハ

恐ル、所ナシト云也爰ニ魔王力不及シテ大音声ヲ揚テ上量ノ魔軍ニ告ク

早く悉達太子ヲ射奉レ切奉レト魔軍ハ王ノ言ニ随テ或金剛ノ槌ヲ以テ太子ヲ打害サント打モ有リ或盤石ヲ投テ太子ヲ打摧トスルモ有

或ハ金剛マカリ鉞ヲ以御身ヲ切破ラント切ルモ有金剛ノ弓矢ヲ執テ太子

ヲ射奉ル者モアリ虚空ヨリ無量ノ利兵杖太子ノ御身ノ上ニ雨ノ

如ニ雨リカ、レトモ目ニモ懸タマハス増シテ一念モ心ニ恐ル、所ナシ仏法ノ不

「59オ

金剛定ヲ修スルコト此金剛座ノ上ナラテハ大地モ破烈スヘシ只此道場ハ此菩提樹下ニシテ定座セン—金剛喻定ヲ起タツツコトナシ此道場菩提樹下金剛座ノ上ナラスシテ仏ノ正覺ヲ成スル非ス【華】

心ヲ得テ誓言ハク—若我不度生死海 此菩提終不移—心ノ誠ヲ表シ語ヲ出テ誓テ宣ハク虚空刀杖雨我身寸々ニ切り割我体若我不度生死海此菩提樹終不移【華】／生死海ヲ不汲ハ—生死海ヲ度セスンハ【華】一分ニ動ク心無ク恐ル、所ナシ云—一毫モ動転スル心ナク少分モ恐怖スル心有サス【華】

身ヲモ命ヲモ惜マネハ—太子ハ身命ニ於テ一分モ愛惜シ玉ワネハ【華】

魔王力不及シテ—魔王大ニ怒テ【華】

或盤石ヲ投テ太子ヲ打摧トスルモ有—大盤石ヲ提ケテ太子ノ御身ニ投懸ルモアリ【華】

虚空ヨリ無量ノ—恐ル、所ナシ—虚空ヨリトキノ雨ノ如クニ無量無辺ノ毒箭劍戟火輪鉄石雨下テ太子ノ御身ノ上ニ雨カ、レトモ太子ハ慈忍三昧ニ入テ金剛喻定ニ坐シ玉イテ目ニモ心ニモカケ玉ワネハ一念モ怖ル、所ナシ—毛ヲモ損スルコトナシ【華】

思議種々ノ器械雨ノ如ク滋懸^{シケク}レトモ太子ノ御身ニハ近ツカス或ハ摧^{クダケ}テ微^ミ

塵ト成或ハ変シテ蓮華ト成リ或ハ失筈烈テ瓔珞ト成或ハ刀杖変天蓋ト成間魔王不及力太子魔王ニ告言汝昔シ何ナル善根ヲ修シ何ナル功德ニ依テカ三界ノ魔王ト成テ我ニ敵対スルヤ魔王愚癡ニシテ因果ヲ不知争^{イカテ}カ昔ノコトヲ可知先世ノコトニ昧^{クラフ}クシテシラス太子ニイサナマレ

參テ答コト更ニ無シ爰ニ太子魔王ニ告宣言 汝昔施一无遮会

今得如是大威權 我於無量生死海 為諸衆生種々施文ノ心口ハ汝チ昔シ無遮ヲ修シテ今三界ノ王ト成ル我ハ無量ノ生死海ニヲイテ諸ノ衆生ノ為ニ種々願ヲ發ニ修行ヲ修シ身命ヲモ不惜与エ今最後

— 59ウ

身ノ仏ト成ヘシ受所ノ汝カ功德ヲ我功德ニ比フルニ汝カ功德ハ芥子ノ如シ我カ功德ハ須弥山ノ如シ汝カ小功德ノ力我大善根ノ力傾ク

ヘキニアラス魔王此言ヲ聞テ太子ニ申様我カ昔ノ善根無遮

ノ功德ハ太子ヲ以テ証人トセン太子ノ昔ノ無量劫間ノ功德

ヲハ誰ヲ以証人トセン爾時太子御指ヲ以テ大地ヲ押テ是能

知レリト仰ケレハ大地破裂シテ二人ノ地神出現ス一人ハ其身中半ニ地ヨリ出ツ一人ハ水瓶ヲ持テ出タリ此地神出テ証人トナル魔王

刀杖変天蓋ト成—刀輪盤石ハ忽ニ天ノ宝蓋トナレリ【華】

太子魔王ニ告—太子勅ヲ宣テ魔王ニ告テノ玉ハク【華】

因果ヲ不知争^{イカテ}カ昔ノコトヲ可知先世ノコトニ昧^{クラフ}クシテシラス太子ニイサナマレ參テ答コト更ニ無シ—何ノ功德ニ依テカ今三界ノ魔王ト成テ我ニ敵スルソヤ魔王愚癡ニシテ因果ヲ知ス先世ノ業暗^{クラフ}シテ太子ニ答奉コト不能^{アタワス}【華】

如是大威權—如是大摧滅【華】

修行ヲ修シ—無辺^{スケレタル}ノ勝 行ヲ修シ一切衆生ニ種々ノ施^{キヤウ}ヲ行シ乃至

【華】

汝カ小功德ノ力我大善根ノ力傾クヘキニアラス—汝カ功德ノ力ヲ以テ我功德ヲ傾^{カス}ヘキニ非スト【華】

猶降伏セラレマイラセテ爰ニ地神水瓶ヨリ水ヲ灑テ云魔王

魔民等早ク魔ノ宮殿ニ還レ只今種々ノ器械虚空ヨリ

雨テ汝等カ身ヲ摧テ微塵ノ如ク成ヘシト云時ニ魔王ノ眷

属共ノ云太子我等ヲ助サセ給エ自今以後仏法ニ障ヲナス

ヘカラス太子仏ト成給ハ、我モ仏ノ檀那^ナトナラン仏ノ教ヲ説給ハ、

我モ仏法ヲ守ル護法神ト成ナラント誓テ各散ス此誓ノ故ニ

太子仏ト成給ヘハ第六天ノ魔王ヲ始トシテ諸ノ眷属皆眞言

陀羅尼ヲ説キ衆生ヲ利益スルコト陀羅尼集經等ニ説レタリ陀羅

尼集經等ノ中ニ魔醯首羅大^{サイ}在天等法ヲ説ク此故也魔醯

首羅ニ二ツ有リ色界頂ノ魔醯首羅欲界頂ノ魔醯首羅也欲界

頂ノ魔醯ハ第六天ノ魔王也大自在天トモ名ク魔王既ニ降伏セラレ畢

ヌレハ

— 60ウ

八万四千ノ天人八万四千ノ供養ヲ具シテ太子ノ御前ニ捧テ面々ニ何
レノ天

ノ供養ヲ先ニ請サセ給エカシト思合リ八万四千手ノ天ノ八万四千手
ノ高

座ヲ太子ノ御前ニ并ヘ立テ願クハ我カ高座太子仏ト成テ坐シ給エカ
シト面々ニ思ヒアエリト正覺經ニハ説ク爾時ニ太子八万四千手ノ天
人ノ供

養ヲ請テ八万四千手ノ釈迦ト成テ皆八万四千手ノ高座ノ上坐シ
給エリ是ヲ般若經ニ説大般若經ヲ可見仏ニ成コトハ般若ノ智

魔王猶降伏セラレマイラセテ—魔王即チ太子ニ屈伏ス【華】

魔王ノ眷属共ノ云—魔王魔民悉ミナ身ノ毛^{ヨクツ} 豎テ恐怖ステ身心安カ
ラス諸ノ眷属ト共ニ太子ニ白サク【華】

各散ス—各散シテ宮殿ニ還畢【華】

何レノ天ノ供養ヲ先ニ請サセ給エカシト思合リ—何レノ供養ヲカ請
サセ玉ウヘキ願ハ太子我供養ヲ請玉ヘト祈念シ合ヘリ【華】

面々ニ思ヒアエリト—何ノ高座ニカ坐シ玉ワンスラント思イ合ヘリ
【華】—正覺經ニハ説ク—經ニハ一時正覺ト説ケリ【華】

恵ノ力也般若ノ智慧トハ自受用身ノ智慧也自受用身心ノ

智慧トハ妙覺也妙覺ノ智慧ヲコラスシテハ无品ノ無明ヲ斷

セサレハ玄妙覺ノ仏ト成コトナシ無明ヲ斷トハ斷絶スニハアラス無明

— 61オ

体達スル也体達無明即法性ナリト悟也無明ナレハ魔王トナリ煩惱

ハ魔民ト成ル天台大師ハ魔界即仏界ト釈シ或ハ無明即法

性ト釈ス此ノ二人ノ釈ハ妙覺ノ智慧ヲ以テ釈ス第六天ノ魔王ハ

根本無明王也無量ノ魔軍モ八万四千煩惱モ般若ノ智慧ヲ

以テ無明即法性ト達スレハ無明ノ魔王モ即法性ノ仏也煩惱ノ

魔軍モ即菩薩ノ仏ト達ヌレハ煩惱ノ魔軍即八万四千ノ仏也故ニ

天台大師ハ觀五住煩惱即菩提名為破惡ト釈シ給フ文ノ

心ハ五住煩惱ト觀スルヲ破惡トス無明則チ法性煩惱即

菩提ト悟ル自受法樂ト名ク此ノ自受法樂ノ智慧發レハハ— 61ウ

万四千ノ煩惱ハ即一ツ無明ナレハ八万四千ノ仏ハ一体ノ釈迦也無明ノ

迷ヒ即八万四千ノ煩惱トナレハ一体ノ釈迦八万四千ノ仏ト成一時

ニ正覺ト經ニハ說ケハ悉達太子一人仏ニ成給フ時八万四千ノ釈迦

仏ト一時ニ成也サレハ一時ノ釈迦ハ八万四千ノ釈迦也自受用ノ智慧

ヲ以テ照ス時ハ八万四千煩惱即八万四千ノ仏ト成ハ八万四千ノ天

人ノ心ニ随テ現スレハ他受用身仏トモ云ヘシ此自受用ノ智慧

ヲ妙覺ノ智慧ト名ク妙覺ノ悟ヲ仏ト名ク此故ニ三世ノ諸仏

ノ仏ト成給フニハ先ツ天魔ヲ降伏シテ後ニ成道シ給フ也滅罪生

第六天ノ魔王ハ根本無明王也—無明ハ魔王トナリ煩惱ハ魔民トナル
妙覺ノ智慧ヲ以テ見レハ魔王即無明魔民ハ即煩惱ナリト達ス然レハ
第六天ノ魔王ハ根本無明王也【華】

無明ノ迷ヒ—無明ノ一念迷テ【華】

善ノ次第前ニ惡ヲ滅シテ後ニ善ニ生ス然ルニ魔王シツマリテ後ニ

― 62 オ

八万四千ノ天人現シテ太子供養ス太子内ニハ無明ト煩惱ト障リシツ
マリ外ニハ魔縁魔界ノ難ヲ除テ八万四千ノ体ト成八万四千ノ毛孔ヨ
リ光明ヲ出ス内ニハ說法ノ堂ヲ悟リ開クカ故ニ外ニハ梵釈四王是
ヲ貴ム大梵天王ハ高台ノ閣ヨリ下テ十善ノ掌ヲ合セテ世尊

ノ御足ヲ三度礼シテ法輪ヲ請ストハ願ハ世尊我カ為ニ仏ノ悟給エ
ル所ノ法文ヲ説給エト申給フ也忉利天ノ王釈提桓因ハ殊勝玄妙殿
ヨリ下テ十善掌ヲ合テ世尊ノ御足ヲ三度礼シ奉テ言タマハク
願ハ我カ為ニ仏悟リ給エル所ノ法文ヲ説キ給エト請ス是ヲ天王ノ

軛法輪ヲ請ストハ云也龍王ノ衆乾達婆緊那羅等ノハ ― 62 ウ

部ノ大衆皆軛法輪ヲ請スル間淨飯王宮ニ此コト聞エ淨飯大王我カ
太子仏ト成テ人天ノ為ニ法ヲ説キ給フナル太子宮ヲ出テ後仏ニ不成ハ
二度王宮エ還ラシト誓ヒ給ヒタルニ既ニ仏ト成給ヒタルナレハ都エ
還リ

玉ハンコトハ障有カラス我仏ヲモ拜シ法ヲモキカントテ御使ヲ仏ノ御
許エツカハル太子宮ヲ出テ六年終リテ今仏ト成玉ハ、人天ノ為ニ
法ヲ説給フコト六年後此既二十二年也朝夕恋ヒ悲ミ奉ル姨母
摩訶波闍婆提三人ノ妃六万ノ采女五百ノ大臣等ノ愁ヲモ

止メ心ヲモ悦シメンカ為ニ迦毘羅城エ入テ法ヲ説キ玉エト申サル時

内ニハ說法ノ堂ヲ悟リ開クカ故―内ニ諸法ノ悟ヲ開カ故【華】

殊勝玄妙殿ヨリ下テ―殊勝殿ヨリ下【華】

言タマハク願ハ我カ為ニ仏悟リ給エル所ノ法文ヲ説キ給エト請ス
是ヲ天王ノ軛法輪ヲ請ストハ云也―軛法輪ヲ請シ玉ウ四大天王四天王
ヨリ下テ十善ノ掌ヲ合テ三度世尊ノ御足ヲ頂礼シテ軛法輪ヲ請ス
是ヲ梵釈四天王ノ軛法輪ノ請ト言ウ【華】

八部ノ大衆―八部ノ衆皆來集テ世尊ノ御足ヲ頂礼シテ【華】

六年終リテ―なし【華】

後此既二十二年也朝夕―六年ノ苦行ト云イ既二十二年ノ間【華】

法ヲ説キ玉エト申サル―法ヲ説玉ヘ聽聞セント御使仏ニ白ス【華】

世尊最可然コトナリトテ浄飯王宮エ入セ玉フニ提頭頼吒」63オ

毘留坡刃天王毘留勒刃天王毘沙門天王等四方ニ亘テ仏ヲ守リ

八人ノ力士ハ八方ニ立テ仏ヲ敬フ梵天帝釈ハ仏ノ左右ニ随ヒ玉フ仏

身ヨリ光ヲ放テ御足ハ地ヲ踏ス空ヲ飛テ浄飯王宮エ御行ナル浄

飯大王宮ヲ莊嚴シ道路ヲ掃地ニ華ヲ散シ水ヲ潤テ世尊ヲ入奉リ

始テ仏ヲ拝シ涙ヲ流シテ勅シ玉ハク太子ノ出給ヒシ時ハ憂ニ沈涙ニ

溺テ

悲ミ限リナカリシカトモ今ハ仏ニ成マシ〱テ首ノ上眉間ノ白毫ヨ

リ跌ノ

下千福輪ヲ文相ニ至マテカ、ヤキテ阿字スキトヲリ給ヒ御胸ノ万字

師子輪相目出丹菓ノ唇青蓮ノ御眸リ嚴シテ百福円満シテ十号ノ具

足シ給エリ是ヲ拝ミ奉ル二十二年ノ憂歎一時ニ忘テ隨喜心起レリ

— 63ウ

八菩薩迦陵ノ御声ヲ揚テ法ヲ説玉ヘハ聽聞セント申給フ時五百ノ大

臣モ各ヲ我願已ニ満ス衆ノ望ミ又足ヌト喜フ尔時鳳闕ニ師子ノ床

ヲ嚴ル仏床ノ上ニ坐シテ父ノ大王ノ為ニ法ヲ説テ言ク親ト成子ト成

ル今

ノ一世ノコトニアラス父子ノ天性ハ過去ノ宿因也大王ハ我レ一人父

ト成給フ

ノミアラス是即仏ノ父也夫人ハ我レ一人カ母ト成玉フノミニアラス

是即

提頭頼吒〱法ヲ説玉ヘハ(64オ1行目) —

毘沙門等ノ四天王、百千ノ眷属ヲ率シテ四方ニ立テ仏ヲ守護シ奉ルハ

大力士仏ノ御前キニアリテ衛護シ奉ル大梵天王天帝釈ハ仏ノ左右ニ

随テ擁護シ奉リ玉ヘリ無量ノ菩薩声聞天龍八部善神鬼王前ニ圍繞シ

恭敬シ奉ル仏御身ヨリ大光明ヲ放テ御足地ヲ踏マス空ヲ飛テ行幸ナル

浄飯王ハ王宮ヲ莊嚴シ道路ヲ掃除シテ花ヲ散シ水ヲソ、キ世尊ヲ請シ

入奉テ始テ仏ヲ礼シ涙ヲ流シ悲喜シテ勅シ玉ハク我カ太子城ヲ出テ

玉イシ時ハ愁ニ沈ミ涙ニヲホレテ恨ミ歎キシカトモ今仏ト成玉イテ

烏瑟眉間ノ白毫、^{アナウラ}跌ノ千福輪文ノ相ニ至マテ輝キ徹リ玉イ身胸ノ万字

師子輪ノ相特殊ニシテ丹果ノ脣ル嚴ク青蓮ノ御眸リ鮮ニ^{マナシリ}万徳円満

シ十号具足シテ福德智恵辺際ナク威徳巍々トシテ金山王ノ如ク天竜

八部ニ恭敬セラレ玉ウヲ拝シ奉ル二十二年ノ愁歎忽ニ忘レ歡悅隨喜

ノ心發レリ願ハ世尊八弁迦陵ノ御声ヲ出シテ微妙ノ法ヲ説玉ヘ【華】

鳳闕ニ師子ノ床ヲ嚴ル―鳳闕ニ獅子ノ床ヲ莊テ仏ノ説法ヲ請奉ル玉

ウ【華】

天性ハ過去ノ宿因也―父子天性多劫ノ宿因也【華】

是即仏ノ父也夫人ハ我レ一人カ母ト成玉フノミニアラス是即仏ノ母

也―大王ハ千仏ノ父ナリ我母摩耶夫人モ是レ千仏ノ母也【華】

仏ノ母也羅睺羅モ是千ノ仏ノ長子也淨飯摩耶ノ恩ヲ報

センカ為ニ仏ケ法ヲ読玉ヒキ我レ今法ヲ説ントテ四諦ノ法ヲ説玉フ
四諦ノ法トハ苦集滅道也此四諦ハ阿果ノ法也苦集ノ二ハ世間

ノ因果也昔煩惱ノ因ヲ集テ今ノ苦諦ノ果ヲ感ス此生死苦樂ノ」64オ
因果也苦ヲ知り集ヲ断ス道滅ノ二ハ出世ノ因果也道諦ノ法ヲ断シテ

滅諦ノ果ヲ証ス滅諦ト云ハ長ク生滅ノ悲ヲ離テ三明六通ノ阿

羅漢果ヲ証シテ神通自在也此四諦ノ因果ヲ開ハ十二因縁ノ法ト

成ル十二因縁ニ二ツ有流転ノ十二因縁還滅ノ十二因縁也本覺ノ

都ヨリ迷ヒ出テ、衆生ト成ヲハ流転ノ十二因縁ト云也此流転ヲ本

覺エ還テ生死ヲ離ル、ヲハ還滅ノ十二因縁ト云又十二因縁ニ大乘

ノ十二因縁小乗ノ十二因縁有今ノ法門ハ大乘ノ十二因縁ノ義

也親子ノ熱リ深コトヲ説クハ因果ノ理也開ケハ十二因縁ノ法ト成ル

十二因

縁経ニ子ニ五種ノ差別有一有本願子二曉礼子三同業者」64ウ

四ニハ來債者五ニハ償債者也有本願子トハ子ヲ願ニ吉子ヲ願ヘハ

吉ヲ

得也徒ニ子ヲ不可願相構テ吉子ヲ可願吉子トハ知恩ノ孝子也曉子

トハ吉子ハ親ヲ敬テ親ノ徳ヲ増シ親ヲ賞是ハ礼義ヲ悟ル子也同業

者ハ同シ業ノ者親ト成リ子ト成ル善人ノ為ニハ吉子ヲ生スル也悪キ

人ノ家ニハ

悪子ヲ生也

喩ハ弓箭ヲ取家ニハ弓箭ヲ執ル賢者生文筆ノ家ニハ文

我レ今法ヲ説ントテ―我モ今法ヲ説テ恩ヲ報シ奉ヘシトテ【華】

道諦ノ法ヲ断シテ―道諦ノ法ヲ行テ【華】

本覺ノ都ヨリ―本覺ノ城ヨリ【華】

因果ノ理也―因縁果ノ道理也因果ノ道理ヲ【華】

子ニ五種ノ差別有、五ニハ償債者也―子ニ五種アリ一ニハ有本願子
二ニハ曉礼三ニハ同業四ニハ來債（左行に訓「シャウ」）五ニハ償
也【華】

徒ニ子ヲ不可願相構テ吉子ヲ可願―俱子ヲ願ヘカラス子ヲ願ハ善カ

ラン子ヲ願ヘシ【華】

親ノ徳ヲ増シ親ヲ賞是ハ―親ヲ貴ミ親ノ徳ヲ増スハ【華】

喩ハ弓箭ヲ取家ニハ―要ヲ取テイハ、武士ノ家ニハ【華】

筆ヲ取ル吉者生ル、カ如シ次來債者トハ來テ債ト云心也昔人ノ物ヲ負テ弁^{ワキマ}エヌニハ財ノ主生子ニ生レテ其負ル者ヲ鎮ル也子ニ過

タル責使ヒナシ去ク虚ク信施ヲ受ル者ハ馬牛ト成テ鼻ヲ

通サレ轡ヲハケラレ重キ荷ヲ負ヒ遠路ヲ經テ打サヘナマル、読

— 65オ

ヘキ經陀羅尼ヲ不読ス訪ヘキ人ヲ不訪可祈天下ヲモ不祈是ヲ

報セサル者ハ馬牛ト成也次償債者責^{ツクノフ}償トヨム物ヲ負テ

不弁來テ其子ト成テ弁ヘシカ為ニ種々ノ宝ヲ設ケテ親ヲ育ヒ

賞シ敬ヒカシツクサレハ吉子ヲ設モ吉親ニ相シ皆是昔我カ功德

ヲ造リシ果報也又同經云或ハ怨家ニ來テ子ト成ト説ク故ニ或ハ親

ヲ害スルモ有親ノ心ヲ苦ムル子モアリ種々ニ親ヲナヤマス子ハ是敵

ト知ヘシ悉達太子ハ此五種ノ子中ニハ有本願子也親ヲ助ル財子

也父大王母夫人皆權者也親子ノ契此世ナラス深キコトヲ表セシ

為ニ親ト成子ト成リ玉フ釈尊ハ父王ノ為ニ法ヲ説テ親子ノ契ヲ顯ス

— 65ウ

大悲方便ノ初也一切衆生ヲ勸テ孝養報恩セシメンカ為ニ心地觀

經ニ説若有男女依母教 業順^{シユン}顏色不相違 如是男子悉

次來債ノ者トハ—刑体能芸振舞心行イモ父母ニ同キ子也來債ト者【華】

轡ヲハケラレ—轡^{フクミ}ヲ銜ミ【華】／遠路ヲ經テ—田畠^{タカヤシ}ヲ耕シ【華】

読ヘキ經陀羅尼ヲ不読ス—馬牛ト成也—少分ナレトモ人ノ恩ヲ得テ

報セサレハ多生ニ責^{コウ}ヲ被ムルリ命ヲ奪^{ウハフ}レ苦ニ沈ム【華】

種々ノ宝ヲ投ケテ親ヲ育ヒ賞シ敬ヒカシツク—種々ノ財ヲ儲テ親ヲ養イ種々ニ親ヲ敬ウ【華】

故ニ或ハ親ヲ—文ノ意ハ昔ノ敵キ來テ子トナル【華】

種々ニ親ヲナヤマス子ハ是敵ト知ヘシ—種々ニ父母ヲ悩マス子ハ全

ク是世々ノ敵ナリト知テ急キ今生ニ遠離スヘシ然スハ未來永劫身

ノ怨ト成互^{タカイ}ニ殺シ殺レ損シ損セラレテ窮^{キハマ}リ尽ス期アルヘカラス淨

飯大王ノ御子【華】

母夫人皆權者也—母ノ夫人皆聖賢也【華】

大悲方便ノ初也一切衆生ヲ勸テ孝養報恩セシメンカ為ニ—大悲善巧

ノ方便一切衆生ニ父母ノ恩ヲ深重ナルコトヲ知シメテ孝養報恩ノ心

ヲ勸シメン故也【華】

業順顏色不相違—承順顏色不相違【華】

非凡 大悲菩薩化人間 示現報恩諸方便文ノ心ハ若男女

母ノ教ニ依テ顔色スクニシテ相違セサル如此ノ人ハ凡夫ニ非ス菩薩ノ人間ニ

化シテ恩ヲ報スル諸ノ方便ト身現スト説ク仏ノ慈悲ヲ以テ衆生ヲ利益センカ為ニ報恩ノ方便ヲ示シ玉フ五百ノ大臣ヲ初メトシテ
千万眷属悉ク報恩ノ心ヲ發皆因果ノ理ヲ貴ト云魔

訶波闍波提仏ヲ大王ノ宮ヘ請奉リ給由ヲ聞テ太子蘭

毗尼園ニ生テ鳳闕ニ入セ給テ七日ニ摩耶夫人ニヲクレ玉ヒシニ

— 66 —

大王ニ申請テ養育シ奉ルコト十九年悲ミ奉ルコト不浅片

時モ離レ奉リテハウキ世ニ永フヘシトモ思ヘサリシカトモ太子王宮ヲ出テ十二年ヲ経テ仏ニ成テ都エ返リ玉フ摩訶波闍波提カ心ノ

内ノ悦ヲハ何ヲ以テカ仏ニ進セ奉ラントテ自金ノ糸紡テ金色ノ袈

裟ヲ織テ仏ニ奉参ニ心ノ内ノ悦ノ色顯サン為ニ金色ノ調衣

ヲ織リ儲テ仏ヲ待テ参セ玉フニ仏已ニ王宮ニ入テ父ノ為ニ法ヲ

説玉フ也我モ宮ノ内ニ請シテ供養ヲ延ヘ仏ヲ拜ミ説法ヲ聽聞

セントテ摩訶波闍婆提ノ宮中エ仏ヲ請シ参セテ自金色

ノ袈裟ヲ捧テ仏ニ言シ玉ハク世尊知食サスヤ摩訶波闍波提ハ」66ウ

顔色スクニシテ—顔色ニ承順シテ【華】

仏ノ慈悲ヲ以テ衆生ヲ利益センカ為ニ報恩ノ方便ヲ示シ玉フ五百ノ大臣ヲ初メトシテ千万眷属悉ク報恩ノ心ヲ發皆因果ノ理ヲ貴ト云—サレハ釈迦如来大慈大悲ヲ以テ衆生ヲ利益センカ為ニ父母ノ恩ヲ報スル方便ヲ示シ玉ヘリ梵網經ニハ孝子ヲ名テ戒トス亦ハ制止ト名クト説ケリ三世ノ諸仏父母ヲ度センカ為ニ正覺ヲ成シ玉ヘリト云ヘリ五百ノ大臣ヲ始テ十万眷属皆孝養報恩ノ心ヲ發シテ悉ク因果ノ理ヲ悟リキ【華】

ウキ世ニ—片時モ世ニ【華】

心ノ内ノ悦ヲハ—我カ心中ノ悦ノ至極ヲハ【華】

我モ宮ノ内ニ請シテ供養ヲ延ヘ仏ヲ拜ミ説法ヲ聽聞セントテ摩訶波闍婆提ノ宮中エ仏ヲ請シ参セテ—時ニ摩訶波闍婆提宮内ヲ莊嚴シ仏ヲ請奉テ供養ヲノヘ【華】

自金色ノ糸ヲ紡テ袈裟ヲ織テ奉ル納受ヲ垂レテ御身ニ被
奉法ヲ説キ玉エト太子ニ別レ參セテ朝夕恋悲ミ奉ルコト浅カラス
仏ノ百福莊嚴ノ紫磨黃金ノ御身ヲ拜奉レハ悦身ニアマリ
心ノ置所無キ程貴ク思為參スルニ梵音迦陵頻伽ノ御音ヲ
出シ四弁八音ノ響ヲ出シテ仏ノ御心悟リ坐ス所ノ諸ノ理ヲ説
玉エ我等時聽聞スヘシト言シ玉フ時ニ尔時ニ世尊福智莊嚴ノ左

右ノ掌ニ金色ノ調衣ヲ請取テ摩訶波闍波提ノ為ニ四諦ノ
法輪ヲ轉シ給フ摩訶波闍波提ノ諸ノ眷屬仏ヲ拜ミ法ヲ聞
テ涙ヲ流テ袂ヲ絞^{シホリ}各五障穢ラス、ケリ其袈裟ヲハ
「67オ

当來導師ト成テ多クノ衆生ノ為ニ法ヲ説キ一切ノ利益ヲナシ
玉ヒケレハトテ弥勒菩薩奉ル是ハ我姨母摩波闍波提自ラ織テ
我ニ施セル解脫幢相ノ袈裟也菩薩此袈裟ヲ被テ法ヲ説テ衆

生ヲ利益シ玉ヘトテ御弟子弥勒菩薩ニ付属シ奉シ給エリ太子
ノ三人ノ妃ノ中ニ弟一ノ妃耶輸多羅女御子ノ羅睺羅太子ニ
語リ玉ハク太子ハ知ヤ汝カ父悉達太子都ヲ出テ六年ノ苦行
説ニ成シ畢テ仏ト成テ此六年カ間大竜八部ノ為ニ諸ノ經法ヲ
説キ玉フカ淨飯王ノ請ニ依テ王宮ニシテ父ノ御為ニ法ヲ説キ
玉フ姨母摩訶波闍波提二十九年裏テヲハシカ仏ト成テ并ヒ「67ウ
都ニ遷テ姨母摩訶波闍波提ノタメニ法ヲ説キ玉フ我モ宮中ヲ莊
嚴シテ仏ヲ請シ供養ヲ延説法ヲ聽聞セン思フ汝親子ノ契

自金色ノ糸ヲ紡テ―甚深ノ志シヲ^{マケマシテ}勵シテ自金色ノ線ヲ^{ウシ}続テ【華】

悦身ニアマリ―貴クウレシクシテ悦ヒ身ニ余リ【華】

程貴ク思為參スルニ―唯シ願ハ世尊【華】

仏ノ御心悟リ坐ス所ノ諸ノ理ヲ声玉エ我等時聽聞スヘシト言シ玉フ
―仏悟リ玉ヘル微妙ノ法ヲ説玉ヘ我正ニ聽聞シテ永ク苦海ヲ越テ涅
槃ノ岸至ラント白シ玉ウ【華】

其袈裟ヲハ―其ノ姨母ノ奉リ玉ヘル袈裟ヲハ【華】

一切ノ利益ヲナシ玉ヒケレハトテ―利益徧徧カル徧ヘケレハトテ【華】
自ラ織テ―自ラ金ノ線ヲ続テ織テ【華】

解脫幢相ノ袈裟也―解脫ノ袈裟ナリ【華】／菩薩此袈裟ヲ被テ―汝

自身ニ此ノ袈裟ヲ掛テ【華】

御弟子弥勒菩薩ニ付属シ奉シ給エリ―付属シ玉ヘリ【華】

六年ノ苦行説ニ成シ畢テ―六年苦行シテ【華】

仏ト成テ并ヒ都ニ遷テ―只今姨母ノ宮内ニ入テ【華】

ヲ表セントテ歎喜団ヲ造団ト云ハ柘榴ノ形ニ似タル物也中ニ種々ノ味好キ物ヲ入タリ瑠璃ノ盤ニ居羅睺羅ニ願テ云汝カ父ニ奉レト教テ耶輸多羅女ノ宮中エ請シ奉ル梵天四王等ノ貴キ天衆舍利弗等ノ四向四果ノ賢聖衆位ニ随テ坐烈リ

給フ羅睺羅ト云ハ太子十九ノ年王宮ヲ出玉ヒシ時耶輸多

羅ノイネ玉ヒタリシニ思召様我既ニ城ヲ出ヘキ時キタレリ我仏

ニ成ナラハ汝カ為ニ甚深ノ法ヲ説ントテ右ノ御手ヲ押テ指ヲ」68オ

以テ羅睺羅ノ腹ヲサシ玉ヒタリシヲ縁トシテ羅睺羅孕ム

羅睺羅腹ノ内ニシテ六年也太子六年苦行ノ後菩提樹ノ

下ニシテ仏ト成玉フ日生レ玉フ都ヲ出テ、十二年ニカヘラセ玉ヒケレハ

羅睺羅ハ六歳也親子ノ契ハ哀ナルコト也生テヨリ以來子ト

父トモシラネトモ六歳ノ羅睺羅諸賢聖衆梵釈四王等ヲ

閣テ仏ノ御前ニ進出歎喜団ヲ仏ニ進ス仏羅睺羅ノ手

ヲ取テ十弟子ノ中智恵第一ノ舍利弗ヲ召シ羅睺羅ハ是

我カ子也為者ニ付属セントテ舍利弗ニ授ケ玉フ羅睺羅六歳

ヨリ戒ヲ受テ道ヲ行シキ如是ナル故ニ忍辱第一ノ羅睺羅ト名ク

「68ウ

種々ノ味好キ物ヲ入タリ―種々ノ菓子味イ美ナル物ヲ入テ【華】

舍利弗等ノ四向四果ノ賢聖衆位ニ随テ坐烈リ給フ―竜王八部等ノ無量ノ聖衆圍繞シ舍利弗迦葉等ノ四向四果ノ賢聖文殊普賢弥勒等ノ諸大菩薩位ニ随テ座ニツラナリ玉ウニ【華】

甚深ノ法ヲ―指ヲ以テ―我レ仏トナラハ先ツ汝カ為ニ甘露ノ法説ヘシトテ右ノ御手ヲノヘテ【華】

子ト父トモシラネトモ―タミ奉リ玉ワネエトモ【華】／諸賢聖衆梵釈四王等ヲ閣テ仏ノ御前ニ進出歎喜団ヲ仏ニ進ス―諸ノ菩薩聖衆梵釈四王ヲモ目ニカケス直ニ教主釈尊ノ御前ニ進ミ出テ歎喜団ヲ捧ケテ父ノ仏ニ供養シ奉ル時ニ【華】

道ヲ行シキ如是ナル故ニ忍辱第一ノ羅睺羅ト名ク―持戒第一ノ羅睺羅尊者ト名ク【華】

羅睺羅ハ何ノ故ニ六年マテ母ノ腹ニ宿リケルソト尋レハ昔鼠ノ穴ヲ
フサキケル罪ノ報ヒ或ハ六日ノ間人ヲ苑ノ中ニ追籠テ出サ、リシ罪ノ
因縁也因果ハ劫ヲ経レトモ遁レ難キ道ヲ顯サンカ為ニ六年闇キ腹ノ
内ニ宿レリ皆人はヲミテ因果ヲ恐レ罪ヲ造ラサレト也六年ニ腹ニ

宿シ煩ノミニアラス太子都ヲ出テ玉ヒテ後提婆達多耶輸多羅
ヲ后ニセント申シ、カハ耶輸多羅太子ノ出サセ玉ヒタレハトテ争カ
提婆ニ跡ヲ踏スヘキ終ニ提婆ニ契ラサリシ程ニ提婆腹ヲ立耶輸

多羅ノ孕ミタルハ提婆カ子ナリトノ、シル然間浄飯王ヨリ始テ五
百ノ大臣耶輸多羅ノ振舞輕々シトテ種々ニ罪ニ行フヘキ理リトモヲ
議

— 69 —

シテ云太子都ヲ出テ給ヒテハ六年也太子ノ御子ニハアルヘカラス空
ンニ提婆

カ子也ト申アヘリ耶輸多羅ハ兎角申ニ不及既ニ羅睺羅生テ

火ノ穴ヲ掘テ薪ヲ積テ盛ナル火ニ向テ誓ヲ起ス我カ生メル子ハ全ク
達多カ子ニアラス悉達太子ノ御子也何ヲ以テシルシトセン若悉達太
子ノ御子ナラハ此火ノ中ニ入トモ不可焼提婆カ子ナラハ焼ヨトテ羅
睺羅ヲイタキ入ル、ニ猛火即清冷ニシテ炎中ニ連ス生ス羅睺羅連ノ
上ニ有テ其身曾テ不焼此不思議ヲ現シテ耶輸多羅女ハ恥ヲ
キヨメ羅睺羅ハ太子ノ御子ニ定リヌ浄飯大王五百ノ大臣六万

或ハ六日ノ間人ヲ苑ノ中ニ追籠テ出サ、リシ罪ノ因縁也——亦ハ先世
ニ故ナキ人ヲ六日園ノ中ニ取籠メテ出サリシ酬イ也【華】

因果ハ劫ヲ経レトモ遁レ難キ——然レハ因果ノ遁レカタキ【華】

六年腹ニ宿シ煩ノミニアラス——六年腹ニ宿シ煩イノミニ非スフシキ
ノコトアリキ【華】

終ニ提婆ニ契ラサリシ程ニ提婆腹ヲ立——キ、イレ玉ハス提婆怒ヲ成
テ【華】

提婆カ子也ト申アヘリ——提婆カ子ナルコト疑ナシト謂ヒアエリ【華】

盛ナル火ニ——熾然タル火ニ【華】

羅睺羅ヲイタキ入ル、ニ——羅睺羅ヲ抱テ火ノ炕ニナケイル、ニ【華】

ノ采女太子ノ御名残ニ此羅睺羅ヲ留メ玉ヘリ淨飯王位ヲ「69ウ
淨飯王位ヲ譲リ給フヘキトテ礼モテナシカシツキ賞玉ヒニキ密ニ太子仏ニ成テ都
二歸

親子ノ対面ヲ遂玉ヒ父母ノ天性ヲ定テ舍利弗ニ授テ羅睺

羅ニ出家セシムヘキ由被仰淨飯王是ヲ聞召惜ミ玉フコト不斜耶
輸多羅モ種々ニ惜玉エトモ仏ノ教ニ随テ羅睺羅遂ニ出家シ玉ヒ

又仏御弟ノ難陀太子ハ位ヲ可ニ受給フニ難陀ヲモ出家セヨト教エ玉フ
難陀ハミメ嚴キ后ニ伴トモナリテ深ク五欲ノ樂ニ耽リ玉ヘリ仏ノ方便ヲモテ

難陀ヲ誘サソイテ王宮ヲ出テ、雪山ニ入テ諸ノ猿ノ中老衰タル女猿サルヲ
ミセテ難陀ニ告玉ハク汝カ后ト此猿何カ勝レタルト難陀我カ后

ノ嚴キニ猿ヲクラヘ玉フコト仏ノ仰トモ不覺イフ不レ足言也ト思ヘリ仏

「70オ

又難陀ヲ具シテ忉利天ニ登テ三十三天ノ面白キ帝釈ノ宮ノ目出

度イミシキヲミセ給フ其中ニ新クイミシク作りタル宮殿ノ中ニ限
ナク嚴キ女アリ難陀仏ニ言サク是ホト莊キ天女ノ男モナキハ何ナル
コトソトノ玉フ仏ノ言ク自ラ問ヘト被仰レハ難陀天女ニ問是ホト嚴キ
新シキ宮殿ヲ造リ其レホトミメ嚴キニ何トテ天女ハ男ハナキソト
問エハ天女答テ云ク教主釈尊ノ御弟難陀太子家ヲ出テ戒ヲ

淨飯王位ヲ譲リ給フヘキトテ―御位ヲハ孫ノ羅睺羅ニ讓ユツリ玉ウヘシ
トテ【華】

父母ノ天性―父子ノ天性【華】

出家セシムヘキ由被仰淨飯王是ヲ聞召惜ミ玉フコト不斜耶輸多羅モ
種々ニ惜玉エトモ仏ノ教ニ随テ―出家スヘキ由ヲ大王キコシメシテ
耶輸多羅五百大臣モ尽ク種々ニ惜ミ奉玉ヘトモ仏ノ教ニ随テ【華】

ミメ嚴キ后ニ―端正后ニ【華】

老衰タル女猿ヲ―衰タル猿ヲ【華】

此猿―此老猿【華】／我カ后ノ嚴キニ―我カ后ハ國中ニ並ナキ美人
ナリ【華】

三十三天ノ面白キ帝釈ノ宮ノ目出度イミシキヲ―帝釈宮ノ殊特トクノ莊
嚴三十三天ノ殊勝ナルヲ【華】

限ナク嚴キ女アリ―容顏端嚴ナル天女アリ【華】

仏ニ言サク―仏ニ問奉ル諸天皆夫婦アリ【華】

何トテ天女ハ男ハナキソト問エハ―何ニ因テカ天子ハ無ソト【華】

持テ仏法ヲ可行命終ナハ此天ニ生ルヘシ其料ニ此宮殿ヲ造リ儲ケ

タル其難陀カ女房ト成ヘキ故ニ別ノ男ナキ也ト難是ヲ聞テ我カ后ノ

コトモ忘レ天竺エクタランコトモ不思議テ此宮殿ニ住シテ嚴キ天女

ト
— 70ウ

供^{トモナリ}住セント思フ成ト云エハ出家シテ戒ヲ持テ人間ノ果報ノ身ヲ捨
テ此殿

ニ生レントキニ夫婦トナルヘシトイヘリ難陀力ラナク思フ所ニ仏難
陀ニツケ玉ハク

汝カ后ト此天女トハ何レカ勝レタルト問イ玉エハ我カ后ヲ天女ニ校^{クラフ}
レハ雪山ノ

猿ニハ猶^{マトリナリト}劣申ス仏雪山ノ猿ニ我カ后ヲクラヘ給ヒケルハ此天女
ノ嚴キ

コトヲ知食テ仰ラレケルト知ス仏又難ヲ具シテ八寒八熱ノ怖地獄
ヲミセ玉ヒツ難陀諸ノ地獄ノ恐シキヲミルヲ身ノ毛ヨタチテ身ヨリ

熱キ汗セ出ツ其中ニ新シキ地獄ヲ構エテ人モナシ怖キコト限ナシ難
陀仏ニ言ク諸ノ地獄ニハ罪人有ルニ何ノ故ニ此ニハ罪人無キヤト仏
自ラ行

其難陀カ女房ト成ヘキ故ニ別ノ男ナキ也——其難陀ノ後身即チ我夫ト
ナルヘシ此故ニ天子ハナキ也ト【華】／我カ后ノコトモ忘レ——我王
宮ノ后ノコトモ疾^{スミヤカニ}忘レ【華】

人間ノ果報ノ身ヲ捨テ——人間ノ報命ヲ捨テ【華】

難陀諸ノ地獄ノ恐シキヲミルヲ身ノ毛ヨタチテ身ヨリ熱キ汗セ出ツ
——難陀諸ノ地獄ヲ見ルニ恐怖スルコト喩ナシ身ノ毛豎テ偏身ニ熱キ
汗ヲ流シ眼モクレ魂モ消ウセシテ然レトモ仏ノ威徳ニ依テ苦惱ナシ
獄中ニ尽ク無量ノ罪人獄率アリ【華】

テ問エトノ玉ヲ教ニ随テ自ラ獄卒ニ問フ何ナレハ此地獄ニハ罪人

「 71 オ

ナキソト問玉ヘハ獄卒答テ云ク汝不知ヤ仏ノ御第難陀太子出家

シテ戒ヲ持テ佛法ヲ行シテ忉利天ニ生レテ目出度果報ヲ受ヘシ其

果報尽テハ此地獄ニ苦ミヲ受ヘシ其料ニ此地獄ヲ造難陀出家

シテ戒善ヲ修ストイヘトモ道心ナキ故ニ生死ヲ離レ間敷也故ニ此地

獄ヲ

造レリト云難陀此コトヲ聞ニ忉利天ノ目出度コトモ天女ノミメ嚴サモ

忘ヌ何トシテカ此地獄ノ苦ヲ受ヌ身ト成リ生死ヲ離ル、コトヲ得ン

トノミ

思フ是ニ依テ仏ケ解脱ノ法ヲ説玉フ難陀出家シテ具足戒ヲ受

難陀比丘ト名ク難陀比丘煩惱ヲ断シテ羅漢果ヲ証スレトモ姪欲

ノ氣残ルカ故ニ大衆ノ中ニ向時ハ女人ト物語ヲシ筆ヲ執テ」 71ウ

物書ニハ女人ノ開門ヲ絵ニ書ク是ヲ皆習氣ノ煩惱ト名ク憍梵波

提ハ昔五百世カ間牛ト成シカ故ニ今生ニ煩惱余リ猶有テ牛^{キウシ}呵^カノ

相ヲ現ス牛呵トハ牛ノ呵^カカム也人間ニハ徳ヲ貴トマスシテ是ヲ笑シ

カ

故ニ人間ヲ離テ天上ニ生ル舍利弗尊者ハ智慧第一也十大弟子ノ

中ニ智慧勝レタレトモ瞋恚ヲ起ナハ昔三宝ヲ蔑^{ナイカレ}ニセシニ依テ五百

何ナレハ此地獄ニハ罪人ナキソト問玉ヘハ獄卒答テ云ク―余ノ地獄

ニハ皆罪人アリ此地獄何ニ因テカ罪人ナキト獄卒答テ云ク【華】

其果報尽テハ此地獄ニ苦ミヲ受ヘシ―其天ノ命尽テ此地獄ニ墮テ苦

ヲ受ヘシ【華】

難陀出家シテ具足戒ヲ受難陀比丘ト名ク難陀比丘―難陀出家シテ具足
戒ヲ受ケ禪定ヲ修シテ【華】

物書ニハ女人ノ開門ヲ絵ニ書ク―物ヲ書ク時ハ女人ノ形ヲ絵ニカク

【華】

今生ニ煩惱余リ猶有テ牛呵ノ相ヲ現ス牛呵トハ牛ノ呵カム也人間ニ

ハ―今生ニ已煩惱ヲ断シテ羅漢果ヲ証セシカトモニレヲカムクセア

リ五百生牛トナリシ余習也【華】

昔三宝ヲ蔑ニセシニ依テ五百生ノ間毒蛇ノ身ヲ受タリシ故―昔五百

生カ間毒蛇ノ身ヲ受タリシ故ニ【華】

生ノ間毒虵ノ身ヲ受タリシ故去也去ハ瞋恚ノ習氣殘ル此人ハ
皆往古ノ如來也習氣ノ煩惱有ヘキヤウハナケレトモ衆生利益ノ
為ニ習氣ノ相アリ現ス末世ノ衆生矢ヲ思テ謗サレ在世聖人猶
習氣ノ相アリ況ヤ末世ノ凡夫ヲヤ權者実者助ケ導ク徳有ルトハ

「 72オ

此コト也舍衛^{セウ}国ニ大王在シキ名ヲ波斯匿王ト号ス五百ノ大臣有
皆是長者也樹提伽長者檀弥利長者須達長者此三人

ノ長者皆貴キ因縁有五百ノ長者ノ中ニ須達長者仏ノ

大檀那トシテ祇園精舎ヲ造テ果報イミシクシテ男子女人ノ

子共多カリキ智取婦^{チメ}取シテ在セ付モ中ニ最愛スル乙子ニ

婦ヲトラハヤト思テ摩訶陀国ノ城ニ大福長者有テ種姓高貴

也名ヲハ妙法長者ト云ミメ嚴キ最愛ノ姫有ト聞テ乞テ

婦ニ取ント思フ二人ヲ立テ乞ハンコトハ叶マシ自ラ行テ彼ノ長者ニ

相テ乞ハント思ヒキ摩訶陀国ニ趣キ長者ノ家ニ至ル以ノ外ニ經營ス

「 72ウ

須達長者是ヲミテ国王ノ行幸ナルヘキカ何カナル大臣ヲ可賞小

縁ナラス大事ノ經營スルハト思フテ問ニ妙法長者答テ云須

達長者不知ヤ仏世ニ出法ヲ説キ玉フ人天拳テ聽聞ス我レ

遇ヒ難キ仏ニ奉逢コトヲ得タリ争カ難開法ヲキカサラン仏ヲ

請シ供養ヲ延ヘ説法ヲ聽聞セント思カ故ニ仏供養ノ為ニ經

況ヤ末世ノ凡夫ヲヤ―末世ノ衆生失ヲ忘徳ヲ貴ムヘシ濁世ノ中ニ僧
有テ法ヲ行スル時種種ノ徳失有ヘシ徳ヲ取テ貴ムヘシ失ヲ忘テ謗ラ
サレ在世ノ聖人猶習氣ノ相アリ況ヤ末世ノ凡夫ヲ【華】／權者実者
助ケ導ク徳―權者ハ実相ヲ助ケ導ク徳【華】

智取婦取シテ在セ付モ―智トリヨメ取テ家門甚繁昌セリ【華】

何カナル大臣ヲ可賞小縁ナラス大事ノ經營スルハト思フテ―何ナル
大臣ヲモテナスヘキソオホロケナラス大事ノ經營カナト怪テ【華】

仏供養ノ為ニ經營スル也ト―此ノ如經營ヲ致也ト【華】

管スル也ト答須達長者此コトヲ聞テ我未知仏トハ何ヲ云ソ法トハ
何ナルコトソト問フ妙法長者汝未知ヤ仏トハ毘舍離国ノ師子頼
王ノ御孫浄飯王ノ太子劫初転輪聖王ヨリ代々相統シテ絶
サル種姓高貴ノ上臆也其名ヲ悉多太子ト号ス位ヲ継テ
「73オ
国ヲ治シ給ヒ転輪聖王ノ果報ヲ可受□然ニ世ヲ厭テ都ヲ出

テ紫磨金色ニ耀徹リ十力無畏尊貌粧オイ嚴ク跌ニハ千福

輪ノ相トテ福德ノ相坐ス歩^{ヲハ}ノ御足ノ下ニハ七宝ノ蓮華ヲ踏ミ

御胸ノ万字師子阿字輪ノ相坐ス賀様ニ卅ニ相妙ナル

相八十ノイミシキ愛敬ノ瑞ヲ含ミ玉ヘリ故ニ万徳ノ仏ヲ拜ミ奉レハ

無始ノ罪ミ即時ニ消エ曠劫ノ惡業忽ニ滅ス迦陵頻ノ勝レ

御音ヲ以テ四無碍弁ノ明ヲニ尊ク法ヲ説給フヲ聞ハ信心無シテ

潔シ寔ニ百千乗^{シヨウ}ノ輦^{レン}輿^ウ羊車鹿車牛車ニ乗ル人モ是

ヨリ下テ参リ退凡ノ卒都婆トク四向四果ヲ不^ル証^セ人ハ従是「73ウ

内エハ不参去須達ニ即時ニ詣テミレハ下乗トテ卒都婆ヨリ又退凡ノ

卒都婆ト名テ二本ノ卒都婆ヲ立ラレタリ果ヲ証セサルニ須達

昔シ功德ヲ造テ果報貴キ身ト生タルコト明ケシ今生ノ功德ニ依テ

未来ノ果モ貴トカルヘシ三世ニ目出度仏ノ利益ヲ遂ルヘキ故ニ

智トリ婦取ノコトヲモ忘テ思様ニ我レ生テヨリ以来法ヲ聞ン思テ

トク夜ノ明ヨカシト思フ仏イツクニ坐シテ法ヲ説給フソト問エハ靈

仏トハ毘舍離国ノ師子頼王ノ御孫―仏トハ獅子頼王ノ御孫【華】

都ヲ出テ紫磨金色ニ耀徹リ十力―城ヲ出テ六年苦行シテ菩提樹下ニ
シテ仏ト成テ八万聖教ヲ悟玉ウ釈迦牟尼世尊ト号ス御身ハ紫磨黄金
ノ色輝^{カハヤ}キ徹^{ヲトリ}テ無畏尊容ノ莊イ嚴ク【華】

跌ニハ千福輪ノ相トテ―鳥瑟ノ翠濃ニ眉間ノ毫光明跌ニ至マテ千福
輪ノ相トテ【華】

七宝ノ蓮華ヲ踏ミ御胸ノ万字師子阿字輪ノ相坐ス賀様ニ―七宝ノ蓮
華地ヨリ涌出テ御足ヲ承ク【華】

曠劫ノ惡業忽ニ滅ス―多生ノ惑業ヲ破除ス【華】

「寔ニ」以下、華藏寺本の記述は慶応本と本文の順序が異なってい
る。慶応本の「寔ニ(73ウ8行目)―須達(74オ2行目)」を【A】、

「昔シ(74オ3行目)―靈山ニ参ルニ(74オ7行目)」を【B】、

「天龍八部(74オ7行目)―目出シ(74ウ3行目)」を【C】と

して、以下、該当箇所の記事の後に華藏寺本の本文を挙げる。

【B】 須達ハ昔功德ヲ造テ果報イミシキ身ト生レタリ亦今生ノ功德
ニ仍テ未来ノ果報モ貴カルヘシ三世ニ仏ノ利生ヲ蒙ヘキカ故ニ此事
ヲ聞テ忽ニ信心ヲ起ヨメトリノ事モ忘レテ思ヤウ我レ生テヨリ以来

山浄土ニ坐ト答フ夜モ明シカハ急キ靈山ニ參ルニ天龍八部仏ヲ恭
敬供養シ普賢文殊觀音弥勒等ノ菩薩舍利弗

目連迦葉旃延等聖衆前後圍繞シ大梵天王帝釈

「74オ

四大天王等ハ無數ノ眷屬ヲ護靈山浄土ニ充滿リ欲色界ノ天人華

ヲ雨シテ仏ヲ供養シ諸国王大臣モ首ヲ傾テ法ヲ開ク仏ハ台ノ

上ニシテ八万四千ノ毛孔ヨリ光明放テ照耀テ目出シ須達心ニ思フ

様ハ此程ニ嚴重殊勝ノ砌人間第一ノ大会ニ我ハ是舍衛國

ノ大王ノ大臣也其中ニ須達ト云者ナレハ五天竺ニ無隱此天人大

会ノ雲霞ノ如クニ充滿タル此中ニシテ惡ク振舞テハ憂名ヲ流ス

ヘシ礼儀ハ佛法世間ノ大事也仏ノ御前ニ詣テ、ハ何様ニカ振舞ヘ

キト果報貴クシテ其名高ク心賢キ故ニ思惟シケル所首陀会天

ト云天人身ヨリ金色ノ光ヲ放テ無量ノ天人ニ礼テ從_二天上_一下テ

「74ウ

靈山浄土ニ詣ル_{マコト}実威儀タ、シク首ヲ地ニ付テ三度世尊ノ御足ノ

未タ仏ヲ拜マス法ヲキカス今夜ノトク明ヨカシ仏ノ所ニ至テ仏ヲ拜

ミ法ヲキカント思テ仏ハイツクニ坐マシテ法ヲ説玉ウソトトヘハ靈

山浄土ニ坐スト答ウ夜モ明シカハ急キ靈山ニ詣スルニ

【A】下乗ノ卒都婆退凡ノ卒都婆トテ二本ノ卒都婆ヲ立ラレタリ下

乗ト云ハ四向四果ヲ証セサル人ハ是ヨリ内ヘ入ラス

【C】普賢文殊觀音弥勒等ノ諸大菩薩舍利弗目蓮迦葉迦旃延等ノ声

聞緣覺賢聖衆左右前後ニ圍繞ス大梵天王天帝釈四大天王等ノ欲色色

界ノ諸諸天竜神八部鬼王無量無數ノ眷屬ヲ率シテ仏ヲ恭敬供養シ尊

重讚歎シテ天華ヲ雨シ妓樂ヲ奏ス諸ノ国王大臣比丘比丘尼優婆塞優

婆夷首ヲ低_{ウナタレ}レ手ヲ叉テ礼拜恭敬ス凡ソ靈山会上大地虚空ニ天人聖衆

充滿シテ目モ心モ及カタシ仏ハ高広ノ獅子七宝ノ台ノ上ニ坐シテ威

德巍巍トシテ須弥山ノ如シ三十二相八十種好嚴ク八万四千ノ毛孔ヨ

リ無辺ノ大光明ヲ放チ照リ耀キ玉ヘリ【華】

礼儀ハ佛法世間ノ大事也―礼儀ハ人倫ノ大事也【華】

心賢キ故ニ思惟シケル所―心モ賢クシテ思案スル所ニ【華】

実威儀タ、シク首ヲ地ニ付テ三度世尊ノ御足ノ下ヲ拜シテ―実ニ礼

儀正シクミヘタリ首陀会天仏ノ御前ニ詣テ左右ノ掌ヲ合テ首ヲ地ニ

下ヲ拝シテ一面ニ坐シ仏ニ向ヒ奉リ法ヲ聞ク須達長者是ヲミテ嬉
敷物カナ我モ此三人ノ如ク儀シテ仏ヲ拝ミ法ヲ聴聞スヘシト思テ仏ノ

御前ニ詣テ、掌ヲ合セ三度御足ノ下ヲ拝ミ退テ仏ニ向テ法ヲ聞

クニ仏因果ノ道理ヲ説玉フ惡ヲ作物ハ苦ヲ受ク善ニ修スル者ハ樂
ヲ受ク譬エハ形直シケレハ顔ケ正シク声ナレハ響随フ今生ノ振舞

ニ依テ後生報ヲ受クヘシ此故ニ恩ニ報シ親ニ孝セヨ惡ヲ止テ善ヲ
修セヨ心ヲ清メテ身ヲ正タシクセヨ三業ヲ治メテ貴クスレハ天地是
ヲ守ル三業 慎サレハ鬼神是ヲ罰災ヒサレハ悦ヒ來ル惡ヲ好ハ禍ヲ

— 75 —

招ク須達此理ヲ聞テ仏ノ説法ハ道理ヲ極メテ説給ケリ設仏
説法ナリトモ道理ナキコトヲ説タマハンニハ須達是ヲ不可信仏ノ説
法ハ

道理ノ至極セル故ニ人夫是ヲ尊ミケリ仏ヲ我カ国エ請シ奉
ラセテ波斯匿王ニ始テ国内ノ人民ニ仏ノ直法ヲ聞セハヤ我国ニハ
外道多クシテ人心僻此因縁ヲ以テ須達座ヨリ起テ合掌ヲ
向ヒレ仏ニ奉テ此言ヲ作ス唯願世尊我国入説法人ノ心ヲ直サセ給
エ吾ハ是五天竺二十六ノ大国ノ中ニ舍衛國ノ波斯匿王ノ大臣須

着ケ膝ヲ屈シテ世尊ノ御足ノ下ヲ拝スルコト三度ヒシテ【華】

儀シテ仏ヲ拝シ法ヲ聴聞スヘシト思テ一礼儀ヲ致シテ法ヲ聞ヘシト
思テ【華】

譬エハ形直シケレハ顔ケ正シク声ナレハ響随フ今生ノ振舞ニ依テ
後生報ヲ受クヘシ一譬ハ形正ケレハ影直シ身曲レハ影ユカムカ如
シ今生ノ作業ニ因テ後世ノ報ヲ受ヘシ【華】
親ニ孝セヨ一父母ニ孝養シ師長ニ奉事シ【華】

達ト申也仏此由ヲ聞召ニ須達ニ告テ宣ク汝カ請ニ依テ国ニ入り

法ヲ説クヘキニ汝カ国ニ精舎無シ何クニ住シテカ説法セント尔時

「 75ウ

須達仏ノ御為ニ精舎ヲ造立セン使ヲ遣テ靈地ヲ撰ハシメ玉ヘト申

セハ仏神通第一ノ目連ヲ遣テ神通ヲ現セサセ外道ヲ降伏セサ

スヘケレトモ能々思唯スルニ智恵第一ノ舍利弗ヲ可使其故ハ外道ハ
智恵賢キ者ナレハ智恵ヲ以テ降伏セサセントテ舍利弗ニ告玉ハク

汝自ラ須達トトモニ舎衛国ニ趣テ伽藍建立スヘキ其靈地ヲ撰

ヘシトノ玉ヲ舍利弗仏勅ヲ承テ舎衛国ニ入テ伽藍建立ノ靈

地ヲ求ルニ一ノ木実ノ園有アリ其地平直シテ瓦礫ナシ此処ニ伽藍
ヲ立ヨト教フ此園ハ波斯匿王ノ太子ノ祇陀太子ノ本実ノ園イ

ミシキ財園也須達祇陀太子ノ宮ニ詣テ申サク此園須達ニ「 76オ

賜エ与ヨト乞ヒ奉ル祇陀太子宝ノ園ナレハ惜テ須達ニ不可与須達

ハ重キ大臣ナレハ無情思ハンモ勞ケレハ只惜マンヨリハコトヲ左

右ニヨセン

ト思シテ此園ハ惜シキ宝ノ園也汝ニ不可許望深クハ四十里ノ園ノ
中ニ

金ヲ敷キ満進セヨ其儀ナラハ不可与ト被テ仰心ニ思召様ハ金ハ

重キ財也争力長者金ヲ敷満テント思召テ言ニコソ金ヲ敷

使ヲ遣テ―御弟子ヲ遣シテ【華】

仏神通第一ノ―ここより【華】下巻

能々思唯スルニ智恵第一ノ―智恵第一ノ【華】

智恵ヲ以テ降伏セサセントテ―智恵ナクシテハ叶マシ舍利弗ヲ遣シ
テ智恵ヲ以テ降伏サセントテ【華】

此処ニ伽藍ヲ立ヨト教フ―此処ニ伽藍ヲ立ヘキヨシ須達ニ教フ【華】

須達祇陀太子ノ宮ニ詣テ申サク此園須達ニ賜エ与ヨト乞ヒ奉ル―祇

陀太子此園ヲ乞奉ル【華】

宝ノ園ナレハ惜テ―惜シキ財ノ木実ノ園ナレハ【華】

無情思ハンモ勞ケレハ―無情【華】

惜シキ宝ノ園也―惜シキ財ノ園也【華】

争力長者金ヲ敷満テント思召テ言ニコソ金ヲ敷ト被仰タルニ―争テ
カ是敷満ムト思食テ只アラマシノ言ニコソ【華】

ト被仰タルニ須達四十里ノ園ニ惜氣モナク金ヲ敷ケリ今

少シタラサリケルヲハ祇陀太子思ヒ玉ハク四十里ノ園ニ金ヲ敷滿

テ無疑ト思召テ太子信心ヲヲ起シ告テノ玉ハク何ノ料ニ此園

ヲハ望ソト仰ラルレハ長者カ申様伽藍ヲ建立シテ仏ヲ崇シテ法ヲ

— 76ウ

說セ奉ランカ為ニ申ス太子昔ノ福德目出度御果報ナレハ信心ヲ

發シ玉ヒテ仏ニハ何ナル德ノ坐シ法ヲハ何ナル理ノ貴コトノ坐セハ
須達

重財金ヲ惜ケモナク四十里ノ園ニ敷滿テ大地ヲ買テ伽藍ヲ

建立セントスルソト能ク仏ニハ貴キコトノヲハセハコソ須達ハ金ヲ

四十里ニ敷滿テ此地ニカヘテ伽藍ヲ立テ仏ヲ供養セントハスラメ

我ハ此園ヲ惜ムラン我モ須達ニ心ヲ同クシテ仏ノ為ニ園ヲ与ン

ト思召テ太子ノ園ヲ長者ヘ与玉フ長者地ヲ引テ伽藍ヲ

立テントスル時ニ舍衛國ニ六師云外道ニ九億ノ弟子アリ

六師弟子ニ告テ云仏トハ淨飯王出家入道スレハ瞿曇 — 77オ

沙弥也彼沙弥ヲ我国エ請セン料ニ須達精舍ヲ立トス何ヲ以

カ是ヲ妨ケンと思フニ須達ハ重キ長者ナニシニ六師カ侍ル上ハ瞿曇

祇陀太子―須達スコシ案シタル氣色也ケルニ須達ハヤ金ノ尽テ是ヲ
歎クヨト心得テ祇陀太子少シシニテモ足スハ不_レ可_レ与トノ玉フ時須
達云ク金尽テ是ヲ歎ニハ非ス何ノ藏ノ金ヲ可取出ト案也尔時祇陀太
子【華】

仏ニハ何ナル德ノ坐シ法ヲハ何ナル理ノ貴コトノ坐セハ―仏ニハ何
ナル德ノ御坐セハ【華】

須達ハ金ヲ四十里ニ敷滿テ―長者ヘ与玉フ―須達カ大願ヲハ起スラメ
何ナル我ナレハ此園ヲ売テ仏ニ与ヘ奉ラサルラント思食シ我モ仏ノ檀
那ト成奉園ノ地ヲハ須達ニ売トイヘトモ財樹ヲハ未_レ売地ヲハ須達仏
ニ施シ奉ツル樹ヲハ我仏ニ施奉ツルヘシトテ園ノ中ノ諸木実ノ財ノ樹
皆仏ニ被_レ進セ其ノ因縁ヲ以經ニ云舍衛國祇樹給孤独園ト説ナリ【華】

仏トハ淨飯王出家入道スレハ瞿曇沙弥也―釈迦仏ト云ハ淨飯大王ノ
太子出家入道シテハ瞿曇沙弥也【華】

我国エ請セン料ニ須達精舍ヲ立トス―須達我国ヘ請セム為ニ祇陀太
子ノ園ヲ買テ彼園ニ精舍ヲ立テムトス【華】

須達ハ重キ長者ナニシニ六師カ侍ル上ハ瞿曇沙弥ヲハ我カ我国エ請シ

沙弥ヲハ我カ国工請シ侍ルソ瞿曇沙弥ト六師ト神通ヲクラフ

クラフヘシ瞿曇沙弥カ一ノ弟子舍利弗ト六師カ一ノ弟子勞度者ト

先ツ神通ヲクラヘサセン舍利弗若勝タラハ瞿曇ヲ此国エ入玉ヘ

勞度者勝タラハ瞿曇ヲ此国エ入玉フヘカラス波斯匿王六師カ言

ヲ聞召然ヘシト勅シ玉フ舍衛国ニハ聞エル六師外道ト舍利弗トノ

神通クラヘアリテ門前市ヲ成ス大王モ御幸ナル舍利弗ハ只

一人六師外道ハ九億ノ弟子ヲ變テ園ニ來ル六師カ弟子ノ勞」七七ウ

度者四十里ノ園ニ只一本ノ木ヲ生ヒハヒコラス枝葉榮テ其根深シ

舍利弗ハ何ニシ玉フヘキトミル人思フ処ニ毘嵐風ト云風ヲ起シテハ

ヒコリタル大木ヲ根ヨリ吹抜テ空吹上テ微塵ノ如ク吹散ス塵二ツモ

無ク吹失フ次ニ勞度者此園ヲ漫々タル池ニナシテ水ヲ深ク湛^{タヘ}

タリ舍利弗大象ヲ多ク出シテ只一度ニ其水ヲ吸ホシツ次勞

度者大竜ヲ現ス大ニシテ夥^{ワカシ}敷舍利弗金翅鳥王ヲ現シテツ、キ

喰ヒ失ツ次勞度者夜叉羅刹ノ中ノ大鬼王ヲ現スヲソロシキ

コト限ナシ舍利弗何カシ玉フヘキト思フ処ニ毘沙門天王ヲ現シテ只

一度二夜叉王ヲ踏ミ殺シ畢仏法守護ノ願深キ毘沙門天王」七八オ

現シ玉ヒテ舍利弗ヲ貴ミ敬ヒ玉ヘハ外道ハ負ケヌ須達悦ヲ成シ急キ

侍ルソ瞿曇沙弥ト六師ト神通ヲクラフクラフヘシ―須達ハ重キ大臣
也私ニハ何カニト制スヘキ国王ニ奏セントテ波斯匿王ニ奏スル須達
長者ハナニシニ六師当国ニ候上ハ瞿曇沙弥ヲハ此ノ国エハ請セント
結構仕候所詮【華】

枝葉榮テ―枝葉榮テヘテ【華】

ハヒコリタル大木ヲ―四十里ノ園ニ生シハヒコル大木ヲ【華】

微塵ノ如ク吹散ス塵二ツモ無ク―微塵ノ如クニ吹碎テ後^{アト}二塵一モ無

ク【華】

此園ヲ―四十里ノ園ヲ【華】

只一度ニ其水ヲ吸ホシツ―只一吸ニ其池ヲ吸ホシキ【華】

大ニシテ夥―其勢ヲヒタ、シ【華】／金翅鳥王ヲ現シテツ、キ―大

金翅鳥ヲ現シテ彼竜ヲツ、キ【華】

只一度二夜叉王ヲ―彼鬼王ヲ只一踏ニ【華】

仏法守護ノ願深キ毘沙門天王現シ玉ヒテ舍利弗ヲ貴ミ敬ヒ玉ヘハ外
道ハ負ケヌ須達悦ヲ成シ急キ―サル程ニ外道負テ舍利弗勝チ玉イヌ

祇園精舎ヲ造テ仏ヲ請シ奉ル争カ私ニ供養スヘキニアラス

国王ニ奏スヘシトテ波斯匿王ヲ行幸ナシ申サントテ須達祇園精

舎ヲ造テ釈迦如来ヲ請シ奉ル也伽藍ノ供養ヲ延ヘ玉フヘシ我争カ

結縁セサラン何ヲ以テカ助成セン長者ハ七珍万宝ノ財ニ満テ^{トホ}乏シキ
物一ツモ無シ長者ノモタサラン財ヲ奉加シタラハコソ国王ノ助成ノ
シルシナレ須達ハ今生一生ノ財コソ持ツトモ我ニ争カ倍ラン我カ劫
初ヨリ代々国王ノ世々納メ給フル転輪聖王ノ宝蔵ヲ開テ須達カ
持間敷財ヲ撰ニ火鼠ノ裘^{カハキズ}モ二十有此裘ヲ身ニ着シツレハ夏ハ

— 78ウ

冷シク冬ハ暖也汗付テヨコレルヲハ火ニ入テ焼ケハ鮮カニ清ク成ル
此鼠

ハ火ノ中ニ住ム者ノ皮也此裘ヲ持テ須達カ助成ニセント思召テ
数万ノ眷属ヲ變テ祇園精舎ヘ行幸成テ拜ミ廻リ玉フニ心

モ言モ不及方四十里金ヲシキ七超^{ナクコシ}ニ造レリ金銀ヲ鏤□七宝ヲ

交タリ須達大王御為ニ二十間ニ棧敷ヲ結構ス二十間ノ棧敷

須達悦テ【華】

祇園精舎ヲ造テ仏ヲ請シ奉ル争カ私ニ供養スヘキニアラス国王ニ奏ス
ヘシトテ波斯匿王ヲ行幸ナシ申サントテ祇園精舎ヲ造テ釈尊請シ奉
ル須達思フ様祇園精舎ヲ造テ教主釈尊ヲ請シ奉ルニ精舎ヲ供養スヘシ
其二取テハ私ニ供養スヘキニ非ス国王波斯匿王ヲ行幸成シ奉ラントテ
大王ニ此由ヲ奏ス須達祇園精舎ヲ造テ釈迦如来ヲ請シマイラセテ伽藍
ノ供養ヲ遂ケ候御聴聞ノ為ニ御幸成ルマシト奏ス大王聞食シテ【華】
伽藍ノ供養ヲ延ヘ玉フヘシ我争カ結縁セサラン—我レ争テカ結縁セ
サラン【華】

争カ倍ラン—争テカ勝ラン【華】

宝蔵ヲ開テ—財ノ蔵ヲ開イテ【華】

此鼠ハ火ノ中ニ住ム者ノ皮也—火鼠ト云ハ火ノ中ニ住ム鼠也此鼠ノ
皮ヲ火鼠ノ裘トハ云也【華】

二十間ニ棧敷ヲ結構ス二十間ノ棧敷ニ火鼠ノ裘ヲ惜ケモナク二重マ
テ—二十間ノ棧敷ニ惜シケモ無ク火鼠ノ裘ヲ二重マテニ【華】

二火鼠ノ裘ヲ惜ケモナク二重マテニ引廻ス大王須達ヲ讃テ宣ク
長者ハ位ヒ国王ニマサレリト勅シ玉フ二十枚ノ裘モ取出ニ不及加様
ニ長者ノ果報目出度シテ仏ノ檀那ト成仏僧ヲ供養シ説法ヲ聴聞
ス国王大臣仏ヲ貴ミ法ヲ信テ波斯匿王ノ一人弟有テ仏ヲ不信法ヲ
不_レ聞

― 79 オ

匿王弟ノ王ニ勅シ玉フ何カ汝カ仏ヲ不_レ拝法ヲ不_レ聞ヤト弟答テ云ク我
ハ六師ヲ信シテ侍リ瞿曇沙弥言ヲ不可信我カ世尊ヲ供養セントテ

仏ト外道トヲ祇園精舎エ集メ玉フ供養ヲナサントスルトキ外道九
億ノ弟子ニ語テ云瞿曇沙弥ハ浄飯王ノ太子師子頰王ノ孫心詞

ナキ上臈ナレトモ我ハ瞿曇沙弥ヨリ下ニハ居マシ上ニ付ヘシ汝等モ
心得ヨト云畢又仏モ僧モ坐ニ付畢リ給ヒ又爰ニ六師モ九億ノ第
子ヲ變テ仏ノ上ニ坐ス坐シ畢テミレハ仏僧ノ坐ワキニ有サハ有マシ
キトテ坐ヲ起テ仏ヨリ上ニ付ハ下ニナル三度マテ仏ノ上ニ付ケレハ
亦下ニナル

故ニ六師カ力ラナシ是ヲ外道ノ坐迷ヒト云也其後供養ヲ請テ六師

― 79 ウ

呪願ヲセントスレハ口フサカリ舌スクンテ物イハレス手ヲアケテ仏
ノ方ヲ

扇ク仏呪願シ玉ヘト云心也然ハ仏呪願シ玉ヒヌ高坐ヲ立テ仏ニ説
法セサセ參セントスレハ六師_ロ我モ高座ニ坐セン仏ヨリ下ニハ居マシ

瞿曇沙弥言ヲ不可信―瞿曇沙弥我師六師ニハ争テカ勝ラン尔時大王
其儀ナラハ汝ハ六師ヲ供養セヨ【華】

師子頰王ノ孫心詞ナキ―獅子頰王ノ孫ヤト善キ上臈ハ【華】

手ヲアケテ―テヲアクレハカイテ【華】

仏ヨリ下ニハ居マシト思ヒケレハ―仏ヨリ下ニハ居マシトテ六師モ
高座ニ坐ス【華】

ト思ヒケレハ仏法守護ノ金剛力士六師カ仏ト徳諍ヒヲミテ力士

カニツノ足ヲ以テ六師カ高坐ヲ踏破ル六師高坐ヨリ落テ骨モ

碎^{クラケ}テ身モ片輪ニ成テ思様是程ノ大衆会ノ中ニシテ加様ニ恥ヲ

ミル今ハ五天竺ニ隠レアルマシ生テ甲斐無トテ自害シテ六師ハ失ス

六師カ九億ノ弟子ハ其日皆仏ノ御弟子ト成テ智恵深修

行高ク神通在ス仏ノ正法ヲ聞ケハ心直ク身モ貴クシテ皆羅」80オ

漢ト成ヌ爰ニ迦毘羅衛國ニハ淨飯王病ノ床ニ臥シ玉ヘリ御弟斛飯

王御前ニ坐ス大王ニ御眼ヨリ涙ヲ落シ玉ヘリ斛飯王奏シ玉フハ

大王ハ三界ノ煩惱ヲ断シ姪怒癡ヲ断シ玉ヘリ何ニ依テカ涙落サ

セ玉フ尔時ニ大王斛飯王ニ勅シ玉フ我レ三界ノ煩惱ヲ断ストイヘト

モ親子ノ道ハ忘ヌ我カ太子ノ釈迦仏難陀比丘朕カライト孫羅睺

羅尊者トヲ今一度ミ奉ラハヤト思フ也ト斛飯王大王ニ奏シ

玉フ靈山淨土ハ七日ニ行ヘキ道ニモアラス大王御命七日迄モ永ラエ

難シ縦ヒ御使ヲ遣玉フトモ争カ四人ノ聖者ニ対面ヲ遂玉フヘキ只

御心ヲ止テ静ニ終ラセ玉ヘト申ケル大王此言ヲ聞召テ縦靈山淨

— 80ウ

土ハ遠キ路成トモ仏ハ神通自在ニ坐セハ我心ノ内ヲ知食テナトカ対

面ヲ遂ケ玉ハサラント勅シ玉フ仏父ノ大王ノ御心ノ内ニ思召コトヲ知

食テ若ク多キ御弟子ノ中ニ先ツ難陀比丘イトコノ阿難尊者

太子ノ羅睺羅尊者等ヲ請シテ申玉ハク淨飯王ノ病ノ床ニフシ

智恵深く修行高く—智恵深シテ【華】

皆羅漢ト成ヌ—皆羅漢ノ聖者ト成ヌ【華】

朕カライト孫羅睺羅尊者トヲ—ライトノ阿難尊者孫ノ羅睺羅尊者此四人ノ聖者ヲ【華】

靈山淨土ハ—仏ノ御マス靈山淨土ハ境イ遙ニシテ【華】

対面ヲ遂玉フヘキ—対面ヲ遂ケ玉ハム事難カルヘシ【華】

仏父ノ大王ノ御心ノ内ニ思召コトヲ—尔時靈山淨土ニ御坐マス釈迦如来父大王ノ思食ス心ノ内ヲ【華】

請シテ申玉ハク—此三人ノ聖者ヲ御前ニ請シテ【華】

玉ヘルカ我ト汝等トラミハヤト願ヒ玉ヘリイサヤ王宮エトテ四人ノ聖衆

ト光ヲ放テ空ヲ飛テ浄飯王宮ヘ入セ玉フ国ノ内ノ人民仏ノ光

ニ驚キ仏ヲ拜ミ奉リ仏ニ申様ハ大王御病ニ臥シ玉ヘリ大王崩御

シ玉ヒナハ迦比羅衛國何ニカセント歎キ悲メリ仏此ヲ聞食テ生死无常古今是有唯仏道其真ト説玉ヘリ文ノ心生死無常古

今ニ是有リ唯仏道ノミ真有汝等無常ハ歎コトナカレ只仏道

ノミヲ行スヘシ道スカラ加様ニ教玉フ去程ニ浄飯王宮ニハ金色ノ

光リ曜キケリ斛飯王光ヲミテ大王ニ奏ス仏ノ入セ玉フニヤ金色ノ

光リコソ王宮ニカ、ヤキ侍レト申玉ヘハ即仏ハ宮中ヨリ四人ノ聖者諸トモニ

大王ノ御前ニ現シ玉ヘハ御願ヒ満テ玉フ仏大王ノ御手ヲ取テ被仰

ケルハ大王ハ三界ノ煩惱ヲ断シ玉ヘリ何ニ依テカ涙ヲハ落サセ玉フ

ソト問

奉リ玉ヘハ大王答タマハク今一度仏ノ紫磨黄金ノ御身ヲ拜ミ梵

音伽陵ノ御音ヲモ聴聞セハヤト思フニ四人ノ聖者ト空ヨリ現

シ玉ヘハ悦ヒ身ニ余リテ不覺涙落ル也トテ仏ノ御手ヲ胸ニアテ、

「 81ウ

大王ハ終ニ死玉ヒヌ棺ノ中ニ納メ師子ノ床ニ上テ置奉リ玉ヘリ爰ニ

イサヤ王宮エトテ四人ノ聖衆ト光ヲ放テ我ニ共ナヒ玉ヘシトテ仏三人ノ聖者ト共ニ光ヲ放チテ【華】

即仏ハ宮中ヨリ四人ノ聖者諸トモニ大王ノ御前ニ現シ玉ヘハ御願ヒ満テ玉フ一仏三人ノ聖者諸共ニ大王ノ御前ヘニ現シ玉ヘリ大王ノ御悦ヒ満玉ヘリ大王仏ヲ奉見又涙ヲ落シ玉ウサテ【華】

聴聞セハヤト思フニ四人ノ聖者ト空ヨリ現シ玉ヘハ聞玉ヒテタリト思ツルニ境ヒ隔テ使者ヲ以テ申ス事モ我命久カラサルニ依テ叶ハサリツルニ仏三人ノ聖者ト共ニ空ヨリ現シ玉フ【華】

涙落ル也トテ仏ノ御手ヲ胸ニアテ、涙落ルナリト病床ニ臥テノ玉ヘリ【華】

終ニ死玉ヒヌ棺ノ中ニ納メ師子ノ床ニ上テ置奉リ玉ヘリ遂ニ崩御成玉ヒヌ【華】

難陀比丘座ヨリ起テ仏ニ申玉ハク世尊大王ノ御棺ヲ難陀ニ許
サセ玉エ仏ニ替リ参セテ仏ノ棺ヲ荷テ大王ノ恩ヲ報シ奉ラント
仏此言ヲ聴食^{キコシメシ}テモ難陀ニモ許玉ハス阿難尊者ニモ羅睺羅

尊者ニモ斛飯王ニモ許玉ハス五百ノ大臣ニモ許シ玉ハス親ノ最
後ノ孝養ハ棺ヲ荷ニコソアレトテ紫磨金色ノ御身十力无

畏ノ御顔嚴ク百福莊嚴ノ御肩ノ上ニ御棺ヲ荷テ師子

ノ坐ヨリ投ケ玉ヘハ大地震動シ日光ヲ失フ衆会皆声ヲ上

テヲメキ叫フ世尊ノ御首ノ上ニ大王ノ御棺ナラスハ誰ヲカ荷セ

― 82 オ

玉フヘキ孝養報恩ノ程トイミシク哀レ成コトハナシト貴メリ仏法
守護ノ四天王仏ニ言ヒ玉フ様ハ我ハ是仏法守護ノ兵主也仏ノ
説キ置キ玉ヘル八万聖教ヲ我ニ守ラセテ未来ノ衆生ヲ利益セン
ト思召ハ大王ノ御棺ヲユルサセ玉エ我等仏ニ替リ大王ノ御棺
ヲ荷ハント申玉ヘハ仏衆生利益ヲ大事ニ思召故ニ大王ノ

御棺ヲ四天王^{テウ}ニ譲リ玉ヘリ四天王ハ仏ニ替リテ大王ノ御棺ヲ荷
テ送り玉ヒ梅檀薪ニ積籠テ世尊ハ御枕ノ方ニ立難陀

ハ後ノ方ニ立テ阿難左ニ立チ羅睺羅右ニ立テ梅檀薪ニ

火ヲカク大王ノ烟ニ成リ玉フヲミテ多ク集ル人天今ヨリ大王ノ

― 82 ウ

玉体ヲ拝ミ奉ルコト有ヘカラスト泣キ悲メハ世尊是ヲ聞召テ苦空
無常無我水月鏡像ト説玉フ文心ハ諸法ハ苦也空也草葉ノ

阿難尊者ニモ羅睺羅尊者ニモ斛飯王ニモ許玉ハス―阿難尊者羅睺羅
尊者ニモ不^レ免玉斛飯王ニモ不^レ免玉【華】

世尊ノ御首ノ上ニ―世尊ノ御肩ノ上ヘニ【華】

イミシク哀レ成コトハナシト―哀ナル事也ト【華】

草葉ノ上ノ露ノ如ク水ノ上ノ沫ノ如ク水ニ移月影鏡ニ移ル像影如ク

上ノ露ノ如ク水ノ上ノ沫ノ如ク水ニ移月影鏡ニ移ル像影如ク

朝日影立煙ノ如シ是皆無常ノ法也汝等歎クコトナカレ正ニ速ニ

仏道ヲ信シ行セヨト説玉フサテ火消シカハ御舍利ヲ拾テ

金ノ瓶ニ納メ金ノ瓶ヲ銀ノ瓶ニ納銀ヲ銅ノ瓶ニ納メ銅ノ瓶

ヨリ七宝ノ瓶^ヒエ塔ニ納テ恭敬供養ス是ハ淨飯王般涅槃

經ノ説也觀仏三昧經ニ説ク様ハ父ノ大王臨終^{リシ}ノ時念仏

三昧ノ法ヲ説玉ヘハ淨飯王仏ニ申玉フ様ハ何ナレハ真如実」83オ

相ノ法ノ御身ヲ不捨スシテ仏ニナル第一義空ノ勝タル法ヲハ授ケ

不給シテ念仏三昧ノ法ヲハ説キ玉フソト仏大王ニ告テノ玉ハク

三世ノ諸仏ハ父ノ王ノ臨終ニハ皆念仏三昧ノ法ヲ説キ玉ヘリ

諸仏豈疎カナル法ヲ父王ノ為ニ説玉フヘキヤ尔時仏二目シ

玉ヒケルハ念仏三昧ハ何ナル功能カヲハスト仏大王ニ告玉ハク四十

里ノ

毒ノ伊羅樹^{クサツ}臭シテ向フ人命ヲ失フ程也牛頭梅檀ワツカニ

二葉三葉ニ萌出レハ四十里ノ伊羅樹ノ臭キ毒ハ皆失テ還テ

伊羅林牛頭梅檀ノ林ト成ル我カ無始ヨリ造レル罪ノ積レル

コトハ四十里ノ伊羅林ノ如ク一念十念ノ念仏ハ牛頭梅檀ノ二葉

「83ウ

朝日影立煙ノ如シ―無常也無我也水ニ移レル月影鏡ニ浮フ像ノ如シ
皆是無常ノ法也【華】

正ニ速ニ仏道ヲ信シ行セヨト説玉フ―説キ玉ウ【華】

第一義空ノ勝タル法ヲハ―第一諦ノ勝レタル法ヲハ何ナレハ仏我為
ニ【華】

仏二目シ玉ヒケルハ―大王仏ニ申玉フ様【華】

伊羅樹―伊蘭林【華】／人命ヲ失フ―忽ニ命ヲ失フ程也【華】／牛
頭梅檀ワツカニ二葉三葉ニ萌出レハ―其四十里ノ伊蘭林ノ中ニ一ノ
牛頭梅檀有テ纔^{ハツカニ}ニ土ヲ出テ、二葉ニモ成レハ【華】
皆失テ―皆失テ四十里ノ伊蘭林還テ牛頭梅檀^{ニツ}匂ヲ成カ如シ【華】

二葉ノ如シ―二葉三葉萌カ如シト【華】

ノ如シ大王此理ヲ聞召念仏三昧ニ住シテ往生ヲ遂ケ玉ヒヌ是ハ皆念
仏三昧ヲ説キ玉ヒヌサレハ一切衆生ハ念仏三昧ニ依テ生死ヲ離ルヘ
キ也

情此理ヲ思フニ我ラカ涙モ留マラス三世ノ諸仏ハ第一ニ念仏三昧ヲ

行シテ仏ニ成リ玉ヘリト説ク是レ同ク觀仏三昧經ノ文也所詮仏法ノ
大事ハ出離生死ノ致也念仏ト云ハ只仏名ヲ口ニ唱ルヲ云ニ非ス
一切衆生心地ノ仏ヲ念スル也是即如入禪空ノ義也因行外

行ニハ心地ノ仏ヲ可唱念スヘシサテ仏三世ノ諸仏ノ出世ノ本懷ノ一
乗妙法蓮華經既ニ説畢毘舍離國ノ大林精舍重閣講堂ニ

坐シテ後三月当般涅槃ト説玉フ文ノ心ハ我今ヨリ後三月ト」84オ
イハン日涅槃スヘシト大衆会中ニシテ告玉フニ聞者皆御名残ヲ

惜ミ悲ム既ニ一黒一白ト云三月十五日ニ成ヌレハ涅槃ノ斯近付ナリ
ト思フ

仏ノ御名残今日計ト思フ処ニ仏自ラ僧加梨衣ト云御袈裟

ヲ押除テ御胸ノ万字ヲ顯シ汝等エ我カ紫磨金色ノ身ヲ拝シテ
トテミセサセ玉フ天龍八部五十二類集テ仏ノ最後ノ供養ヲ

是ハ皆念仏三昧ヲ説キ玉ヒヌ―又是ハ念仏ノ規模也三世ノ諸仏ハ皆
是父ノ王ノ為ニ念仏三昧ヲ説キ玉フ【華】

生死ヲ離ルヘキ也―生死ヲ離レ往生ヲ遂ヘキ相ヲ示玉【華】

情此理ヲ思フニ我ラカ涙モ留マラス三世ノ諸仏ハ第一ニヒラ々々
是ヲ思ニ涙モ不留我等此度此ノ念仏三昧ノ法ニ値テ難離生死ヲ離レ
難シ成仏道ヲ成ム事只是念仏ノ力ナルヘシ又父ノ王ニ不限三世ノ諸
仏モ皆【華】

所詮仏法ノ大事ハ出離生死ノ致也―一乗妙法蓮華經既ニ説畢―釈尊
三世諸仏ノ出生ノ本懷ノ法花經説キ玉フ事既ニ畢テ【華】

既ニ一黒一白ト云三月十五日ニ成ヌレハ―既ニ一月モ去リ三月モ去
テ三月ニモ成リヌレハ【華】

仏ノ御名残今日計ト思フ処ニ―已ニ七ケ日ニ成シカハ大衆面々ニ悲
歎ヲ増ス七日ト思ツルタニ悲キニ二月十五日ニモ成リヌレハ仏ノ御
名残リ今日計ト思ウニ衆悲歎譬エム方無シ【華】

御胸ノ万字ヲ顯シ―紫金ノ御胸ヲ顯ハシ【華】

延フ俱戸那城跋提河ノ辺沙羅双樹ト云八本ノ樹ノ下ニシテ
既ニ涅槃ニ入給エリ釈提桓因ハ忉利天ノ王三十三天ノ人雲ノ
上ヨリ下テ双樹ノ下ニ身ヲ投ケ大梵天王ハ高台ノ閣ヨリ
下リ羅納ノ幢ヲ投ケ捨テ泣キ悲ム二十恒沙ノ羅刹ノ王」 84ウ

閼絶躋地シテ世尊ノ入滅ヲ悲ミ八十恒沙ノ師子王ハ身ヲ投ケ
世尊ノ御前ニ臥ス尼連禪河ノ水モ涙ニ添テ深クナレリ沙羅双
樹モ半ハ枯テ翠ノ色ヲ変ス力士生死ノ草色涙ニ染テ紅也
加葉尊者鷄足山ニ入定シ玉ヒシモ大地震動スルニ驚テ定ヲ

起テ仏涅槃ノ時至コトヲ知テ双樹ノ下ニ詣シテ今一度仏ノ
相好ヲ拝ミ奉ラント申玉ヒシニ釈コトキレ畢玉ヒタル御コト也トテ
棺ヲ開カネハ仏自棺ノ内ヨリ出サセ玉ヒキ迦葉問テ法ヲ説キ
給ヒ并金棺ノ内エ入セ玉ヒヌ天眼第一阿那律尊者忉利天

ニ上テ釈尊涅槃ニ入玉ヘリト申セハ摩耶夫紫雲ニ乘リ天」 85オ
女ヲ變テ下玉ヘハ仏又金棺ヨリ出テ摩耶夫人ノ為ニ法ヲ説玉フ仏ノ
最後ノ説法ハ只偏ニ孝養報恩ノコト也更ニ又他事有コトナシ
梅檀薪ニ積籠參テ人火ヲ懸レトモ仏ノ御身焼玉ハス龍火
ヲ懸トモ焼玉ハス天人ノ火ヲ懸トモ天ノ火ニモ焼タマハス仏自ラ御
胸ヨリ火ヲ出シテ薪ニ懸テ自ラ焼テ五色ノ玉ニ成リ玉ヒヌ爰ニ十六
ノ大国ノ王走セ集テ仏ノ御舍利ヲ諍テ已ニ二軍ニ及フニ仏ノ御

二十恒沙ノ羅刹ノ王閼絶躋地シテ二十恒沙ノ獅子王ハ身投ケテ世
尊ノ御前ニ臥シ閼絶躋地シテ【華】

加葉尊者鷄足山ニ入定シ玉ヒシモ大地震動スルニ驚テ迦葉尊者ハ
大地ノ震動スルニ驚テ【華】

釈尊涅槃ニ入玉ヘリト摩耶夫人ニ釈尊涅槃ニ入玉リト【華】

孝養報恩ノコト也更ニ又化事有コトナシ孝養報恩也【華】

走セ集テ仏ノ御舍利ヲ諍テ走テ是ヲ望殊ニ八国ノ諸王仏ノ御舍利
ヲ諍テ【華】

イトコノ阿難^ナ律尊者八国ノ諸王ニ向テ云ク大王達ハ皆仏ノ御

弟子也豈ニ物ノ命ヲ害スヘケンヤ然レハ正ニ別カツテ諸王ニ与エ奉

ラントテ香姓婆羅門ヲ請シテ是ヲ分テ与シム香姓婆羅門八ノ」85ウ

器物ヲ造テ如来ノ御舍利ヲ分チ与テ供養セシム香姓婆羅門

ハ一粒モ不錯舍利ヲ量レル器ヲ得テ塔ヲ立テ供養ス当初^{ソノカミ}

ノ感^{カシト}得ク去難シ増シテ諸余ノ人ハ一粒ノ舍利モアタハス仏ヲ焼キ奉
ル跡ノ土灰ヲ尋取テ塔ヲ立テ供養ヲナス如此ノ仏ヲハ尊クシ

舍利ヲハ重クシ奉也釈尊八相ノ至極利益ハ舍利ト成テ衆生

ヲ濟度シ玉フコト殊ニ勝レ玉ヘル也八相者 一生天相 二託胎相

三出胎相 四出家相 五降魔相 六成仏相 七法輪相 八涅槃

相 一生天相ト云ハ最後身生天上ニ法会ヲ設テ諸天為ニ法

ヲ説玉フ 二託胎相トハ蘭日尼園ニテ母ノ淨胎ヨリ出給相 三淨

「86オ

飯王宮エ入玉ヒコトノ相 四出家相トハ生死病死ノ四苦ヲ厭テ六年

苦行コト 五降魔相太子苦行後菩提樹下ニシテ仏ニ成玉ハント

セン時三界ノ魔王降伏シ玉ヒシコト 六成道相トハ金剛坐上ニシテ

仏ヲ成給ヒシ有様也 七轉法輪相トハ仏ニ成玉ヒテ後四十九年法

物ノ命ヲ害スヘケンヤ然レハ正ニ別カツテ―物ノ命ヲ害スルハ破戒
也分テ【華】

供養セシム―八国諸王請取之ヲ面々ニ供養ヲ展フ【華】

当初ノ感得ク去難シ増シテ諸余ノ人ハ一粒ノ舍利モアタハス―其余
ノ人ハ一粒ノ舍利ニモアタラス【華】

仏ヲ焼キ奉ル跡ノ土灰ヲ尋取テ塔ヲ立テ供養ヲナス如此ノ仏ヲハ尊
クシ舍利ヲハ重クシ奉也―或ハ仏焼キ進セタル灰取テ塔ヲ立テ供養
シ或ハ仏ヲ焼進セタル跡ノ土ヲ取テ塔ヲ立テ、供養スル事如此仏是
ヲ貴ミ奉ル【華】

八相者 一生天相 二託胎相三出胎相 四出家相 五降魔相 六成

仏相 七法輪相 八涅槃相―なし【華】

蘭日尼園ニテ母ノ淨胎ヨリ出給相―天上ヨリ光ヲ放テ母ノ摩耶ノ胎
ニ宿玉フ有様也【華】／三淨飯王宮エ入玉ヒコトノ相―二出胎相者

蘭毘尼園ニシテ母ノ右脇ヨリ出玉イ淨飯王宮エ入玉フ事也【華】

生死病死ノ四苦ヲ厭テ―生老病死ノ四ノ苦ヲ厭テ王宮ヲ出テ剃髮【華】

ヲ説キ玉フコト也 八涅槃相トハ仏八万ノ聖教ヲ説キ畢涅槃ニ入
テ荼毘後舍利ト成玉ヒシコト也此八相皆上ニ書ケリ其次第

ヲ知ヘシ大概如此也

「 86ウ

舍利ト成玉ヒシコト也此八相皆上ニ書ケリ其次第続キヲ知ヘシ大概
如此也——舍利ヲ留玉フ事也已上八相如此【華】